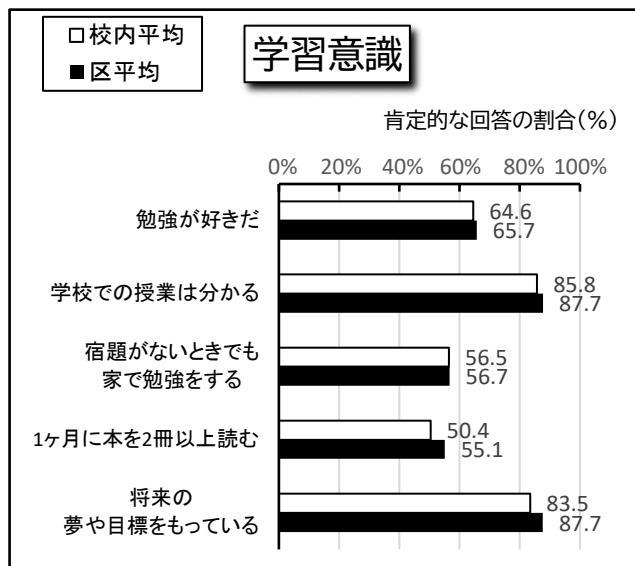
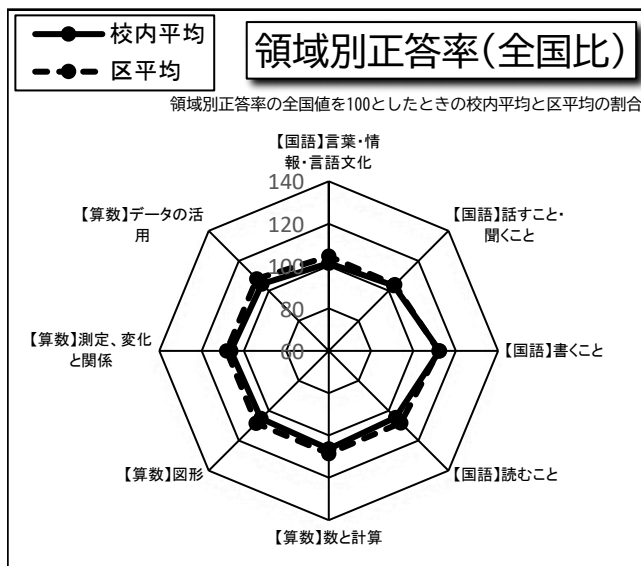


各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

小学校

青井	1	弘道	19	辰沼	37	東綾瀬	55
足立	2	弘道第一	20	寺地	38	東伊興	56
足立入谷	3	江北	21	舎人	39	東加平	57
綾瀬	4	古千谷	22	舎人第一	40	東栗原	58
伊興	5	皿沼	23	中川	41	東湊江	59
梅島	6	鹿浜五色桜	24	中川北	42	平野	60
梅島第一	7	鹿浜第一	25	中川東	43	湊江	61
梅島第二	8	鹿浜未来	26	中島根	44	湊江第一	62
桜花	9	島根	27	長門	45	保木間	63
扇	10	新田	28	西新井	46	宮城	64
大谷田	11	関原	29	西新井第一	47	六木	65
興本	12	千寿	30	西新井第二	48	本木	66
加平	13	千寿桜	31	西伊興	49	弥生	67
亀田	14	千寿常東	32	西保木間	50		
北三谷	15	千寿第八	33	花畑	51		
栗島	16	千寿双葉	34	花畑第一	52		
栗原	17	千寿本町	35	花畑西	53		
栗原北	18	竹の塚	36	花保	54		

青井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	85.4	83.9	90.5	88.1	88.0	86.0	77.6	83.7	91.7	86.7	78.8	75.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.1	84.3	89.8	87.8	83.3	81.3	88.5	88.5	78.4	82.4	84.8	80.4
平均正答率(R8)	74.0	75.4	88.8	85.6	84.9	85.8	70.3	74.7	72.1	74.0	61.4	63.7
平均正答率(R7)	78.3	79.1	84.7	86.1	86.0	85.3	82.1	77.7	67.6	77.7	74.3	70.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

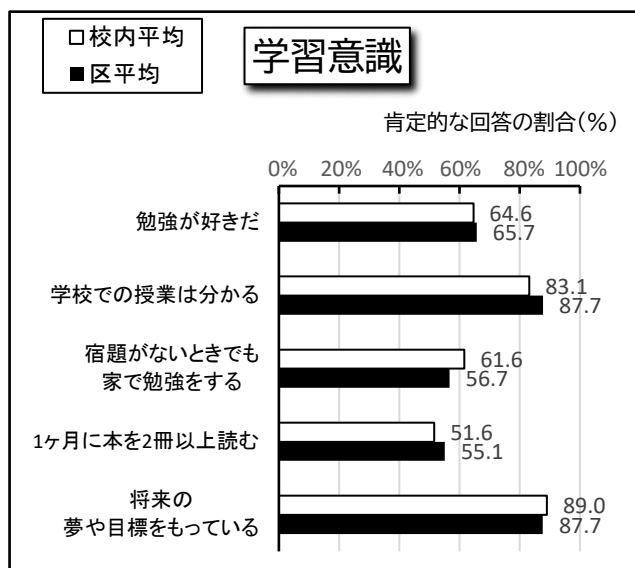
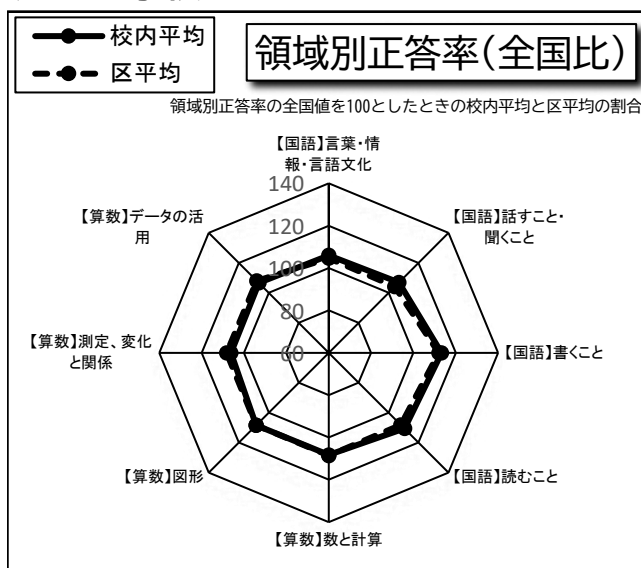
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、国語85.4%、算数83.9%であった。前年度と比較すると、国語は0.3ポイント上昇し、算数は0.4ポイント低下した。
- 国語の領域別正答率は、区平均と概ね同程度であり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は前年度より向上しており、学習の中で、自分の考えや思いを言語化する機会を継続的に設定してきた結果である。一方、「読むこと」や「言葉・情報・言語文化」は区平均を下回る学年が多く、語彙の習得や読解力の向上が今後の課題である。
- 算数は、2～5年生の通過率が80%以上となり、多くの児童が基礎的な内容を定着させている。確認テストを実施し、未定着な内容について繰り返し学習したことが基礎学力の定着につながったと考える。
- 学習意識調査では、「学校での授業は分かる」と回答した児童は、85.8%で、約9割の児童が授業を肯定的に捉えている。足立スタンダードに基づく問題解決的な学習や授業改善を継続してきた成果が表れていると考える。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週3日間、15分間の昼学習を実施している。AIドリルやプリントなどを活用して、計算や漢字、文章の読解などの学習や読書活動に取り組み、基礎・基本の定着を図る。
- 放課後補習教室「ゆうやけ教室」を全教員で週1回実施し、児童一人ひとり課題に応じたきめ細かな指導を行う。また、放課後自習教室「学Viva」を開設し、家庭学習や自主学習に取り組む機会を確保することで、学習習慣の定着を図っている。
- 全学年で算数習熟度別指導を実施し、児童の学力に応じた指導の充実を図る。また、AIドリルを授業や昼学習などで活用し、一人ひとりの理解度に応じた個別最適な学びを推進する。
- 昼読書や読書句間などの取り組みを充実させ、読書に親しむ機会を確保する。読書習慣の定着を図るとともに、語彙力や読解力の向上につなげる。
- 授業では、自分の考えを表現したり交流したりする活動を継続するとともに「言葉・情報・言語文化」を意識した学習を充実させることで、国語の基礎的な言語能力を育成し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

足立小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.2	83.0	91.2	87.9	98.6	98.6	81.7	78.9	87.5	70.4	91.5	80.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.4	82.4	89.3	96.0	84.0	78.7	84.0	80.2	87.4	83.2	91.6	75.8
平均正答率(R8)	77.7	76.4	88.8	89.0	91.1	93.3	75.7	73.3	67.1	64.0	70.9	69.3
平均正答率(R7)	78.0	77.1	86.1	90.7	84.4	83.1	76.1	71.7	74.5	79.2	73.6	67.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

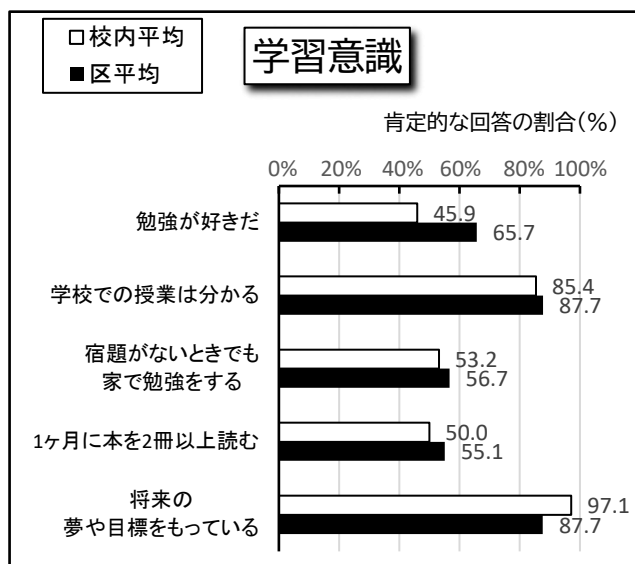
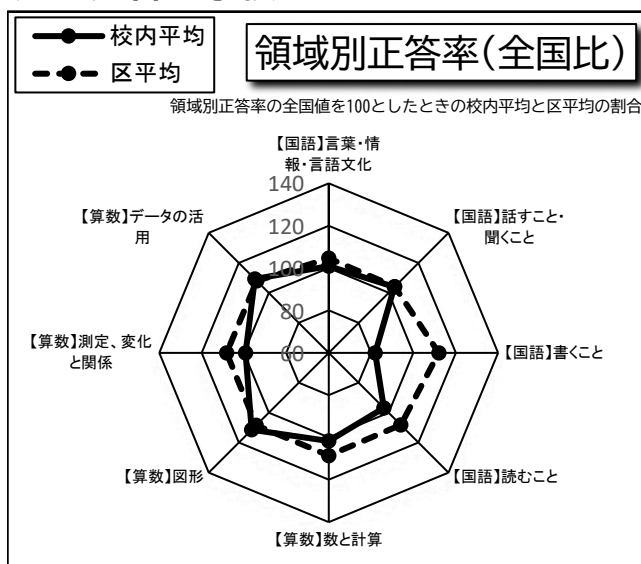
「学習定着度調査」分析結果

学校経営計画の成果目標に掲げる通過率85%については、2・3年は国語・算数共に達成しており、特に3年は98%以上と高い通過率であった。一方、4年は国語・算数共に、5・6年は算数で目標通過率を下回っており、課題が見られる。平均正答率は、昨年度に比べ、特に5年が国語7.4ポイント、算数15.2ポイント低下しており、課題が見られる。領域別正答率は、区平均と同等であった。学習意識調査では、「将来の夢や目標をもっている」「宿題がないときでも家で勉強する」が区平均を上回ったものの、「勉強が好き」「学校での授業がわかる」「月2冊以上の読書」が区平均を下回った。「勉強が好き」については、昨年度から6.5ポイント上昇し、「学校での授業がわかる」は昨年度から4.9ポイント低下した。月2冊以上の読書については、昨年度から1.5ポイント低下しており、区平均と差が広がっている。これらの結果を受け、基礎的な学力の定着やわかりやすい授業の実現に向けた取組を引き続き実施するとともに、勉強が好きな児童を増やしていくための取組を一層進めていく必要がある。また、読書についてもこれまでの取組を改めて点検するとともに、読書に親しむ習慣作りを検討していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①勉強が好きな児童を増やしていくための校内研究を設定する。大学から講師を招聘し、年間を通して『「分かる・楽しい・学びたい」授業の実現』を研究テーマとして、児童の主体的な学び、探究的な学び等を推進するとともに、学ぶ楽しさや「もっと学びたい」という探究心を高め、教師のファシリテート力を向上させていく。
- ②全教科で足立スタンダード虎の巻や足立区教育DX推進プランに基づき、児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や児童同士がやりとりする場面等を意図的に取り入れることで、児童主体の授業へと改善を図り、分かる授業や学ぶことの楽しさを感じることができるよう工夫する。また、1人1台端末の環境を活用しAI型教材の一層の活用を図っていく。
- ③「東京ベーシックドリル」等の結果をもとに、児童が自らの習熟度を把握し、自発的に学び直せる環境を整えるとともに、「パワーアップタイム」（朝の15分間）や水曜日の5校時の「学力向上の時間」の設定により、基礎的な学力の確実な定着を図る。
- ④読書旬間など読書に親しむ活動を充実させるとともに、新たに「朝読書」の時間を設ける。

足立入谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	78.3	80.4	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	87.5	76.9	61.5	62.5	75.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.1	77.8	100.0	87.5	85.7	100.0	92.9	85.7	77.8	77.8	72.2	50.0
平均正答率(R8)	68.1	70.1	89.5	89.6	87.8	90.5	72.2	73.0	62.8	63.6	52.4	57.7
平均正答率(R7)	73.2	73.0	87.5	86.5	85.4	90.5	77.0	74.9	61.6	72.2	64.1	56.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

《国語科》通過率は昨年度より5.8ポイント下回った。特に「書くこと」の課題が顕著である。語彙を豊かにする指導の充実はもちろんのこと、書くことの習慣化と表現力、そして、自分の考えをきちんと順序よくまとめ、整理するところから始めていく。「話すこと・聞くこと」では昨年度よりも上昇し、区の平均に並んだ。今後も引き続き、指導の充実を図っていく。

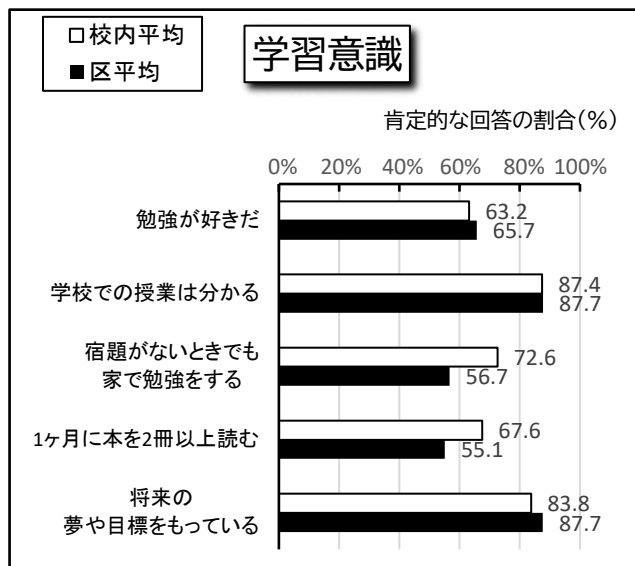
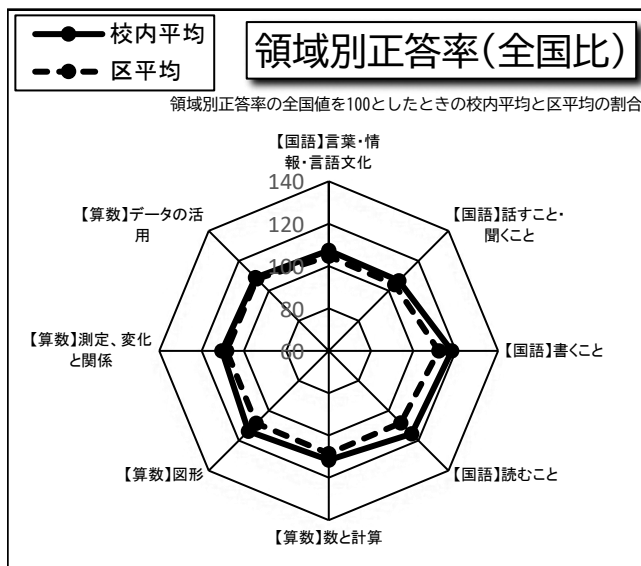
《算数科》通過率は昨年度より2.6ポイント上昇した。「データの活用」「図形」については正答率が上昇した。問題をきちんと理解し、データを読み取ることができている証拠だと捉えている。

《学習意識》「勉強が好きだ」は区平均を19.8ポイント下回り、昨年度より13.1ポイント下回ったものの、「宿題がないときでも家で勉強をする」が昨年度より13.2ポイント上昇している。また、「1か月に本を2冊以上読む」と「将来の夢や目標をもっている」に関しても昨年度より上昇した。教員対象の図書館利活用の研修や全校朝会時における校長講話や朝の会における担任講話、道徳の授業における自己肯定感を上げるノート指導が生きていと捉えている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 一人一台のタブレットを活用した「調べる」「まとめる」「発表する」などの学習に積極的に取り組み、個々のICT活用力向上を、学習意欲の喚起につなげていく。
- 毎週の「作文タイム」で低学年50文字程度、中学年以上100文字程度の作文に取り組ませる中で、書くことへの意欲と表現力の高まりを実感させる。
- 授業では、毎時間自分の考えをもたせる場を作り、それを文章やICTを使い表すようにする。対話的な活動の後には、相手の意図するところを理解する習慣を身につけさせていく。
- 学校独自の漢字検定・算数検定(A☆I検定)を実施し、基礎的な内容の定着を図るとともに、達成感を味わわせる機会とする。
- 1年生を対象に多層指導モデルMIM(毎月)と音読チェック(年2回)を実施し、流暢な読みの定着を図る。
- 図書館利活用を活かし、探究学習を念頭に置いた、児童が主体的に調べたくなる授業を目指していく。

綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	93.4	88.7	97.2	97.2	95.5	96.1	89.0	85.8	92.7	81.2	92.9	81.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.9	86.6	91.7	96.2	88.0	89.5	92.3	92.3	88.2	75.8	83.3	75.0
平均正答率(R8)	79.9	80.1	92.9	94.8	89.8	91.8	77.9	76.6	72.4	70.3	68.5	70.2
平均正答率(R7)	81.2	80.9	88.1	93.0	86.8	86.3	84.9	79.3	71.9	75.3	75.1	69.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【平均正答率及び通過率】

学校全体の平均通過率は、昨年度から国語で4.5ポイント、算数で2.1ポイント、向上した。学校全体の平均正答率は、国語で1.3ポイント、算数で0.8ポイント昨年度より低下したが、区平均と比べると、4年生以外の学年で区平均を上回っている。

【国語】

各学年の単元別正答率を見ると、2～4年生、6年生の「漢字の読み」「言語文化」が、区平均と同等かそれ以下に留まっている。また、4年生では「言葉の特徴や使い方」が、5年生では「聞くこと」「説明的な文章」が、他の単元と比較して平均正答率が低くなっている。

【算数】

単元別正答率を見ると、各学年で単元ごとの定着度に大きなばらつきが見られる。各学年の最も定着度が低い単元は、2年生では「立体図形」、3年生では「時刻と時間」、4年生では「平面図形」、5年生では「立体図形」、6年生では「単位量当たりの大きさ」であり、他の単元と比較して平均正答率が低くなっている。

学校による学力向上への主な取り組み

【国語科：ICTによる基礎知識の確実な定着】

漢字等の定着不足に対し、学習履歴が残るドリルアプリを全校で活用する。個々の進捗やつまづきに応じた反復学習を徹底し、基礎的な知識を確実に定着させる。

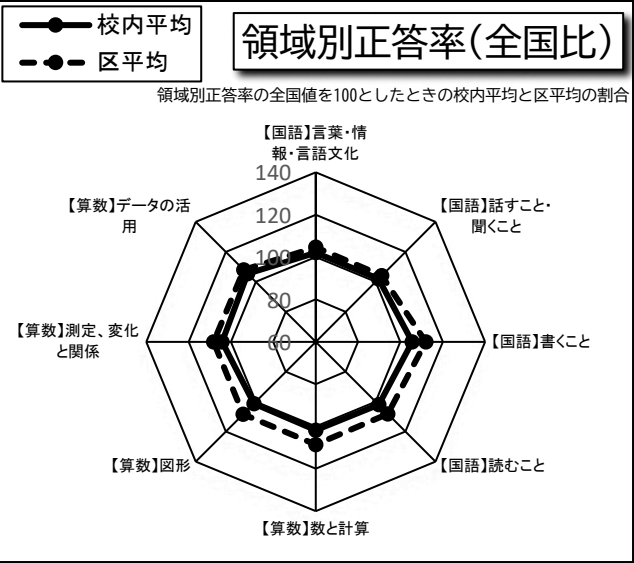
【算数科：デジタル教具による抽象的概念の理解】

図形や量など理解にばらつきがある単元において、端末上で図を動かす等の視覚的・操作的な活動を取り入れる。抽象概念を具体的に捉え直す手立てにより、本質的な理解を促し、算数的な見方や考え方を養う。

【多様な指導体制と放課後学習による組織的支援】

低学年の一部交換授業、中学年の一部及び高学年の教科担任制を生かし、専門性を発揮した授業を展開する。加えて、定着に課題をもつ児童へ放課後学習指導を実施し、質の高い授業と個別支援の両輪で、学校全体の学力を底上げする。

伊興小学校



□ 校内平均

■ 区平均

学習意識

肯定的な回答の割合(%)

	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	83.7	77.2	87.4	92.0	84.1	74.2	77.1	79.4	85.0	69.4	85.2	72.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.7	78.2	90.4	86.7	87.9	83.5	86.0	84.9	82.9	64.6	81.4	69.0
平均正答率(R8)	73.3	72.6	86.8	87.5	82.1	79.1	70.6	72.6	66.7	63.5	66.0	67.2
平均正答率(R7)	77.2	74.9	85.7	86.3	85.5	84.8	78.6	75.3	68.0	71.5	71.2	60.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○令和7年度と令和8年度における正答率および通過率の結果から

【国語】学校全体で通過率が85.7%から83.7%、平均正答率が77.2%から73.3%へ低下した。

【算数】学校全体で通過率が78.2%から77.2%、平均正答率が74.9%から72.6%へ低下した。

国語は昨年度と比べて低下幅が大きく、算数は継続的な課題があると考えられる。

○領域別正答率の結果から

【国語】学校全体で、区の正答率と比較して「書くこと」が－3.3ポイント(学校の正答率が57.1%)、「読むこと」が－3.8ポイント(学校の正答率が64.1%)であった。

【算数】学校全体で、区の正答率と比較して「数と計算」が－4.9ポイント(学校の正答率が73.0%)で、「図形」が－5.1ポイント(学校の正答率が72.1%)であった。国語では文学的文章について、場面の様子や登場人物の様子を想像する力に、算数では問題場面を式に表す力や、作図する力、図形の角度や面積などを求める力に課題があると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

【国語】

・「読むこと」の学習において、文学的な文章の読み取りを充実させる。叙述から根拠を明らかにして考えを書いたり話したりする活動を1時間の授業の中で必ず1回以上設定していく。単元の終わりには、感想など自分の考えを書いてまとめる活動を位置付けることとする。

【算数】

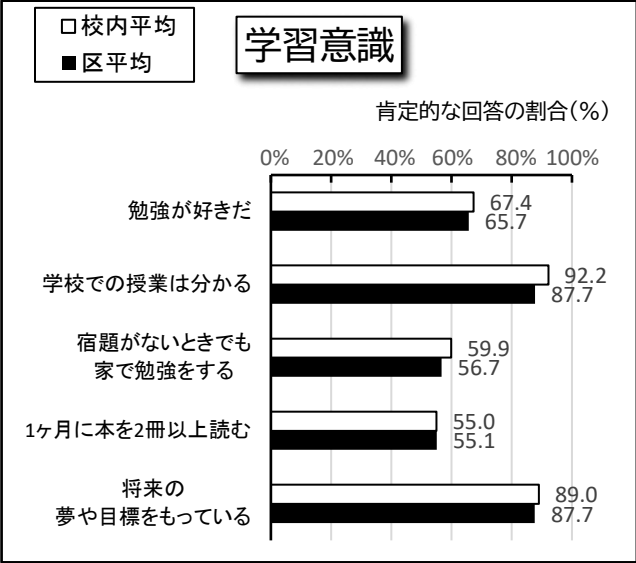
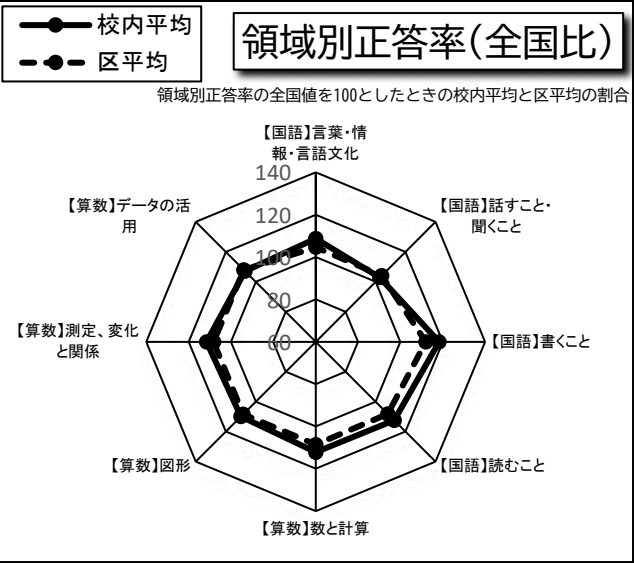
・毎時間、適用問題に確実に取り組ませ、理解が十分でない児童を把握し個別指導へ生かす。

・問題場面を図、式、言葉で表現できるようにする。そのために、自力解決時に、一つの考えではなく、図、式、言葉を使って複数の方法で考えを書いたり、話したりできるようにする。学び合いの時間には、児童の考えを整理するときに、問題場面に立ち戻り、図、式、言葉とつなげて考えられるようにする。

・教員が低学年からの系統性を意識する。児童が自分の課題に合った問題に取り組めるように、A Iドリルのどの問題に取り組むとよいか、がんばり教室などを活用して指導する。

5

梅島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.4	88.6	93.7	89.9	89.1	95.7	85.2	86.5	96.6	85.1	92.9	85.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.0	86.8	87.2	91.5	90.9	83.0	85.6	87.8	88.1	86.9	93.4	84.6
平均正答率(R8)	79.0	79.5	89.1	87.4	88.5	90.5	75.4	79.0	72.6	70.1	72.3	74.5
平均正答率(R7)	80.4	79.9	84.8	86.7	87.6	86.0	78.6	78.3	74.0	81.9	78.3	69.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

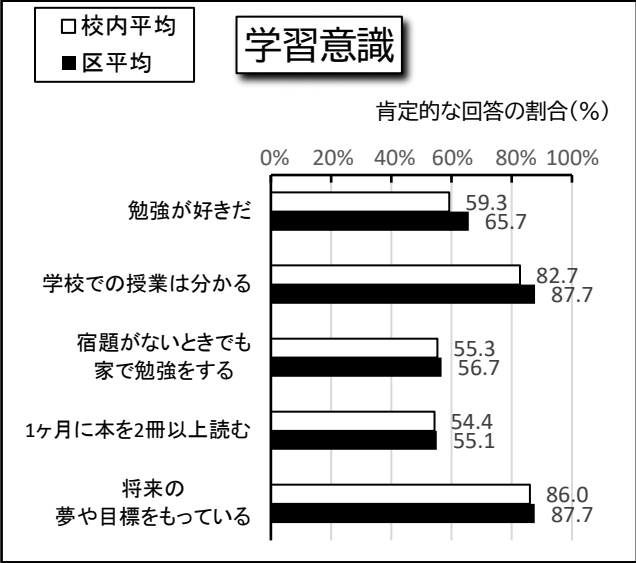
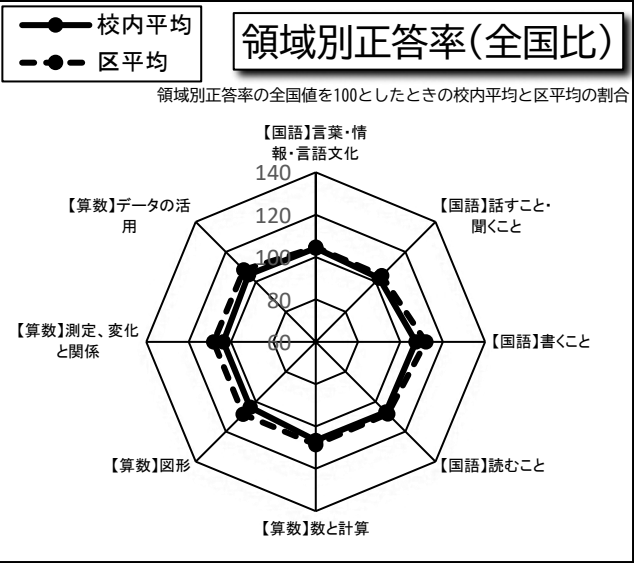
「学習定着度調査」分析結果

- 今年度の学校全体の通過率は、国語は2.4ポイント、算数は1.8ポイント昨年度を上回った。授業改善やパワーアップタイム、放課後タイムを全校で継続して取り組んできた成果である。
- 国語の領域別正答率では、すべての学年で「話すこと・聞くこと」に課題がある。問いの答えやポイントを探しながら聞くことや大切なことをメモする力を育成していく。
- 算数の領域別正答率では、「図形」および「データの活用」の正答率が低い。単元の系統を踏まえ、下学年からの授業改善を行い、確実な学力の定着を図っていく。
- 学習意識では、「学校での授業は分かる」が90%を超えている。全教員が授業改善と授業力向上に努めた成果の表れと考える。さらに、児童の主体性を育てる取り組みを進めていく。「1ヶ月に本を2冊以上読む」は昨年度を5.5ポイント上回った。引き続き、朝読書や読書旬間に取り組むとともに、図書館支援員やボランティアと連携し、読書活動の充実を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全教職員が児童の実態に合わせた指導法の工夫を取り入れた研究授業を展開し、授業内でのつまずきの解消を図る。
- 週3回「パワーアップタイム」を設定し、現学年の漢字や計算など、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指して全児童が取り組む。その際、AIドリルを効果的に活用することで、一人ひとりの習熟度に応じた個別最適な学びを推進する。
- 学習につまずきが見られる児童を対象に「放課後タイム」を実施する。現学年および前学年の学習内容に遡り、個別指導を行うことで基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
- 家庭学習の習慣化に向け、「家庭学習週間」を設定する。「家庭学習カード（自己評価カード）」を活用し、児童一人ひとりに明確な目標をもたせて主体的に取り組ませるとともに、教員による適切な見取りと評価を行う。
- 小中連携では、小中学校間での教科等横断的な視点から、9年間の学習の連続性を高めるカリキュラムや指導法の工夫を行い、義務教育期間を通じた確かな学力の定着を図る。

梅島第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.4	83.3	88.9	86.1	87.9	93.9	89.7	92.3	91.1	75.0	82.9	73.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.9	83.5	78.4	83.8	92.3	87.2	88.7	85.2	80.0	85.7	87.8	75.6
平均正答率(R8)	74.5	74.1	90.1	87.3	82.1	88.9	75.2	77.9	69.2	65.4	64.1	62.0
平均正答率(R7)	79.6	76.6	83.9	85.4	87.5	86.8	80.2	74.4	69.3	80.8	78.1	61.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

学校全体の通過率は、昨年度と比べて+2.5ポイントであった。各学年の通過率は、4・5年生が区の平均を上回ったが、他の学年は下回っている。領域別では、「書くこと」が区の平均を若干下回っているが、他の領域は区の平均とほぼ同値であった。

【算数】

学校全体の通過率は、昨年度と比べて-0.2ポイントであった。各学年の通過率は、3・4年生が区の平均を上回ったが、他の学年は下回っている。領域別では、「図形」「測定、変化と関係」が区の平均を若干下回っているが、他の領域は区の平均とほぼ同値であった。

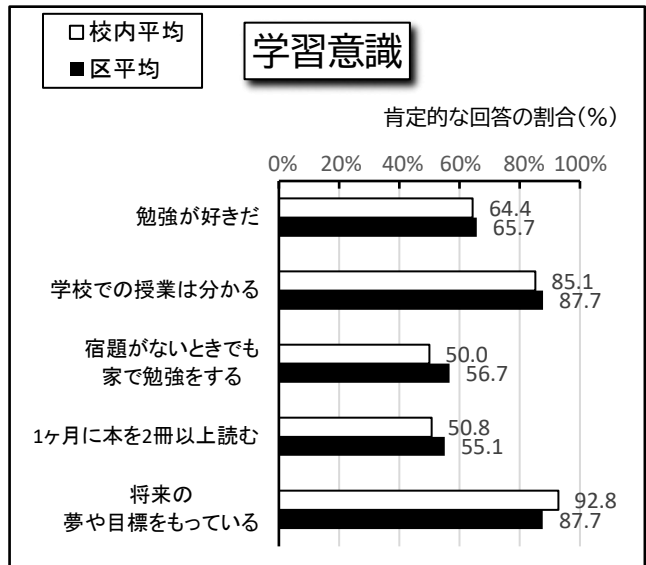
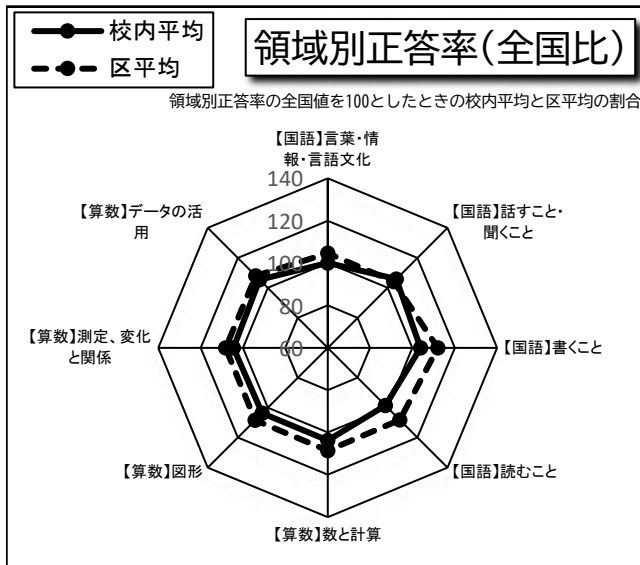
【意識調査】

「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」の項目が区の平均より5ポイント以上下回っている。基礎的な学習内容の定着を図り、分かりやすい授業へ改善していくことが必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内研究、区小研、小中連携、教科指導専門員による指導、教員相互の授業観察と協議、OJT研修等、様々な研修の機会を通して、教員の授業力向上を図る。
- 1校時の前に15分間の朝学習の時間を設定する。朝会や集会がある日を除き、月曜日～木曜日は、AIドリルを活用して国語や算数の基礎的な内容について復習を行う。金曜日は読書に取り組み、様々な本に親しむとともに、語彙力や読解力の向上を図る。
- 放課後に補習を実施する。理解や定着が不十分なところを補ったり、欠席者へのフォローを行ったりして、基礎的な内容の定着を図る。
- そだち指導員による個別指導を3・4年生の対象児童に行い、個々のつまづきを把握して早期解消を図る。
- 各学年の発達段階や実態に応じた家庭学習の課題に取り組ませ、家庭学習の習慣化を図る。

梅島第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	83.1	80.6	84.6	94.9	84.8	90.9	87.1	71.0	83.7	69.4	77.6	79.6
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.0	85.8	83.3	97.2	90.3	87.1	85.1	89.4	90.0	85.7	77.6	73.5
平均正答率(R8)	71.5	72.7	84.1	92.3	83.1	88.5	71.3	65.3	64.5	61.6	64.3	67.5
平均正答率(R7)	75.7	77.7	82.9	90.2	85.4	87.5	76.5	78.1	73.1	82.4	69.0	60.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、国語、算数ともに80%を超えた。前年度に比べて、国語は1.9ポイント、算数で5.2ポイントの減少が見られた。
- ・国語では、「書くこと」「読むこと」領域の正答率が区平均より低い。特に説明的文章と文学的文章を読む問題が課題である。
- ・算数では、2、3、6年生の正答率が前年度より上昇した。一方、4、5年生が前年度より低下した。定着度に二極化の傾向が見られ、その中でも未定着の単元が複数ある児童が学年進行とともに増加している。
- ・学習意識の結果では、「学校での授業は分かる」の回答が85.1%で肯定的な回答が多かった。足立スタンダードにもとづく授業の工夫改善の取り組みの成果と考える。一方で「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の回答が50%で区平均より低く課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

【国語科】

- ・「読み取る力」を身に付ける「αドリル」に取り組み、低学年ではMIMを通し、文字の記号を意味言葉として捉えさせる指導を徹底する。
- ・校内研究、OJT研修を通して、説明的文章の構成をとらえて読み取ることができるように「説明文の家」などを活用していく。

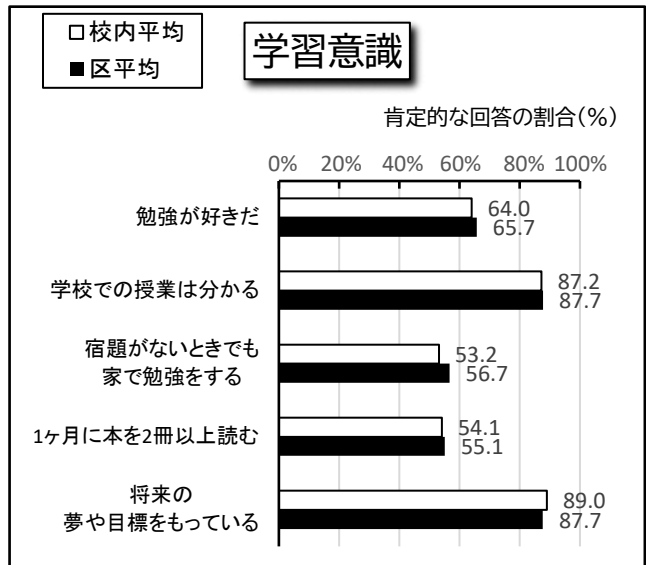
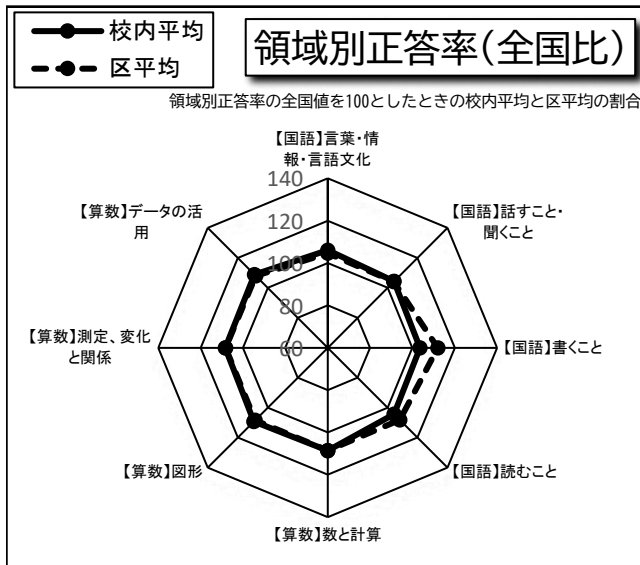
【算数科】

- ・朝学習で「東京ベーシックドリル」や「パワーアッププリント」に取り組み、前学年までの既習事項を確実に定着させ、現在の学年の算数の躓きを低減させる。
- ・サマースクールでは、学力テストの結果をもとに苦手分野に沿った課題に取り組ませる。
- ・習熟度別クラス編成の授業により、基礎が未定着の児童への個別支援を充実させる。

【その他】

- ・家庭学習がんばろう週間を設定し、家庭と協力をして学年×10分の学習時間を定着させる。
- ・読書旬間やおはなし給食といった学校図書館の充実に取り組み、児童の読書量を増やす。

桜花小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.2	84.6	92.2	92.2	81.6	89.8	87.8	92.7	90.4	82.7	88.5	70.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.3	88.5	89.1	97.8	88.1	95.2	97.9	95.8	81.0	78.0	82.8	81.0
平均正答率(R8)	75.4	76.8	86.3	91.3	84.4	88.4	74.8	78.8	73.9	72.5	64.6	62.7
平均正答率(R7)	77.4	82.3	87.0	94.3	85.5	89.7	87.7	85.4	66.1	78.2	71.6	71.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]）の平均値

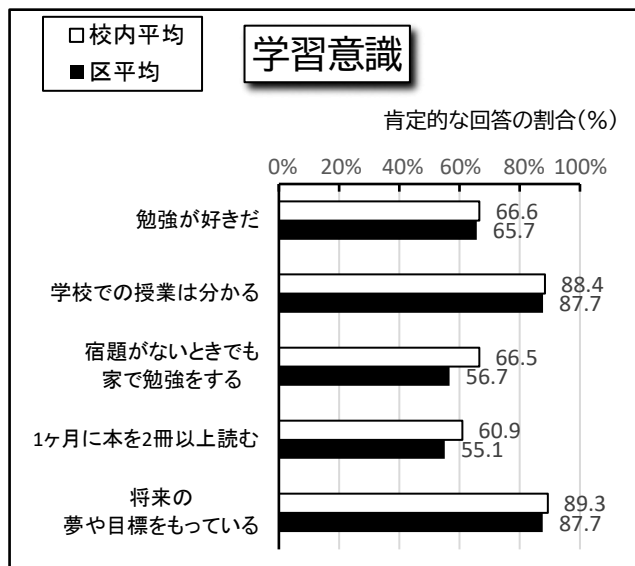
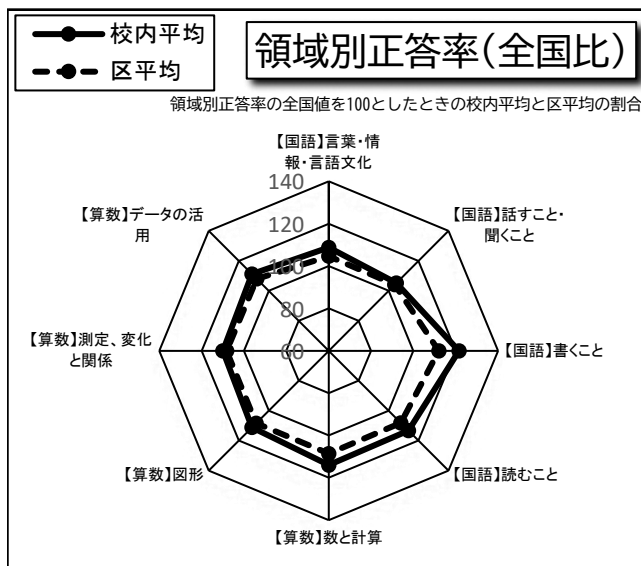
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の国語は、前年度と比べ、通過率が0.9ポイント向上した一方、平均正答率は2.0ポイント低下している。算数は、前年度と比べ、通過率は3.9ポイント、平均正答率は5.5ポイント低下した。
- 国語では、「書くこと」「読むこと」の領域の正答率が全国比・区平均ともに低く、本校の重点的な改善領域である。
- 学年別に見ると6年生の算数は通過率70.5%にとどまった。直方体の体積を求める問題や、小数を分数に直す問題、三角形の外角を求める問題など、基礎的な問題にも課題が見られる。また、長文の応用問題では、正答率が10ポイント未満の問題もあり、与えられた情報から、必要な情報を選択・整理して考える力の育成が必要である。
- 3年生の国語は通過率81.6%であり、昨年度と比べると7ポイント近く低下した。特に正答率の低かった設問はいずれも記述式の問題であり、本文の内容を的確に読み取り、必要な情報を選択して自分の言葉でまとめる力に課題が見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 日常の授業では、区学力調査や単元テストから児童の課題を把握し、実態に応じた練習問題を繰り返し行うことで、学習内容の習熟を図る。さらに、前年度の分析から児童の課題を予想し、授業を構成することにより、一層の定着を図る。
- 放課後学習を週3～4回、設定している。担任と専科の複数の教員で習熟度別に指導し、個々の課題を解消できるようにしている。算数科では、プリントやA Iドリルを使って日々の学習の振り返りや単元テストの振り返りを行い、基礎・基本の徹底を図る。国語科では、読解を中心とした演習問題に取り組み、文章を適切に読み取り、設問に正確に解答できる力を育成する。
- 読書習慣の定着を図るとともに、語彙力や読解力を向上をめざし、学校全体として毎日15分間、朝読書に取り組んでいる。
- 「学校図書館利活用推進校」として、積極的に図書館を活用している。調べ学習や探究的な学習を通して、情報活用能力や表現力の向上を図っている。

扇小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	92.3	88.7	97.1	100.0	93.5	97.8	90.7	93.0	87.8	75.6	93.0	80.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.0	89.1	100.0	100.0	88.6	95.5	97.5	92.5	88.3	85.0	87.5	75.0
平均正答率(R8)	78.1	78.4	92.6	97.4	90.6	91.8	77.6	79.4	72.3	69.1	67.4	66.9
平均正答率(R7)	80.2	80.9	92.7	95.1	89.2	91.5	80.1	78.7	71.3	80.4	75.2	64.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

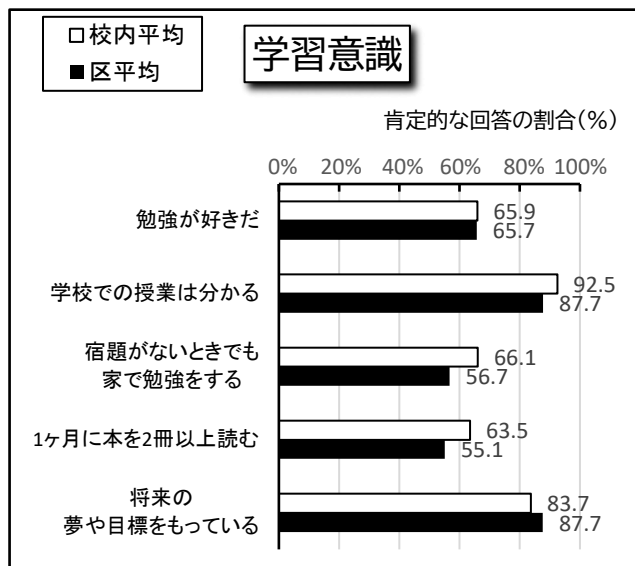
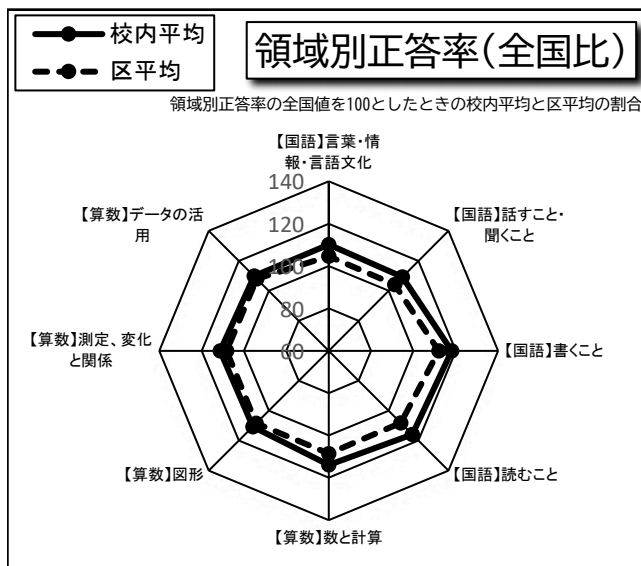
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率が昨年度の結果とほぼ同様の国語92.3%、算数88.7%の割合であることから、引き続きパワーアップタイム（朝学習）や補習教室等の取り組みを継続していく。
- 領域別正答率を見ると、国語では「言葉・情報・言語文化」に課題が見られる。漢字や語彙の基礎・基本を確実に定着させるために、AIドリルを活用した反復練習を行っていく必要がある。算数では「測定、変化と関係」について課題が見られる。児童が量感を体感できるような掲示物等を掲示し、日常的に児童が量感に触れる機会を増やしていく。
- 「話すこと・聞くこと」においては、昨年度から引き続き、特に「聞くこと」に課題が見られる。ポイントを絞って話すための話型を提示したり、メモを取りながら聞いたりするなど日常的に指導していく必要がある。
- 学習意識では「1ヶ月に本を2冊以上読む」が1.2ポイント向上した。図書館司書や図書ボランティアによる読み聞かせ、読書記録カードの活用を通して、本好きな児童が増えてきている。引き続き、児童が本への興味・関心が高まるような取り組みを充実させていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補習教室（扇寺子屋）の取り組み
 - ・設問別分析を基に、学年ごとの重点課題を設定し、教材を選定する。当該学年の基礎学力の定着を図るため、全教員で取り組む。
- パワーアップタイム（朝学習）の充実
 - ・AIドリルを活用し、一人一人の習熟度に応じた学習を進め、計算技能の定着を図る。
 - ・引き続き、初見の音読や短い文章の読解問題に取り組み、読解力の向上を図る。
- 「分かった」「できた」を実感できる授業改善
 - ・足立スタンダードに則った授業に全校で取り組み、児童が「分かった」「できた」を実感できる授業を展開する。
 - ・算数の校内研究に取り組み、全学年で学びのスタイルを共有し、どの学級でも安心して学ぶことができるようにする。また、ICTを効果的に活用し授業力の向上を図る。

大谷田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	96.7	92.3	94.9	93.2	98.2	94.5	96.6	93.2	100.0	95.8	94.3	84.9
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.9	89.9	94.9	96.6	85.7	88.9	100.0	100.0	96.0	90.0	90.0	74.0
平均正答率(R8)	80.9	80.8	89.1	87.2	91.5	89.9	79.8	78.8	79.2	81.3	67.8	69.6
平均正答率(R7)	82.6	82.7	91.2	92.5	86.2	87.8	88.9	87.7	73.9	80.1	75.8	66.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

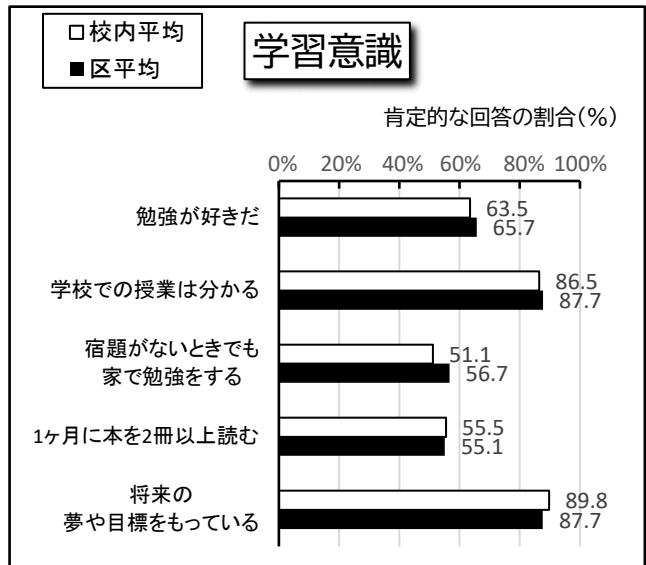
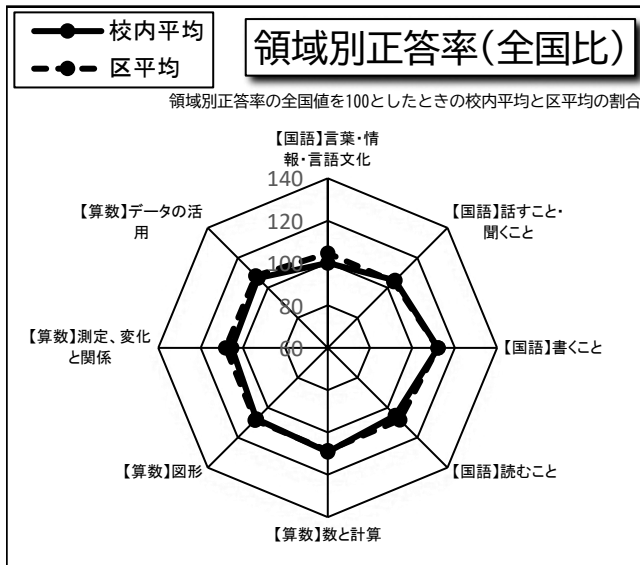
今年度2教科全体の通過率は94.5%で昨年度より大幅に向上し、全学年で当初設定した目標値を大きく上回る成果をおさめた。しかし、4年生「式による表現」や6年生「単位量や割合」などの特定単元や、自らの考えを論理的な数式や言葉で表現する記述式解答に、全校的な課題がある。領域別では算数の「数と計算」、国語の「話すこと・聞くこと」などで強みが見られた一方で、国語の接続語や指示語による文章構造の把握や、算数の小数計算や作図、情報を選択し立式する応用問題の読み取りなど、各学年で定着の不十分さやつまづきが見られる。特に算数では加配教員を活用した習熟度別指導において、既習事項を想起し復習する時間を設けるなど、さかのぼりの指導を一層進めていく必要がある。

意識調査では、授業の理解や読書習慣に対する肯定的な回答が多い反面、学年が上がるにつれて、学級参画への当事者意識や自己肯定感が少しずつ低下している。これに伴い、地域貢献への意欲や、将来に対する夢や具体的な目標をもつ児童の割合が区平均を下回るなど、特に高学年において学習への主体性や自己肯定感の醸成を意識して指導していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

これまでの実践を土台に、デジタルとアナログ双方の強みを取り入れた授業改善を推進する。端末の意見共有ソフト等の効果的な活用と、ノートやワークシートに自らの考えを記述する活動を、学習内容に応じて併用していく。ノート指導に加え、AIドリルによる個別課題に応じた学習や短作文の学習、低学年のMIM指導を継続し、自分の考えを整理して書くことや語彙を増やすことに取り組むことで慣れさせていく。算数では、図や線分図を用いて問題の構造を可視化し、見通しをもって自力解決に向かえるよう指導を工夫したり、考えを言葉や式で説明する活動を組み込んだりして、足立スタンダード虎の巻（青の巻）に沿った授業展開を全校で徹底していく。今後は「授業が分かる」強みや読書・家庭学習の習慣を生かし、学び方を自己選択できる授業を足立スタンダード（緑の巻）に基づき構築し、主体的な学習習慣と確かな学力の定着を図る。同時に、将来への夢や目標を育む特別活動の充実を図り、自己肯定感を高める指導に努める。教員間の密な情報共有と一人ひとりに寄り添った確実な見取りを実践し、学習意欲を高めさせ、学力向上を推進する。

興本小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.9	85.9	95.2	93.5	84.5	89.7	88.5	85.2	85.7	71.4	90.0	88.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.9	87.8	85.7	90.5	89.8	91.5	81.0	87.9	88.9	90.5	83.8	79.4
平均正答率(R8)	74.4	76.8	89.8	88.8	82.1	88.3	77.4	74.6	64.2	67.1	63.2	69.4
平均正答率(R7)	77.3	80.8	85.0	90.3	87.9	89.3	75.2	77.2	70.2	81.6	72.0	69.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

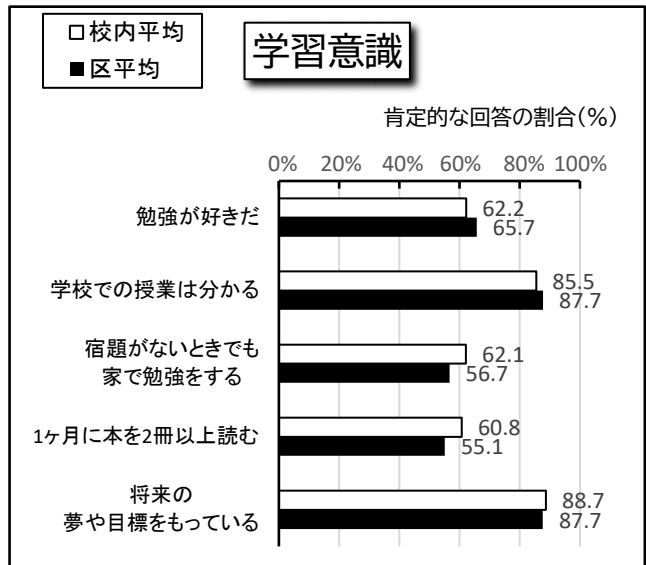
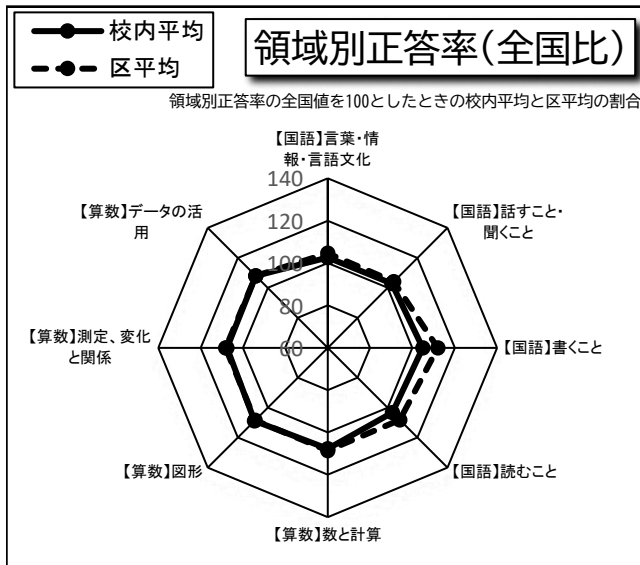
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率を前年度と比較すると、国語は3.0ポイント上回り、算数は1.9ポイント下回った。特定の学年で通過率の大きな低下が見られた。
- 領域別に見ると、国語では、全ての学年で「言葉・情報・言語文化」が区の平均を下回っている。言葉の力を高めるための継続的な言語活動の充実に学校全体で取り組む必要がある。一方で、前年度課題であった「書くこと」「読むこと」についてはどの学年も上昇が見られ、学習過程を大切に身に付けたい力を明確にした指導を重ねた成果が現れた。算数では図形において2ポイント、測定・変化と関係において5ポイント下回る学年がある。特定の単元が未定着の学年では、つまずきを把握し定着に結びつく指導を重ねる必要がある。
- 学習意識調査の結果では、昨年度課題となった「学校での授業はわかる」で0.8ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」で3.5ポイント、「将来の夢や目標をもっている」で2.7ポイント上昇し、わかる授業・意欲を引き出す授業を目指した指導の工夫、読書活動の充実が成果となって現れた。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内の研修を通して、日々の授業改善を行う。「ねらいにせまるめあて」「思考し、表現する活動」「学び合う場の設定」「次につながる振り返り」を意識して指導する。
- 小中連携研修において、デジタル学習基盤を活用した授業研究を年に4回実施するとともに、全教員が授業を参観し合い、主体的・協働的な学習を充実させる。
- 1～4年生は朝の10分間、5・6年生は授業の始まりの5分間の「パワーアップタイム」で、音読・漢字・視写・計算などに取り組み、国語・算数の基礎的な力を向上させる。
- 一人一人の児童のつまずきを把握し、放課後補充教室において、全教員が個別指導を行う。
- 読書活動を推進する。「興本扇の45冊」の選定、年2回の読書旬間の取り組み、朝読書、中学生による読み聞かせなどを通して、本への興味を高め、読書の習慣を身につけさせる。
- 小中一貫教育校の特色を生かして、1～4年生までが中学生による年間6回丸付けにより、学習意欲を高める。1・2年生は年間5回の保護者による丸付けを充実させる。

加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	84.9	86.9	83.3	92.7	84.0	92.0	79.6	87.0	95.6	84.6	82.3	78.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.1	85.4	88.9	94.9	80.2	87.5	92.5	89.2	75.3	71.7	93.8	83.7
平均正答率(R8)	74.4	77.3	84.2	88.3	84.7	90.2	71.7	78.3	72.1	70.4	62.4	63.8
平均正答率(R7)	77.0	77.9	85.8	89.8	81.1	85.3	82.5	79.5	64.2	68.9	75.5	69.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

- ・全校の平均正答率は74.4%（昨年比－2.6ポイント）、通過率は84.9%（同－1.2ポイント）で、平均正答率は5年生以外が区平均を下回っている。
- ・記述式の得点が低く、区平均に対して2年生は7.4ポイント、6年生は10.4ポイント低かった（それ以外の学年は区平均と大きな差はない）。

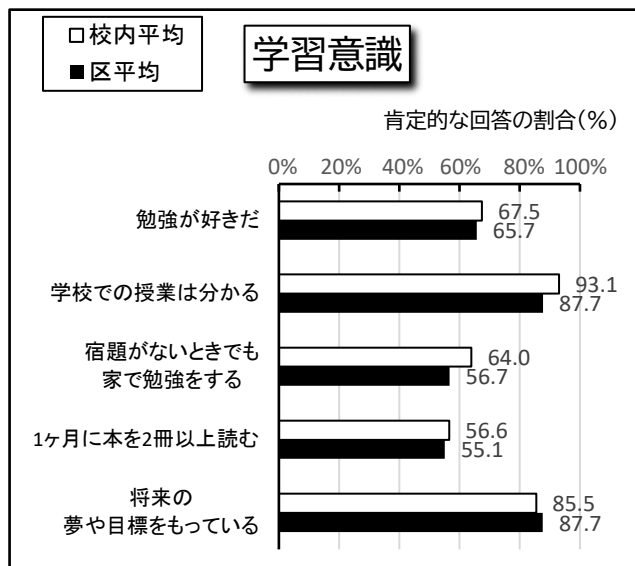
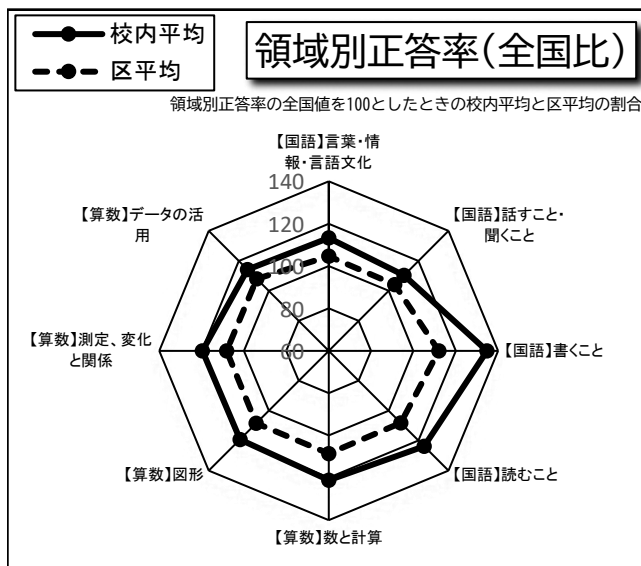
【算数】

- ・全校の平均正答率は77.3%（昨年比－0.6ポイント）、通過率は86.9%（同＋1.5ポイント）で、平均正答率は2年生と6年生以外が区平均を上回っている。
- ・全体的に区平均とほぼ等しい得点状況だが、2年生のみ思考・判断・表現が区平均比－6.5ポイントと大きく下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・モジュール（朝学習）
毎週3回（火曜日、水曜日、金曜日）に15分ずつ、新出漢字を中心に学習している。漢字指導に特化できることに加え、通常の授業では漢字以外の学習に集中できる利点がある。
- ・放課後補習教室（はなまる教室）
毎週2回（月曜日、木曜日）の放課後に、約30分の補習授業を実施している。前学年までの学習内容から単元を3つ（例：3年生…九九、たし算ひき算の筆算、かけ算の筆算）決め3期に分けて指導している。学力調査の解答状況を基に、各クラス5名程度を選んでいる。
- ・九九検定
3年生以上の全児童を対象に、年間3回（2年生は1回）実施し、90点未満の児童には算数専科教員による九九補習を行っている。
- ・読書活動
年間3回の読書旬間で、読み聞かせや読書カードなど読書活動に親しむ機会を設けている。

亀田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	97.9	96.3	97.3	97.3	98.8	97.5	99.0	100.0	96.7	90.2	97.8	96.6
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	97.1	95.4	98.7	100.0	97.1	95.2	96.7	95.6	96.7	97.8	96.6	90.7
平均正答率(R8)	84.2	85.3	92.9	93.4	91.8	92.3	87.7	88.9	77.3	76.6	77.1	80.4
平均正答率(R7)	87.0	86.8	92.3	93.8	91.3	91.5	86.9	84.5	82.1	88.8	84.7	79.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

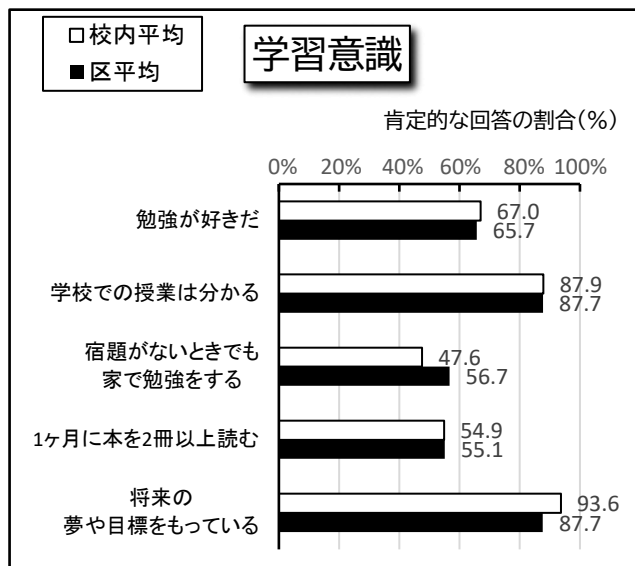
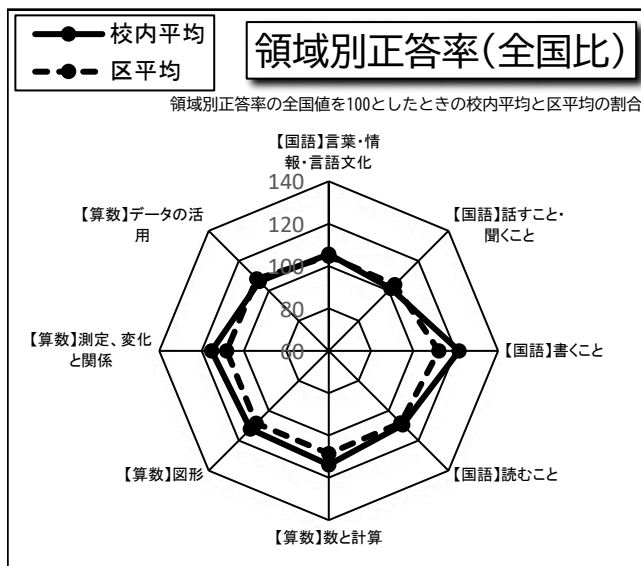
「学習定着度調査」分析結果

- 前年度の結果と比較すると、全校の通過率は国語（97.1→97.9）算数（95.4→96.3）と、どちらも昨年度を上回っている。今年度も全学年で通過率90%を超えるなど、授業改善、パワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習の取り組みの成果が表れている。
- 全校の平均正答率は国語、算数ともに昨年度のポイントを下回る結果となった。
- 国語は、領域別に見ると「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。言葉を正しくとらえ、理解することは「記述」の力を育てることにもつながる。何を伝えられているのか、どう伝えたらいいのか、語句、語型を聞き取る力、読み取る力を育てる。
- 算数は、文章問題の題意を的確に捉えることが引き続き課題である。問題を表や図を基に構造的にとらえる力、立式する力を付け、活用力を高める必要がある。
- 意識調査では、昨年度を上回った項目はなかった。「1か月に本を2冊以上読む」は4ポイント下がっている。読書旬間など全校で本を読む取り組みを生かし、本を読む楽しさを味わえるようにする。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補充教室の取り組み（管理職含む教職員全員で取り組んでいる）
 - ・既習内容の定着が十分でない児童が対象。
- 週2回、始業前の時間を使ったパワーアップタイムの取り組み
 - ・A Iドリルの活用（家庭学習でもA Iドリルを活用できるように授業内でも活用している）
 - ・初見音読や、短い文章の読解問題など、読解力を向上させるための取り組み。
- ステップ学習の取り組み（管理職含む教職員全体で取り組んでいる）
 - ・区学力調査の結果を基に、学年ごとに指導重点課題を分析し、学習材を選定する。習熟度別に指導を行い、当該学年の学習内容の定着率を高められるようにする。
- 全員が目標値を通過できるように全教職員が共通意識をもって日々の授業に取り組む。
- 自主学習の取り組み（内容の自己決定、家庭での学習時間の確保など）
- 読書時間の確保（年3回の読書旬間の設定、図書館を利用した調べ学習の推進など）

北三谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.1	92.3	96.7	100.0	97.1	100.0	81.8	90.9	100.0	97.1	81.3	79.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.8	92.9	91.7	100.0	86.4	95.5	90.9	93.9	86.7	91.1	87.9	84.8
平均正答率(R8)	75.7	79.4	92.1	93.2	90.9	93.6	71.0	76.3	73.0	75.9	62.5	68.3
平均正答率(R7)	78.1	82.6	88.3	94.4	84.0	88.6	81.6	79.2	72.5	84.4	71.6	69.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

通過率は昨年度より2.3ポイント上がった。領域別正答率は、「読むこと」において、8学級中4学級が区平均を下回った。短文の要約や反復音読、本文の叙述から根拠を見つけて答える問題などに、段階に応じて取り組んでいく。

【算数】

通過率は昨年度より0.6ポイント下がった。領域別正答率は、「データの活用」において8学級中5学級が区平均を下回った。算数科の見方・考え方の下地を養い、児童により身近な「生のデータ」を効果的に活用し、グラフの読み取りやかき方について理解を深めていく。

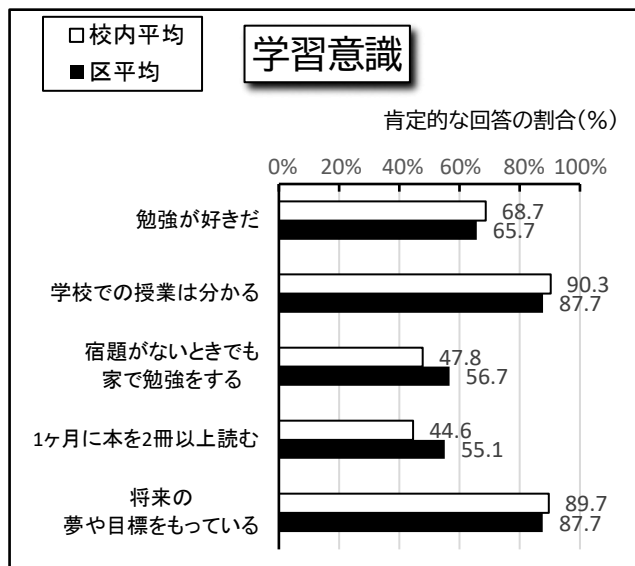
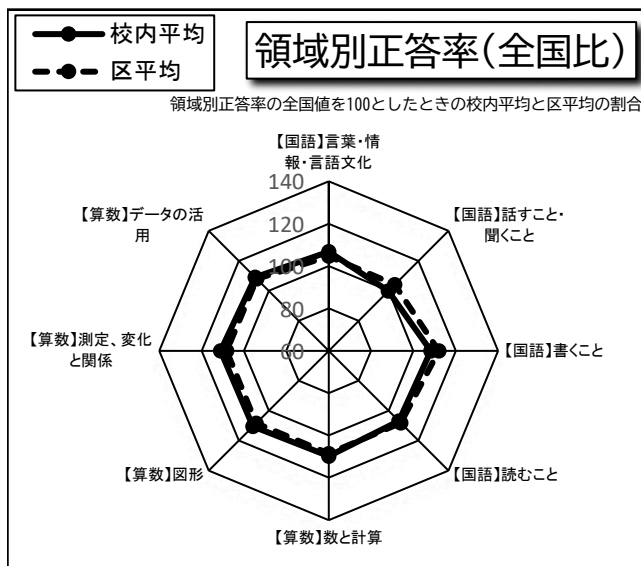
【学習意識】

「将来の夢や目標をもっている」は昨年より上昇が見られ、区平均を大きく上回っている。一方で、学習に関しては区平均を上回っているものの、軒並み昨年より減少傾向が見られるため、日々の授業改善のみならず、家庭との連携を図り、自主学習などへの取り組みを推奨していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 管理職による授業観察、教科指導専門員制度の活用を通して、「北三谷スタンダード」に基づく授業改善と共通実践を徹底する。
- 各学力調査などの結果を分析し、全体的な傾向や個々の状況の把握に努め、定着の十分でない学習内容について、週4日間のパワーアップ2（放課後学習）を計画的に実施し、個への支援を充実させる。
- 東京ベーシック・ドリルを年3回実施・分析し、算数の計算スキルの確実な定着を図る。
- 家庭学習がんばる週間を年2回設定し、家庭と連携を図りながら家庭学習の習慣化を図る。
- 読書活動の推進として、週4日間のパワーアップ1（朝読書）に取り組む。また、年2回の読書旬間においては本の紹介活動などに取り組む。
- ICTを活用した授業実践を通して、児童一人ひとりの学習を見取り、個に応じた課題の解決をしたり協働での場面を意図的に設定したりして、学力の定着を図る。

栗島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.9	89.5	82.5	95.0	94.0	98.0	97.4	94.7	90.5	81.0	85.4	80.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.2	84.8	93.8	93.8	92.1	97.4	89.5	92.1	88.2	80.4	83.9	67.9
平均正答率(R8)	75.8	78.4	84.7	91.7	87.7	90.3	78.2	81.6	68.6	66.1	64.9	68.6
平均正答率(R7)	77.3	77.4	85.6	90.0	88.0	90.8	76.9	78.3	72.7	79.8	70.2	58.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

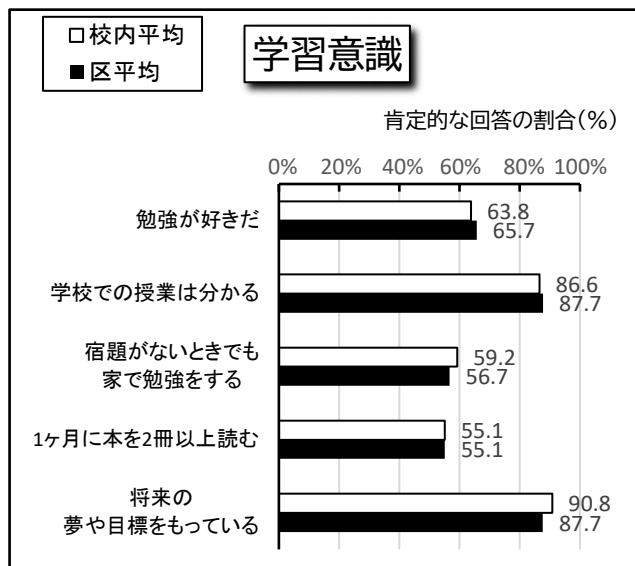
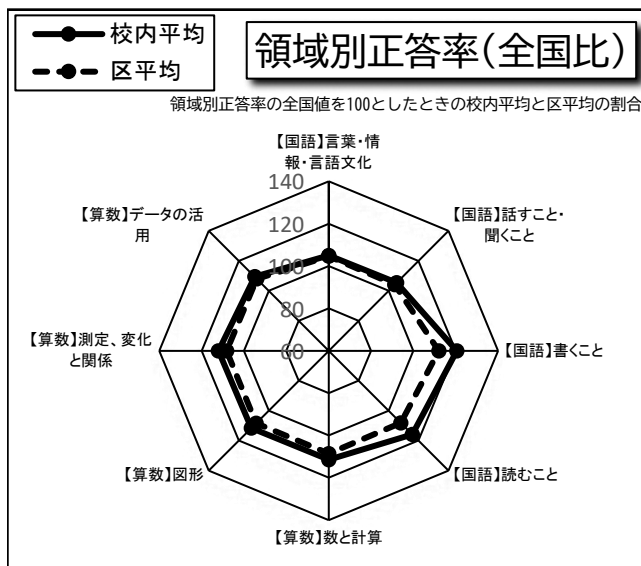
「学習定着度調査」分析結果

- 【国語】通過率は、R7より+0.7ポイント上回り、89.9%であった。正答率は、2年、5年、6年で区平均を0.9～4.0ポイント下回った。
- ・2、3年生は聞き取り問題や文章問題に苦手意識があり、最後まで解答することが難しい。
 - ・3、4年生は、文学的文章の読み取りなど、長文を最後まで読む力が弱い。
 - ・4年生以上の高学年は、漢字の書き取りを含めた言語に関する誤答が目立つ。特に6年生は、敬語と漢字の習得に課題がある。
- 【算数】通過率は、R7より+4.7ポイントで89.5%である。正答率は、区平均より5年生が-1.3ポイントであるが、他学年は、1～4ポイント上回った。習熟度別の授業を展開したことにより、R7より+1.0ポイントで78.4%であった。
- ・2、3年生は、比較的正答率が高かったが、文章問題と時計の問題では誤答が見られた。
 - ・4年生以上の高学年では、かけ算の筆算や小数等四則計算の誤答があり、グラフや合同な四角形、体積等、図形の学習の定着に課題がある。また、A層とD層の差が見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・校内学力研修会では各学年の調査結果を分析し、学校や学年としての課題について共通理解を図る。その上で児童の実態を踏まえ、校内の学力定着に向けての取り組みを再確認する。
- ・1年次から5年次の若手教員は、月に1回、国語と算数の教科指導を受け、足立スタンダードを実践できる授業力を身につける。また、主任教諭と主幹教諭は、学力調査の課題を踏まえた授業公開を行い、教員全体の授業力の向上を図る。
- ・毎水曜日は、全児童を対象とした補習教室を実施する。既習学習の定着を図る。
- ・パワーアップタイムは、児童の実態を踏まえ学年で統一の内容とし、基礎学力定着を図る。
- ・毎月、全児童が詩の暗唱に取り組む。暗唱することを通して、詩の内容を理解し感性を育てることをねらいとする。
- ・AIドリルや東京ベーシックドリル、単元テストの結果を分析し、学習理解の進捗を把握する。
- ・そだち指導やサマースクールにおいて、個別に対応し、基礎学力の定着を図る。

栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	92.7	87.0	100.0	100.0	96.2	94.2	88.9	78.1	93.0	93.0	88.7	75.9
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	93.5	94.2	92.2	100.0	91.5	98.3	98.2	100.0	98.0	87.8	88.5	85.2
平均正答率(R8)	77.5	78.4	92.0	94.3	86.6	88.0	77.2	74.2	76.5	80.2	64.4	66.1
平均正答率(R7)	82.5	84.4	88.9	94.9	87.7	91.5	88.6	87.2	77.5	80.5	74.4	72.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

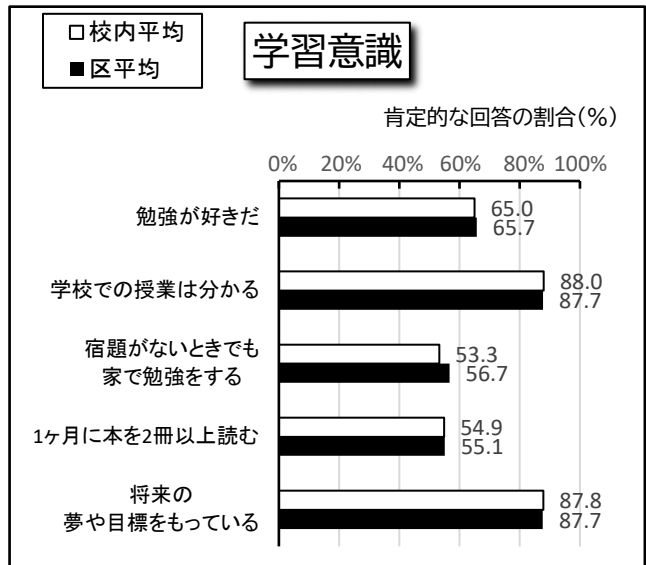
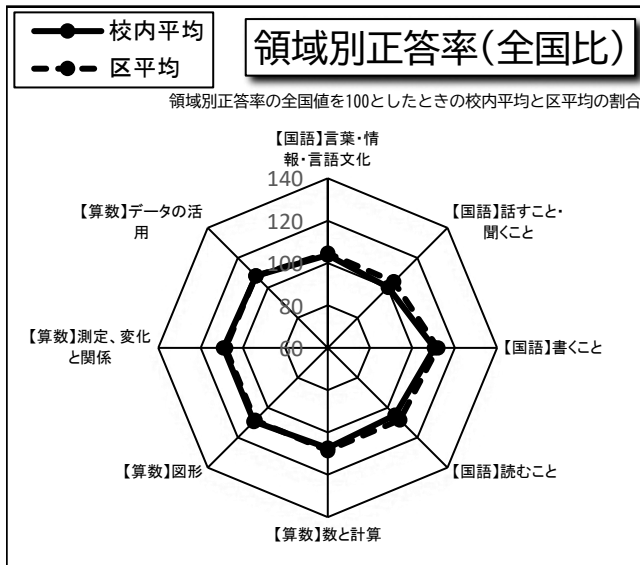
「学習定着度調査」分析結果

- ・本校の領域別正答率では、全領域で区平均を概ね上回っており、特に国語の【読むこと】【書くこと】では、区平均を大きく上回る結果となった。一方でほかの項目は区平均と同程度であるため、引き続き重点的な指導が必要である。今後は、各教科においてICTを活用し、知識を構造化して捉えたり表現したりする力を高めることで、全領域の底上げを図る。
- ・学習意識については、【宿題がないときでも家で勉強する】、【将来の夢や目標をもっている】の項目で区平均を上回っている。特に【宿題がないときでも家で勉強する】の項目は区平均を2.5ポイント上回っている。昨年度の研究テーマであった単元内自由進度学習の成果として、主体的に学習する力や、目標を設定する力が伸びたと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・A Iドリルを授業や宿題、長期休業中の課題で活用し、ワークブックの作成など個々の実態に応じた学習に取り組めるようにする。
- ・放課後学習教室やサマースクールを計画的に行い、つまずきの早期解消を図る。
- ・校内研究で行った単元内自由進度学習を引き続き実施し、児童の自己調整力を高めていく。
- ・総合的な学習の時間における探究学習をとおして、自律的に学ぶ力を育成していく。
- ・読書活動を充実させるため、週に2回の朝読書や年に2回の読書旬間を実施したり、目標冊数を達成した児童の紹介を行ったりして、読書の習慣化に努める。

栗原北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	85.9	83.6	96.7	95.1	77.3	84.1	90.2	90.2	85.2	73.6	74.4	69.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.7	81.5	86.0	88.4	93.4	96.7	90.4	84.6	84.1	79.5	84.4	64.9
平均正答率(R8)	75.5	77.5	90.1	91.9	80.6	86.6	76.3	79.6	69.6	67.3	62.0	64.0
平均正答率(R7)	77.8	75.2	82.6	86.3	88.4	90.6	83.1	78.4	69.8	74.2	70.8	59.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

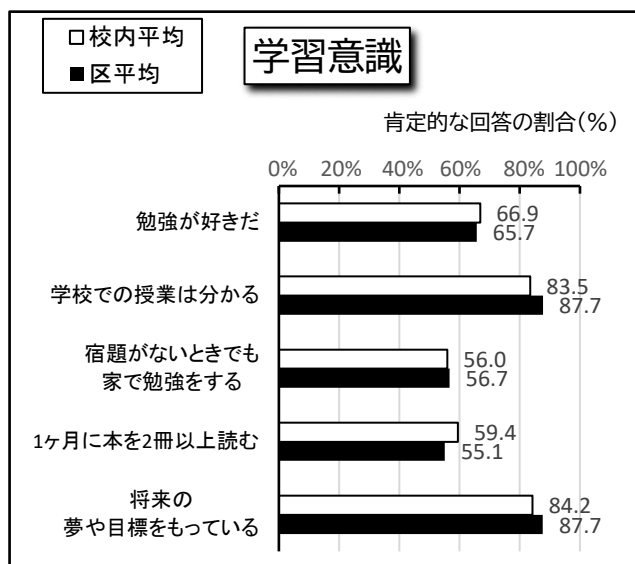
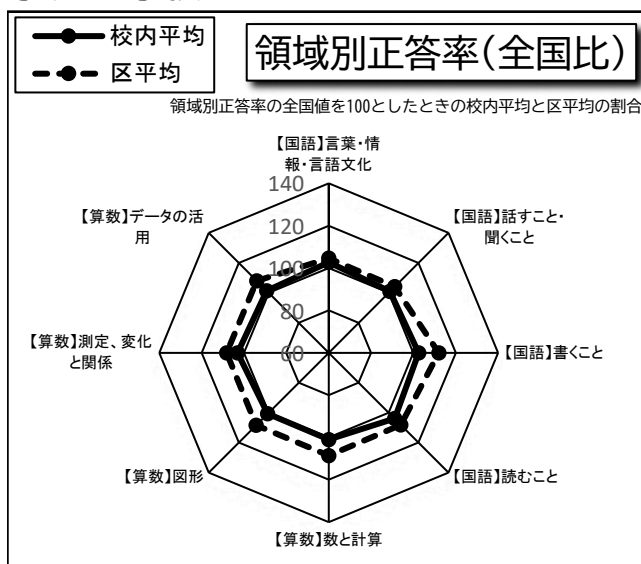
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体では、国語で前年度より通過率も平均正答率も下がったが、算数では前年度より通過率も平均正答率も上がった。しかし、経年変化で見ると3年以上の通過率は、国語算数ともに下がっている。より児童が主体的に学習を進められるようにさせることが課題である。
- ・5～6年生の算数は通過率が80%を下回っており、既習事項が十分に定着していない児童が見られる。既習事項を確認し、学習を進めることが必要である。
- ・「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」「1ヶ月に2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」という問いに肯定的な回答をした児童の割合は、区平均とほぼ変わらないが「宿題がないときでも家で勉強をする」という問いに肯定的な回答をした児童の割合は、区平均を下回っている。与えられた課題に取り組むだけでなく、自主的に学習する児童の育成が課題である。
- ・領域別正答率では、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で区平均を下回った。国語だけではなく、教科横断的に話すこと聞くことを指導していくことが必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業や家庭学習でA Iドリルを活用して、児童一人ひとりに応じた内容で自主的に学習できるように取り組んでいる。
- ・既習事項を活用して主体的に問題解決に取り組む授業づくりを校内研究で取り組んでいる。
- ・週に2回、放課後学習を実施している。学力定着度調査の結果をもとに児童個々のつまづきを把握して、そのつまづきにに応じた内容で全教員が指導を行っている。
- ・週2回朝学習の時間を15分確保して、国語や算数の基礎的な内容の習熟を図っている。A Iドリルも活用して、できなかった問題は放課後学習で取り組ませるなど、理解が深まるようにしている。週1回は、前週の家庭学習で正答率の低い問題の解説を行っている。
- ・年間を通して「読書マラソンカード」に読書の記録を残す。また、年2回の読書週間と読書月間を実施して、全校で読書に取り組む機会を設ける。
- ・夏季休業中にサマースクールを7日間実施して、国語や算数の基本的な内容の定着を図る。
- ・九九検定を3年生以上で実施して、九九の確実な定着を図る。

弘道小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.9	75.2	93.3	93.3	82.1	67.9	92.3	92.3	90.0	67.5	92.5	70.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.5	82.7	79.3	79.3	87.1	90.3	71.8	76.9	90.7	86.0	96.2	80.8
平均正答率(R8)	73.0	70.9	84.2	85.3	78.2	78.0	76.1	77.9	67.7	62.6	70.6	66.9
平均正答率(R7)	77.9	77.6	80.9	83.3	84.9	83.1	70.1	70.2	74.3	79.0	82.1	75.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

昨年と比べると通過率は、学校全体で5.4ポイント上がった。学年ごとの比較では2年生が14.0ポイント、4年生が20.5ポイント上昇した。領域別に見ると区の平均と比べて大きな差は無いが「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。

【算数】

通過率は、昨年度に比べると学校全体で7.5ポイント下がった。学年ごとに見ると、2年生が14.0ポイント、4年生が15.4ポイント上昇した。領域別にみるとほぼ区の平均と変わらないが、「数と計算」「図形」の領域に課題が見られる。学力の二極化がうかがえる。

【意識調査】

意識調査の5項目中「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の2項目で肯定的な回答の割合が区の平均を上回った。「宿題がない時でも家で勉強する」「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標をもっている」の項目では、区の平均をやや下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

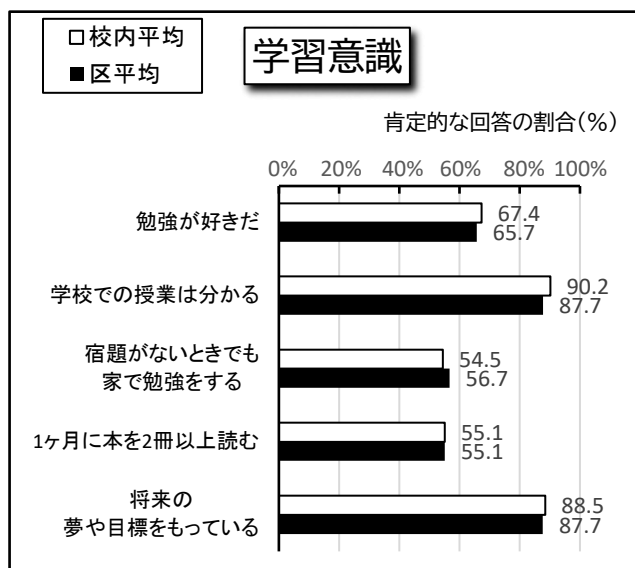
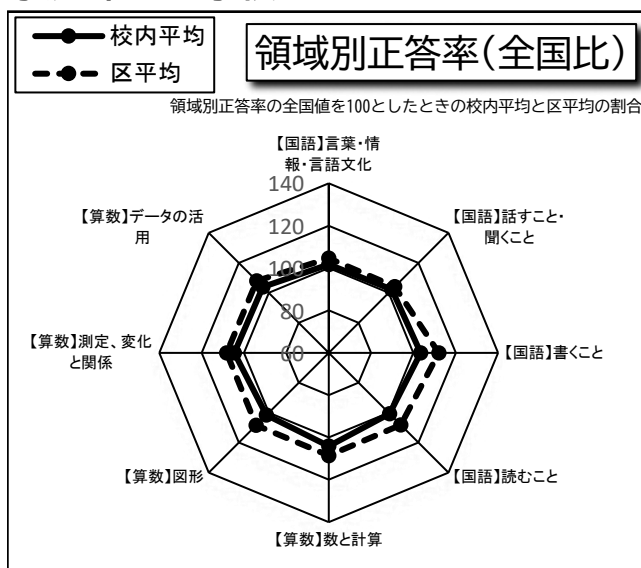
1 日常的な授業・取組の充実

- ①日常授業に重点を置き、校内研究、小中連携授業研究、教科指導専門員による教師の授業改善、足立スタンダードの効果的な活用に取り組む。
- ②東京ベーシックドリル診断テスト、A Iドリルを活用し、定期的な学習の診断を行う。
- ③日常の授業改善（校内研究会や学力向上会議を通して、全教職員で取り組む）
- ④A Iドリル、復習プリントを朝学習、放課後補充教室で行い計算等基礎基本の充実を図る。

2 始業前・放課後の活用・家庭学習の充実

- ①朝のパワーアップタイム、放課後補充教室でのテストやプリントの誤答の確実な直し、特に算数では課題がある学習内容についてA Iドリル等を活用し、基礎学力の定着を図る。
- ②A Iドリルを活用した家庭学習の充実（弱点を分析し、補充を行う）
- ③始業前や放課後の補充指導の充実（データに基づきA Iドリルを活用）
- ④「家庭学習の手引き」を全校配布し、休日の自主学習ノート1日×2ページを行う。

弘道第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	81.7	80.3	97.1	100.0	80.4	82.7	75.0	72.5	80.5	73.2	78.6	75.6
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.0	79.2	78.2	89.1	79.1	93.2	92.3	87.2	78.3	63.0	89.4	63.8
平均正答率(R8)	72.9	73.9	90.9	94.6	81.6	83.6	70.6	66.3	65.8	65.9	61.6	65.6
平均正答率(R7)	77.2	75.6	80.0	87.6	84.6	88.3	80.1	79.2	70.1	67.6	73.9	59.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

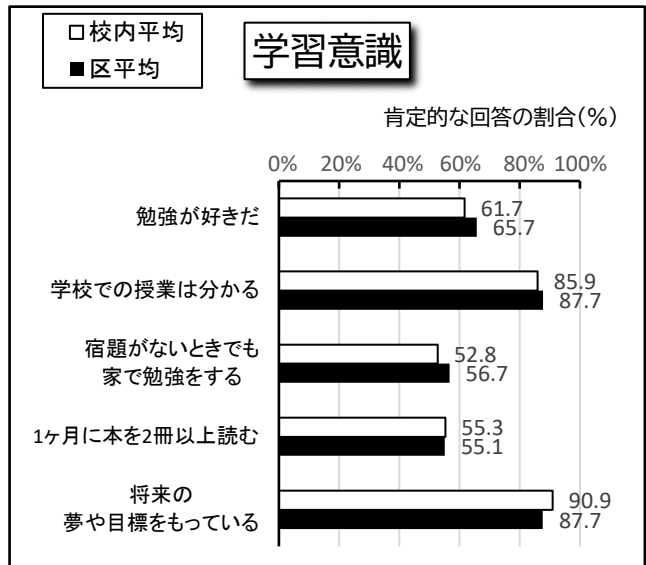
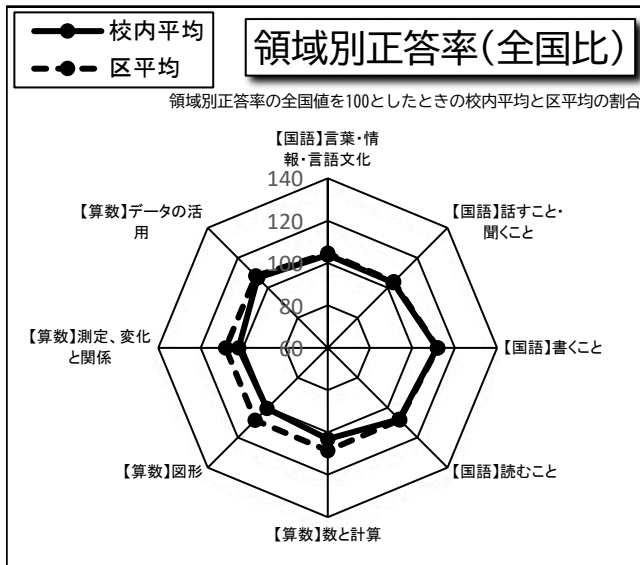
「学習定着度調査」分析結果

- 令和8年度の学力向上アクションプランの目標値（通過率80%）を、国語・算数ともに超えることができたものの、国語については、令和7年度と比較して-1.3ポイントであった。
- 通過率が80%を下回っている学年や教科については、4年生の国語75.0%算数72.5%、5年生の算数73.2%、6年生の国語78.6%算数75.6%であった。特に5年生の算数73.2%が目標との差が大きかった。同一母集団の経年変化で見ると、国語では、現5年生で-11.8ポイントと大きく低下した。算数では、現6年生で+12.6ポイント、現4年生で-20.7ポイント、現5年生では-14.0ポイントであった。全体的に見ると特に5年生に課題が見られる。
- 意識調査においては区平均と比べて下回っていたのは、「宿題がないときでも家で勉強をする」の-2.2ポイントのみであった。自発的に学習する習慣がついていない児童がいることが分かる。一方、「勉強が好きだ」の+1.7ポイントや「学校での授業は分かる」の+2.5ポイントからは、児童の学習に対する意欲が向上していることが読み取れる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「指導力向上中核校」として国語科の「書く」指導について研究を行っている。文を書くことを肯定的に考え、「相手」「目的」「場」の意識を明確にし、伝えたいことをはっきりさせる指導を行っている。研究7年目の今年度についても、モデル文やイメージマップなどの手立てを工夫し、推敲しやすくすることに重点を置いている。書く力の向上を目指し、従来の「書くことへの抵抗を減らしていく」から「書くことが好き」な児童を育てていく。
- これまでの「学力ポートフォリオ研修会」で蓄積してきたクラス・学年・個に応じた課題をもとにし、効果的に解決を図る授業づくりや補習の仕方を探っている。
- 朝学習として「弘一タイム」を火・木・金で設定している。A Iドリルや区調査の過去問等から平均正答率の低い領域を抜粋したり漢字練習をしたりして、内容の定着を図っている。
- 「読書量の向上」を目指し、読書通帳の活用や年2回の読書旬間、1～4年生は毎月の読み聞かせを行っている。読書強化期間に留まらず、目標冊数を達成した児童への表彰を毎月行うことで、児童の読書への意欲を向上させられるようにしている。

江北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.1	80.4	91.1	88.8	75.2	77.0	92.1	87.6	91.7	74.3	90.5	72.4
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.0	84.8	85.7	87.6	85.0	91.1	96.4	87.6	95.0	87.0	83.3	70.4
平均正答率(R8)	76.2	74.0	88.3	85.3	80.5	82.0	77.0	75.6	71.3	65.6	66.0	63.8
平均正答率(R7)	79.3	79.1	84.5	86.9	83.1	89.4	85.3	79.1	74.0	79.9	72.4	63.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【平均正答率・通過率】

学校全体として、昨年度よりも通過率、平均正答率ともに下回った。また、全国の平均正答率・通過率の結果と見比べると、国語は上回る学年が多いが、算数は下回る学年が多かった。国語の領域別平均正答率を見ると、低学年では「読むこと」、高学年では「話すこと・聞くこと」に課題があった。低学年は資料や挿絵と文章を関連付けながら読み取りをすすめ、高学年は日頃から話を聞く指導に力を入れる必要がある。また、算数では昨年度課題であった「図形」領域は低学年に課題が残る、高学年は「数と計算」領域の方に課題が残った。結果から各学年の指導内容の四則計算を確実に定着させる必要があり、低学年は図形を見て、実際に操作しながら、課題に対して、見通し、考える活動に十分な時間をかける必要がある。

【学習意識】

結果から授業改善を行い、楽しい授業展開だけではなく、できる喜びを味わわせる時間、つまり、児童自身が定着を実感させられる時間をつくる必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

【漢字・算数コンテストの実施】 ※毎月満点児童を表彰する。

基礎学力定着を図るため、漢字・算数コンテストを年間8回実施する。算数では単元の復習問題や学力調査の結果を受け、問題を作成し基礎力の定着を図る。

【朝読書の実施】 ※1万ページ以上読むこと（低学年は100冊）ができた児童を表彰する。

朝読書の時間を設定し、読書に親しむ環境を整える。

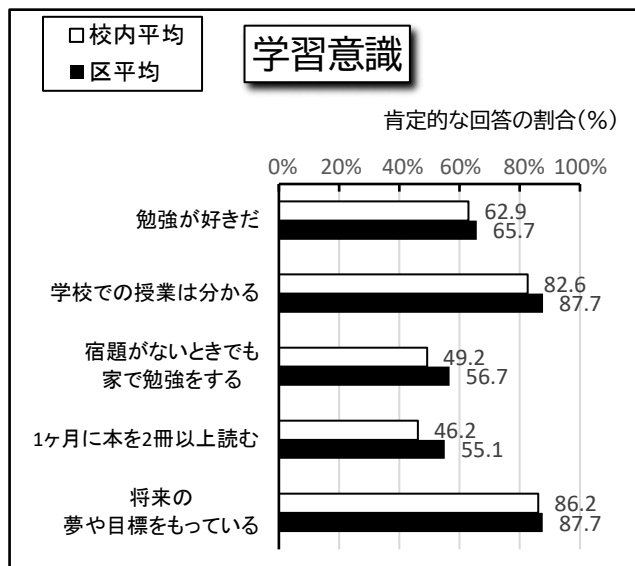
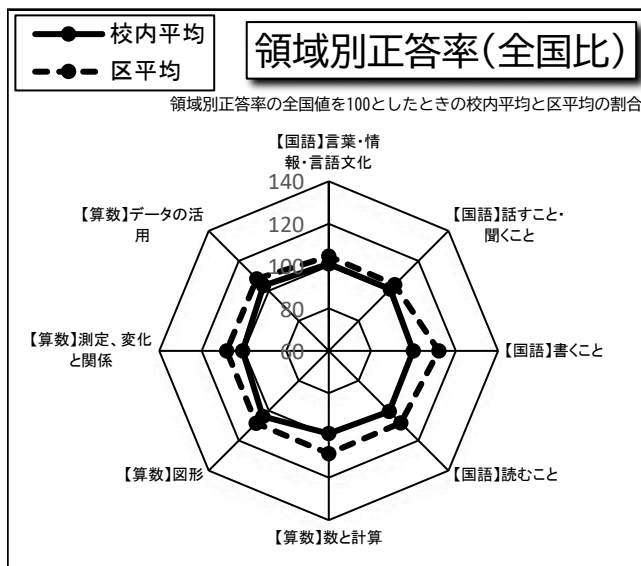
【自主学習ノートの推進】 ※自主学習ノート5冊終わらせることができた児童を表彰する。

自主学習ノートにも取り組み、学習の復習、授業の予習復習など、自分で課題を決めて取り組む。担任が一人ひとりのノートを確認し指導や助言を行い、学習の質や児童の意欲の向上を図る。

【その他】

M I Mに取り組むことにより、文章理解力を向上させる。A Iドリルキュビナを問題練習や宿題として活用し、基礎学力を向上させる。

古千谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	84.6	76.2	87.8	94.5	87.5	87.5	87.9	80.2	78.8	68.2	81.8	55.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.3	83.2	78.3	93.3	85.7	87.9	77.8	81.1	85.9	74.4	95.2	81.0
平均正答率(R8)	71.7	70.6	87.2	92.3	83.0	88.1	73.5	71.3	64.3	60.8	60.2	54.6
平均正答率(R7)	76.8	78.3	82.9	88.4	86.8	88.1	74.8	74.5	67.9	74.2	73.3	68.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体として、平均正答率は国語・算数ともに昨年度（R7）を下回る結果となっている。通過率では国語が昨年度を上回った学年が多い一方、算数は複数学年で低下が見られる。なお、出題内容や目標値は年度によって異なるため、数値は平均値として捉える必要がある。

国語では2・3・4・6年生が通過率80%を超え、特に2年生（87.8%）と4年生（87.9%）は高い通過率を示している。算数では2・3・4年生が80%を超えているが、6年生は55.1%と大きく下回り、基礎的内容の定着に課題が見られる。

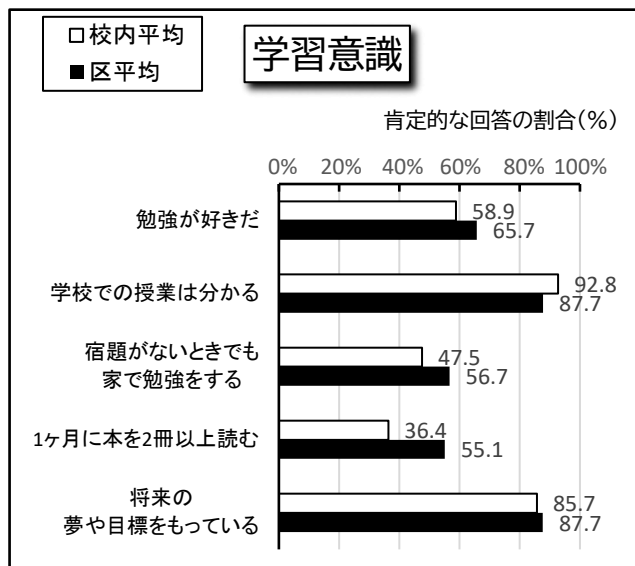
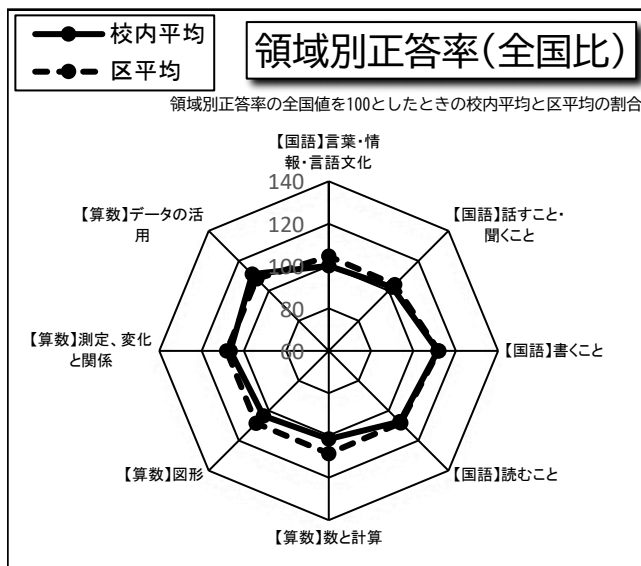
国語では「書くこと」「読むこと」が区平均を下回り、表現力・読解力の向上が課題である。算数では「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」の全てで区平均を下回り、基礎技能の確実な定着に向けた改善が求められる。

「1か月に本を2冊以上読む」は前回より低下し、読書習慣の弱まりが見られる。「宿題がないときでも家で勉強する」は改善が見られず、家庭学習の自立に課題が残っている。一方、「将来の夢や目標をもっている」は86%と高く、児童が自分の将来を肯定的に捉えていることがうかがえる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・学力調査や単元テスト、小テスト等の結果を継続的に記録・蓄積し、SP表分析によるポートフォリオを活用することで、一人一人の学習状況や課題を把握する。また、児童が自らの学習の伸びを実感し、学びを振り返ることができるようにする。
- ・教育課程を工夫して朝と放課後の学習時間を確保し、週3回の全校一斉A Iドリルを実施する。
個人データに基づいた教材を活用し、児童の実態に応じた学習を進めるとともに、放課後の古千谷塾を通して基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・校内研究やO J Tを継続的に実施し、教員の授業力向上を図る。児童が「勉強が好き」「授業が分かる」と実感できる授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成につなげる。

血沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	93.5	80.0	100.0	100.0	90.9	81.8	85.2	92.6	88.9	70.4	97.6	58.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.7	87.4	74.1	81.5	100.0	96.0	90.0	83.9	93.0	97.7	89.8	79.6
平均正答率(R8)	73.8	73.7	90.8	94.8	84.0	85.8	73.9	77.1	64.2	61.4	64.1	59.3
平均正答率(R7)	76.5	77.1	77.2	80.9	91.0	90.2	79.3	77.4	74.0	82.4	71.0	65.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

〈国語〉

○通過率においては昨年度比+3.8%とさらに向上した。「書くこと」及び「読むこと」については全国比を大きく上回っている。継続した授業改善の成果と言える。

●「言葉・情報・言語文化」及び「話すこと・聞くこと」は区平均を下回っている。

〈算数〉

●通過率は昨年度比-7.4ポイントと満足のいく結果を得られなかった。2, 3, 4年生と比較し、5, 6年生の通過率の落ち込みが顕著である。指導計画の見直しが必要である。

●「数と計算」及び「図形」は区平均をかなり下回っている。

〈意識調査〉

●「勉強が好きだ」の項目は昨年度よりも悪化した。ほめて伸ばす授業や自力解決が図れるような授業の徹底が必要である。

●家庭学習や読書習慣の定着を図る取組内容と実施方法の再確認が必要である。

学校による学力向上への主な取組み

〈国語〉

○全学年分の指導事項のつながりと弱点を可視化した「系統的共通指導事項」をもとに、ラーニングマウンテン等を活用しながら各単元でつけさせたい力を明確にした授業を継続する。

●言語理解の知識の習得を充実させるため、朝学習で言葉の学習タイムを新設する。

●「話すこと・聞くこと」の取組として、ペア学習・グループ学習を毎時間行わせる。

〈算数〉

●夏休み前までに「数と計算」及び「図形」の指導評価計画の見直しを行い、全教員が夏休み中に授業改善計画を作り、9月から実施する。

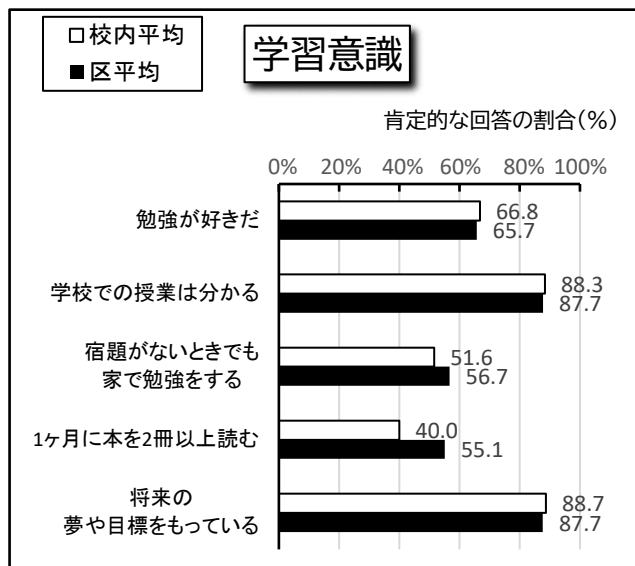
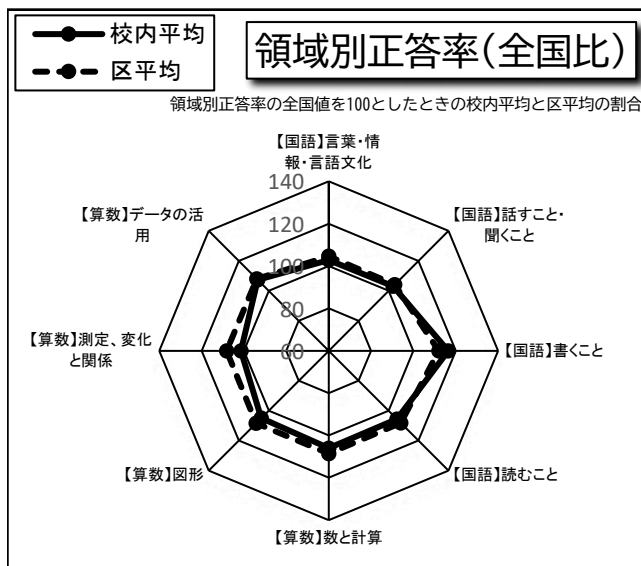
●10月から休み時間を使って「繰り上がり・繰り下がり検定」を校長室にて行い、全員合格をめざす。

●図形領域の指導内容の確認と習熟度別の指導の工夫を共有し、指導に当たる。

〈意識調査〉

●毎日、国語と算数を中心とした家庭学習や毎週1回以上の読書の定着を図る。

鹿浜五色桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.2	79.6	97.9	100.0	95.7	100.0	88.0	84.3	83.1	66.2	84.5	57.6
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.7	81.1	94.0	96.0	83.7	87.8	88.5	82.0	75.8	71.0	87.2	74.7
平均正答率(R8)	73.2	72.6	92.4	95.7	87.2	91.9	74.9	73.6	64.9	61.8	60.1	56.8
平均正答率(R7)	76.2	74.1	87.5	92.1	84.8	85.5	79.4	73.4	64.4	71.4	73.6	61.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】通過率は昨年度比で、3.5ポイント上昇した。モジュールの時間や放課後補習教室の時間を活用した文章読解に関する取り組みや、授業改善の成果が見られる。

【算数】通過率は、昨年度比で1.5ポイント下がった。2，3年生は通過率100%と基礎的な内容の定着が見られるが、学年が進むに連れて通過率が下がっている。持続的な基礎的計算力の定着を図る取り組みや、各学年ごとの苦手な領域への対策、最後まで粘り強く諦めずに取り組む意識改革等、全校で行う必要がある。

【学習意識】「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」と答えた児童は区平均を超え、それぞれ昨年度よりポイントも上昇した。国語科を中心とした授業改善や、放課後補習教室での少人数指導の成果が出ていると見られる。一方で、「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えた児童は昨年度よりもポイントが下がり、区平均も下回った。児童が自発的に学習に取り組む態度の育成を図る必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

○月に一回の全校一斉漢字テスト、2～6年生対象の九九検定、5，6年生対象の区・都道府県名検定を実施することで基礎学力の定着を図る。

○モジュール(朝学習)での取り組み

曜日ごとに、読解、A Iドリル、言語学習と、学校全体でモジュールの時間の内容を決めて取り組んでいる。内容の詳細は、学年ごとに、その学年の課題を確認して設定し、基礎・基本の習得を目指す。

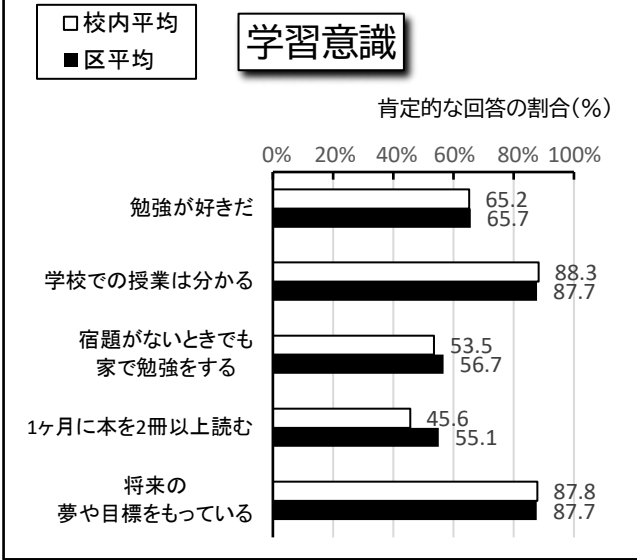
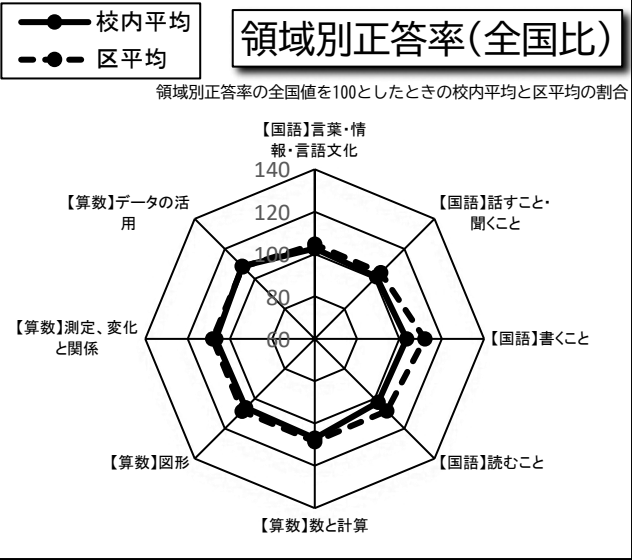
○放課後補習教室(さくら教室)の実施

学力調査やワークテストの結果からC・D層の児童を対象に少人数指導を行い、基礎・基本の徹底や弱点の克服を図る。

○ICTの活用

「一日二回のICT活用」を全校で意識的に取り組むと共に、小中連携でのICT機器の活用方法の検討・授業実践や、外部講師を招いてのICT研修の実施により、授業の質の向上を目指す。

鹿浜第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	86.3	85.0	84.9	93.2	85.3	88.4	87.4	93.0	88.0	75.9	85.3	74.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.3	82.6	80.9	89.9	83.3	89.4	82.4	85.9	89.6	79.2	85.1	67.6
平均正答率(R8)	73.1	76.1	86.4	90.3	83.0	86.2	76.2	80.1	65.0	66.2	62.3	64.6
平均正答率(R7)	77.2	76.1	82.7	87.8	85.7	86.8	77.7	74.5	71.0	75.4	71.1	59.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

本校では、「授業は分かる（88.3%）」、「将来の夢や目標をもっている（87.8%）」など、学習への理解や将来への意識が高いことが分かる。一方で、「宿題がないときでも家庭で勉強をする（53.5%）」、「1ヶ月に本を2冊以上読む（45.6%）」は区平均をそれぞれ3.2ポイント、9.5ポイント下回っており、主体的な学習習慣や読書習慣に課題が見られる。

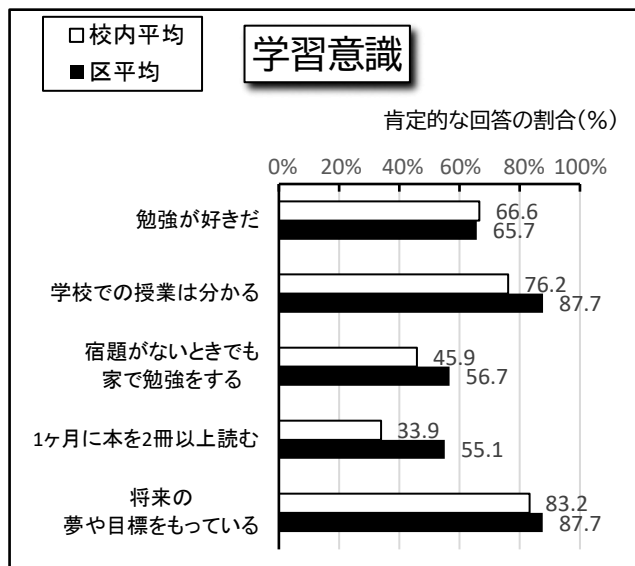
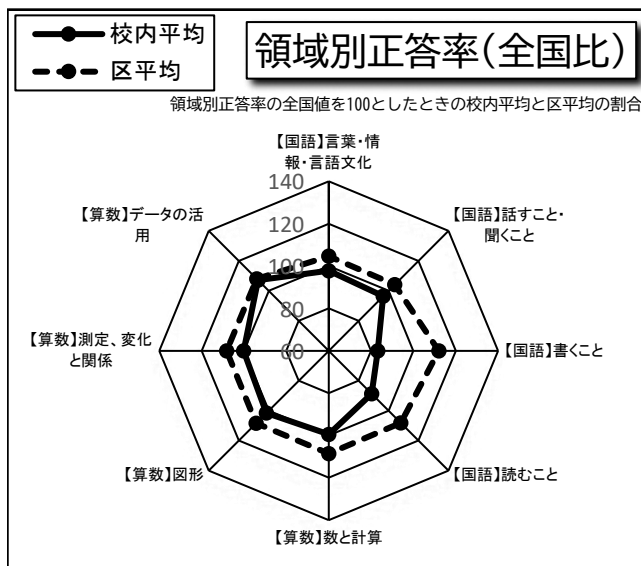
学力面では、学校全体の通過率は国語86.3%、算数85.0%と基礎的な内容は概ね定着しているものの、国語の平均正答率は前年度より4.1ポイント低下している。また、領域別では国語の「書くこと」「読むこと」、算数の「数と計算」「測定・変化と関係」に課題が見られた。さらに、学年別では5・6年生の平均正答率や算数通過率が低く、高学年の既習事項の定着や活用力の育成が課題である。

これらの結果から、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学ぶ必要感や学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを進め、家庭学習や読書習慣を含めた主体的な学習態度を育成していくことが重要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習「パワーアップタイム」
朝の時間を活用して基礎学力の定着を目的に、漢字・計算・読書を行う。年間を通して月毎の学習内容を定め、計画的に学習をすすめる。
- 放課後学習「プレイバックタイム」
学習の定着を図るため、月・火・木・金曜日の放課後に行う。教室では担任と既習の復習を行い、別室では副担任の見守りのもと自主学習を行う。
- 足立スタンダードを踏まえた授業の実施
児童同士で学び合う課題解決型の授業を実施する。また、対話や協働的な学習を取り入れ、自分の考えを説明したり、友達の考えを基に学びを深めたりする授業を推進する。また、小中連携を通して、連携校同士で授業についての共通理解を図り、どの学校も同じ流れで授業を行っていくことで、中学校進学時に起こりえる問題である、「中一ギャップ」に備える。

鹿浜未来小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	74.6	77.6	67.2	88.9	77.5	83.1	72.7	81.8	76.6	70.2	78.9	60.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	69.4	71.5	71.0	76.8	71.9	89.1	70.8	66.7	64.5	58.1	68.8	62.5
平均正答率(R8)	68.6	73.0	78.2	87.6	80.3	83.6	65.6	73.8	60.3	59.9	57.8	60.1
平均正答率(R7)	69.5	71.5	79.0	82.5	81.2	86.9	68.3	65.2	56.1	64.7	63.7	55.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】では、【算数】データの活用以外の領域で、区平均を下回っている。特に国語の「書くこと」、「読むこと」に課題がある。

【学習意識】では、「勉強が好きだ」の項目が区平均を0.9ポイント上回っている。（昨年度比3.5ポイントアップ）

【通過率】は、昨年と比較して、国語は5.2ポイント、算数は6.1ポイント上回っており、継続的に上がり続けていることから、児童の学習が着々と定着してきている様子が伺える。

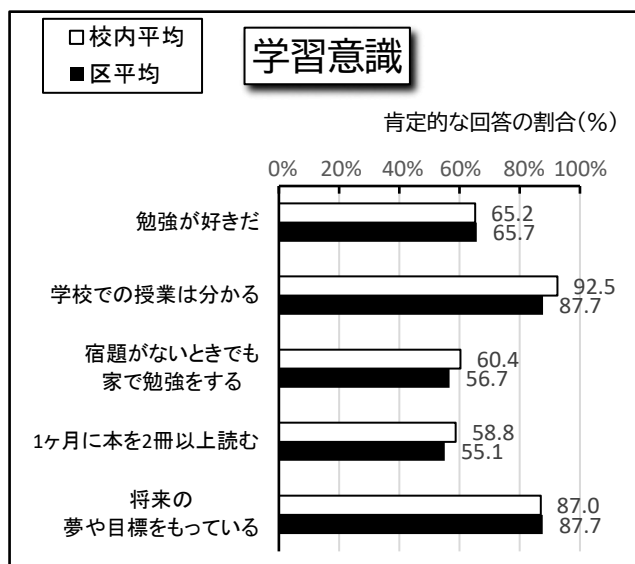
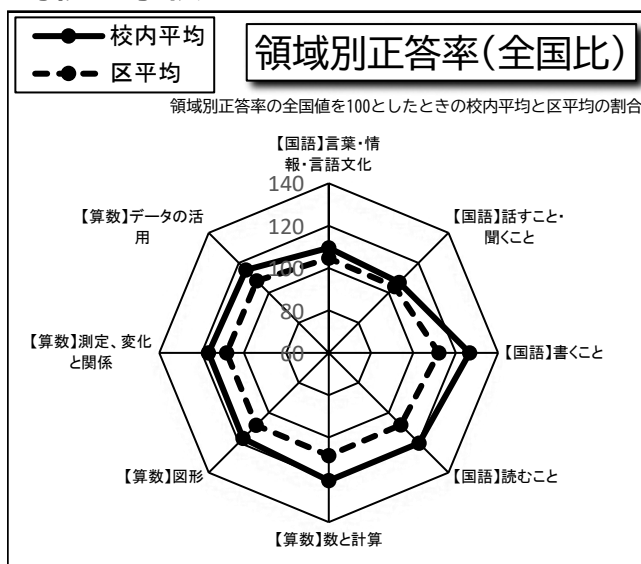
【上記から課題となる点】国語では、昨年と引き続き、自分自身の表したい思いや内容を文で表現したり、問題にある条件のもと作文をしたりしていくことに課題がある。

算数では、データの活用の領域以外での、正答率は上がってはきているものの、区平均まで届いていない事実から、より既習事項の定着に力を注いでいくべきと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・学習意識では、「勉強が好きだ」の項目で区平均を上回っている。児童が学習に対して意欲を見出し始めた兆しと捉え、より「わかる」「できる」を感じ、さらに学習に対する意欲を高められるよう授業改善に取り組んでいく。
- ・朝の「モジュールタイム」では、区調査の「読むこと」領域に課題があることを受け、長文読解演習に取り組んでいる。なぜその解答になったかを言語化できる能力を身につけられるようにしていく。
- ・週に1回の「未来寺子屋」では、国語・算数で習熟度別の授業を行っている。学力定着が十分でない児童は、分からなくなった所から学び直しをできるように校内体制を敷き、管理職を含めた全教職員で児童の学力定着に取り組んでいく。
- ・算数の授業では、足立スタンダード虎の巻に則った授業展開を行い、児童自身で最適な方法を模索し、問題を解決できる授業を展開していく。
- ・授業とは別に、A Iドリルで毎月取り組まなければならない問題数を学年に応じて設定し、学校内外での児童の学習時間を確保していく。（A Iドリルの有効活用）

島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	95.5	94.5	98.8	98.8	94.0	98.5	97.1	92.9	91.4	86.6	96.1	96.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.2	93.0	95.5	98.5	93.1	98.6	87.2	88.4	89.0	89.0	92.4	92.4
平均正答率(R8)	81.1	84.4	92.5	95.0	88.9	92.9	83.4	83.8	73.8	75.6	71.8	79.2
平均正答率(R7)	82.0	83.5	89.2	92.5	88.5	92.3	81.1	78.0	73.5	81.2	81.6	78.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○3年生国語を除いて、平均正答率が国語・算数共に目標値を20ポイント以上、上回った。授業改善、朝学習、放課後補習、そだち指導などの取り組みの成果が表れている。

○通過率は国語が全ての学年で90%以上となっており、基礎的な学習内容を多くの児童が身につけたと考えられる。ただし、国語の言葉・情報・言語文化問題の誤答や未記入が多い傾向にあり、漢字の筆順や正しい書き取り、文章を的確に読み取るための言葉の理解、語彙力の向上が課題として表れたので、今後も繰り返し指導していく。

○算数は、「活用」に課題がある。文章問題を的確に捉えられるよう、半具体物や数直線図に表すこと、言葉に線を引くなど解決の糸口を見つけてから答えを出すことを指導していく。また、記述式の問題に課題が見られるので、問題解決型の学習を通して、解答する力を付ける。

○学習の意識調査では「学校での授業はわかる」は、区平均より4.8ポイント、昨年度の校内より0.5ポイント上回っている。校内研究をはじめ、分かりやすく丁寧な学習指導を続けたため、昨年度より上げることができた。引き続きこれからも行っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

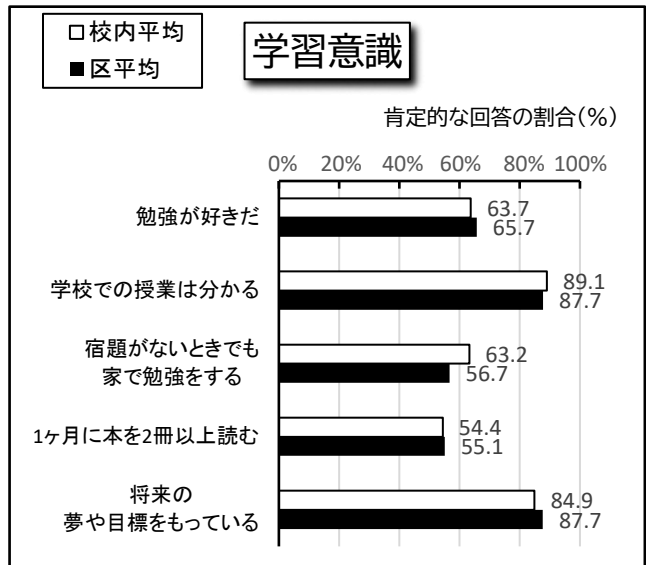
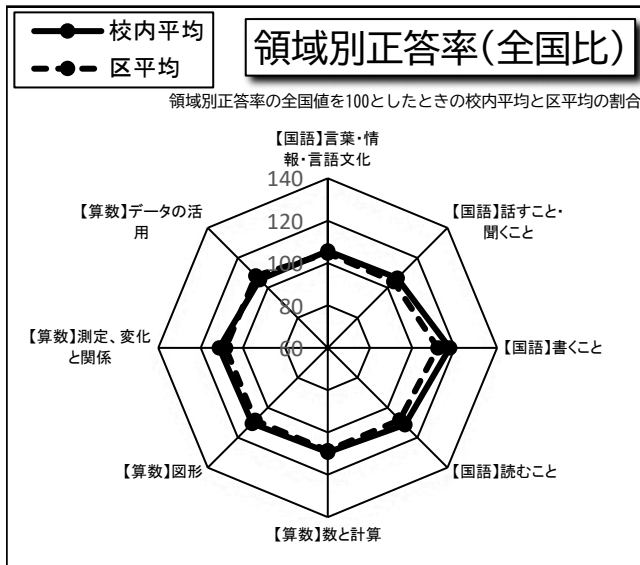
○全学年の対象児童へ毎週火・木曜日に30分間しまねっ子タイム（放課後補充教室）を行う。学習のつまづきを解消するために、対象児童に合わせた課題を準備し、国語と算数の復習を基本に学力定着を図る。

○朝学習では、漢字学習、言語事項に関するプリント学習、算数はA Iドリルや東京ベーシックドリル、SYENの復習プリントを活用し、学力向上を図る。

○読書活動の推進として、各学年の目標数値の設定、年2回の読書旬間、教師による読み聞かせを行う。本に親しみ、幅広いジャンルの本を手にとり、本を好きになる児童を育てる。

○児童の主体性を育てるために、児童がやってみたいと思う課題や導入を工夫し、「できた」「わかった」を実感できる授業を実践する。特に算数は、習熟度別指導で児童の実態に合った授業を展開し、児童の基礎・基本の定着を図る。また、児童が得た知識を知恵に高め、自分の力として活用できるよう、ICTを活用して、考えを比較・検討する場面を多く設けるよう校内の研究を推進する。

新田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.3	84.8	86.3	91.5	84.6	87.0	93.1	86.8	89.7	77.1	95.8	83.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.9	87.6	85.5	89.3	89.1	88.4	85.9	89.7	90.3	92.8	88.1	78.7
平均正答率(R8)	77.2	77.9	88.0	90.7	85.3	86.8	80.8	78.0	69.8	68.0	70.8	74.4
平均正答率(R7)	79.1	79.6	85.1	87.0	86.2	86.8	77.2	75.9	74.8	83.8	75.8	69.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- 昨年度と比較すると、全校通過率は国語＋2.4ポイント、算数－2.8ポイントとなった。全校正答率は国語－1.9ポイント、算数は－1.7ポイントとなった。国語の全校正答率が低下したものの、全校通過率は上昇しており、授業改善や放課後補充教室等の成果が表れている。
- 国語は、領域別に見ると「言葉・情報・言語文化」では区平均と同等程度である。「書くこと」においては高学年は区平均を上回ったが、低学年は区平均と同等、または下回った。漢字の読み書きの習熟や話型を用いた作文指導などを通して定着を図る必要がある。
- 算数は、領域別に見ると「数と計算」「図形」「測定」が区平均と同等、または下回った。単元別で見ると計算に関する単元において区平均を下回る学年が多かった。基礎基本の定着を図る必要がある。
- 学習意識では、「宿題がないときでも家で勉強をする」が区平均を6.5ポイント上回った。しかし、「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」では区平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

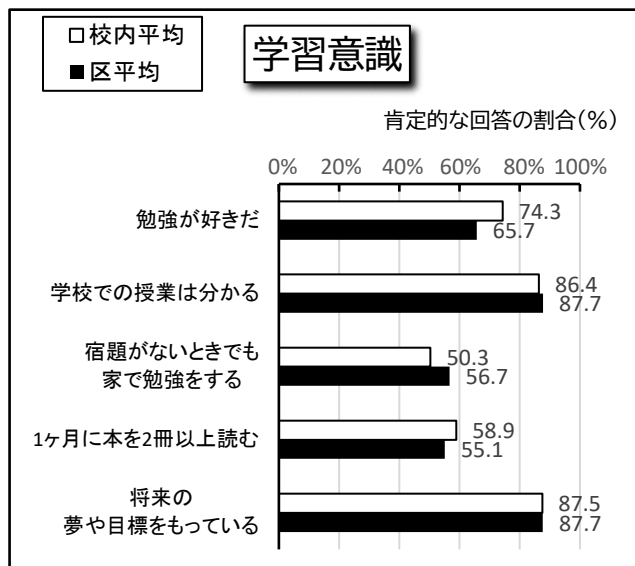
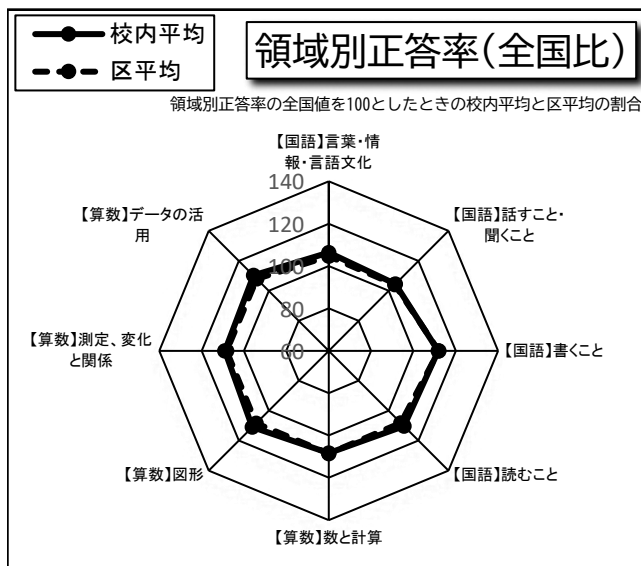
【ICTによる情報の可視化】自己決定を促す「学びの複線化」を日常化し、自律的な学習スタイルを築く。AIドリルを基盤とした漢字、計算等の基礎基本の定着を図る取組を全学年で実施する。また、AIドリルのテストマネージャーを活用し、児童の学習状況を分析し弱点を把握し、克服を図る。

【記述トレーニングの全校展開】児童に自分の考えを記述させる際、理由も併せて書かせたり、話型を用いることで、作文する力を高めるとともに記述することへの抵抗感を払拭する。

【安心感のある集団づくり】授業において、対話と受容を重視した授業を展開する。その中で児童が安心して授業に参加でき、自分の考えを発表できる雰囲気をつくることで、児童の学習意欲、表現力、思考力を高める。

【新田学園スタンダードの徹底】上記の取組を含めた、9年間を見据えた授業や学習指導に関する取組を「新田学園学習スタンダード（SGS）」として設定する。全教員が統一感をもって取り組むことで、学校全体の学力を高めていく。

関原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	92.1	86.5	91.3	97.5	88.2	90.8	95.0	71.7	95.3	87.1	90.9	81.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.1	92.6	90.3	97.2	85.5	90.3	95.1	95.1	89.3	93.3	95.0	85.2
平均正答率(R8)	77.6	78.3	88.8	93.8	86.2	88.0	77.3	72.6	71.9	72.2	68.2	69.0
平均正答率(R7)	80.2	82.9	85.8	91.4	85.5	88.3	84.0	81.0	70.9	82.9	78.3	72.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

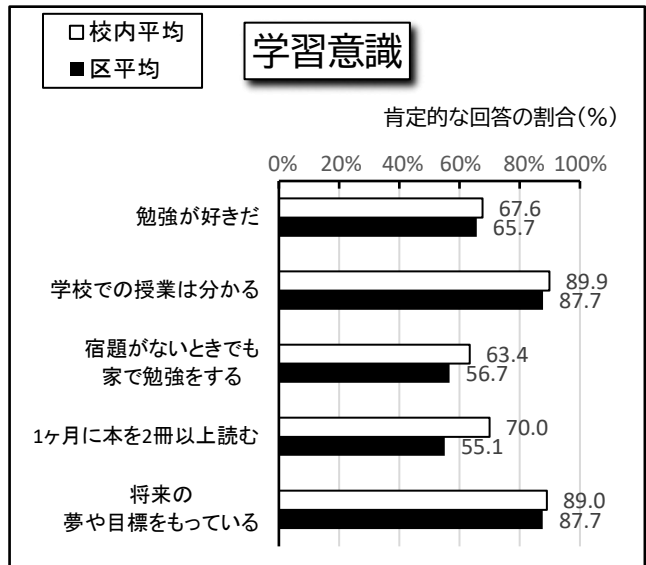
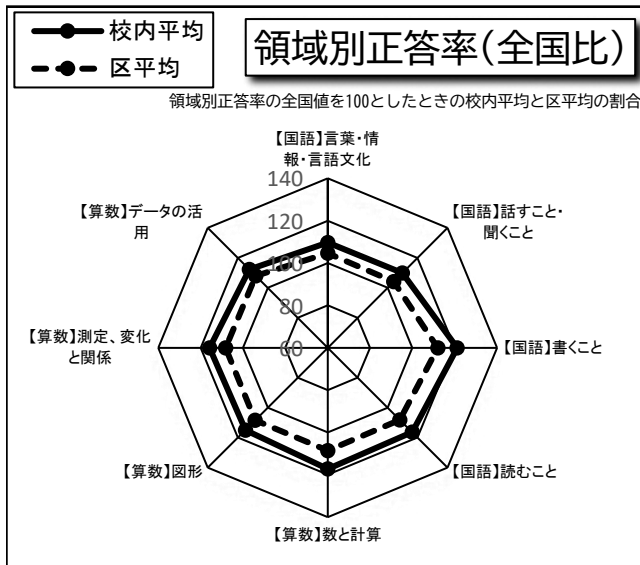
「学習定着度調査」分析結果

- 前年度の結果と比較すると、全校の通過率について国語(91.1→92.1)は1.0ポイント上がった。読書の推進により国語の読解力の高まりが見られた。算数(92.6→86.5)は、4～6年生が低下しているが、特に4年生は-23.4ポイントと大幅な低下が見られる。
- 全校の平均正答率は、昨年度と比較して2教科ともに低下した。低学年からの既習事項の積み重ねによる基礎・基本の定着が課題であることが分かる。「足立スタンダード虎の巻」についてのさらなる共通理解と共通実践に取り組む必要がある。
- 低・高学年は算数の全ての領域で区平均を上回っている。中学年では、区平均を超えていない領域がある。国語の「話すこと・聞くこと」の領域には課題があり、話の内容の中で要となる言葉を判断し、メモをとる力を育成する必要がある。
- 学習意識の回答では、「勉強が好き」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目で肯定的な回答をする割合が区平均を上回っていたり、「学校での授業は分かる」の項目で86%を上回っていたりすることから授業への工夫・改善の成果が表れている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 指導力向上
 - ・本校から大仙市へ派遣された教員による研修を年間を通して行い、「足立スタンダード虎の巻」に基づく授業改善と共通実践を全教員が徹底する。
 - ・「1日に1時間以上、授業でICT機器を効果的に活用すること」に全教員が取り組む。
- 基礎的・基本的な学力の定着
 - ・朝のパワーアップタイム（漢字練習、文章読解、MIM、計算練習）を実施する。週に1回「AIドリル活用の日」を設定し、個のつまずきの軽減を図る。低学年では、MIMの練習プリントに繰り返し取り組み、特殊音節の取得や読みの流暢さを育む。
 - ・月に1回全校一斉の漢字テストや、半年に1回「日常生活できちんと既習漢字が使えるか」を確かめるテストを行うことで、漢字の定着を図る。
 - ・2～6年生対象の九九検定、5、6年生対象の区、都道府県名検定を実施し、学習意欲の向上や基礎学力の定着を図る。

千寿小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	94.7	92.1	96.1	95.1	95.1	96.7	96.9	96.1	96.6	90.3	90.2	85.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	92.7	91.8	92.7	97.6	96.0	95.2	95.1	96.5	86.7	85.5	94.1	86.8
平均正答率(R8)	79.7	82.3	90.6	89.6	89.6	93.1	83.8	85.5	77.1	79.1	68.8	72.8
平均正答率(R7)	82.2	83.4	89.4	92.7	89.5	91.8	88.0	83.9	72.6	77.7	78.8	77.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

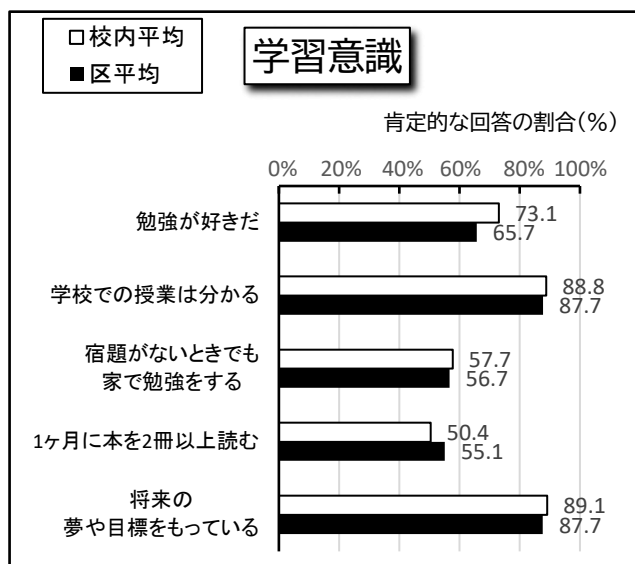
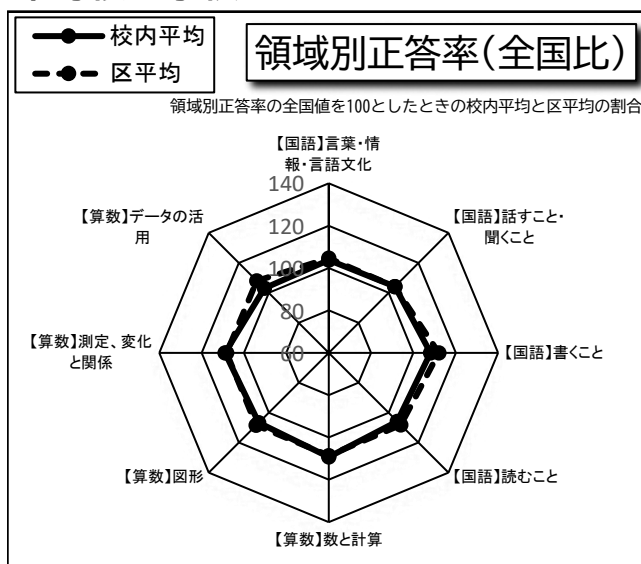
「学習定着度調査」分析結果

- 領域別正答率はすべて区平均を上回っている。これまでの学力向上の取組の成果と課題を分析し、今後も継続的な改善を図る。
【国語】書くことの領域は5年連続で区平均を上回った。今年度から月1回以上の作文活動を導入し、語彙力・表現力を高める指導を行ってきた成果と考えられる。
- 【算数】データの活用は区平均を上回るものの、大きな伸びには至っていない。本校は足立区教育委員会学力向上中核校として、「自分の考えをもち、すすんで伝える児童」の育成を研究テーマに掲げている。研究で得た知見を日々の授業改善に生かしていく。
- 学校全体の平均正答率は国語・算数ともに昨年度を下回った。一方、3・4年生は両教科で区平均を上回り、通過率95%以上を達成している。放課後学習教室、算数少人数指導、サマースクール、そだち指導など多様な学習機会を活用し、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 「学校での授業は分かる」の項目は区平均を2.2ポイント上回った。週1回の朝読書、ペア学年による読み聞かせ、教員の読み聞かせの時間を設けたことで、読書への意欲が高まり、学習への肯定的な姿勢につながったと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- A Iドリルや各種ドリル教材を計画的に活用する。反復練習を通して初期段階のつまづきを早期に把握し、改善する。また、タブレット端末を用いて、一人一人が設定した課題を解決するために調べ、まとめ、発表する学習のツールとして日常的に活用する。
- 月1回以上の作文活動を中心に、語彙力・表現力を高めるための「書くことに触れる環境づくり」を進める。
- 1年生を対象に、多層指導モデルM I Mを月1回実施する。音読力チェックを年2回行うことで、流暢に読む力の育成に生かす。
- 2年生以上の学年に週1回以上、自主学習の課題を出す。実生活から問いを見出し、情報を集めて整理し、表現する力を育てる。
- 放課後学習教室で、全教員が他学年の児童の学習状況を共有し理解する。そこで系統性を踏まえた指導の質の向上と、児童の基礎・基本の定着を図る。

千寿桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.2	85.0	88.9	87.5	90.4	90.5	91.1	89.9	88.0	71.1	92.0	85.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.9	85.5	86.5	91.0	84.7	94.1	87.7	80.0	84.9	86.0	91.1	74.7
平均正答率(R8)	75.5	77.0	84.9	87.7	85.0	88.7	77.7	78.7	67.8	64.7	67.1	70.5
平均正答率(R7)	79.4	78.7	85.6	86.0	85.3	88.7	79.1	72.8	71.8	78.5	77.8	68.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

1 平均正答率・通過率からの分析

- 令和8年度も昨年度同様に全学年で、国語・算数の平均正答率が目標値を大きく上回った。学力向上策の継続した取り組みの成果である。
- 同一母集団の経年変化で通過率を見ると、国語は現4年生が6.4ポイント、現6年生が7.1ポイント上がっている。授業などで改善を図ってきた成果と見る。同一母集団の経年変化で通過率を見ると、算数は全学年で昨年度より通過率が下がっており、課題が見られた。
- 通過率80%未満となった5年生の算数は、「数と計算、図形、データの活用」の領域で平均正答率を下回っている。特に「データの活用」は指導の重点とし、改善を図っていく。

2 学習意識調査からの分析

- 肯定的な回答の割合が、「読書」以外の項目で区を上回っている。特に「勉強が好きだ」は大きく上回っている。子どもの意欲や関心を高める授業や評価の工夫の成果と考える。
- 「1ヶ月に本を2冊以上読む」が-4.7ポイントと、昨年に続き区平均を下回った。主体的に読書に取り組む児童が増える取り組みを再度工夫する。

学校による学力向上への主な取り組み

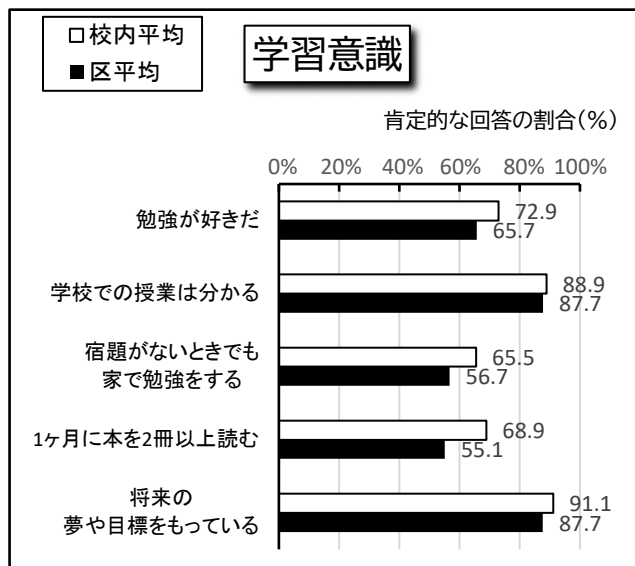
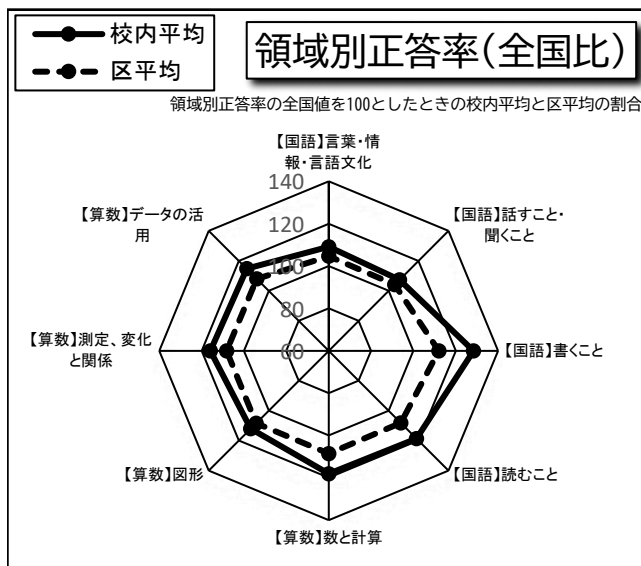
1 基礎学力定着のための学力向上策

- 朝のモジュール学習（言語指導）（火・水・木・金 8:25～8:40）
- 「桜☆学習コンテスト」計算・漢字・ローマ字・都道府県等（長期休業明け年3回実施）
- A Iドリルなどのタブレット端末の活用（朝の活動、すきま時間、家庭学習）
- 放課後補習教室（会議のない日の放課後）
- サマースクールでの個別指導（長期休業中5日間程度）

2 読解力・思考力・判断力・表現力等の育成のための取り組み

- 指導力向上中核校（理科）の研究の視点を「伝え合い」とした授業実践
- 読みのつまづきを解消するための取り組み（音読指導、物語文・説明的文章の指導）
- 自主学習の取り組み（2年生以上：宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う）
- 年3回の「読書月間」の実施と週1時間の「図書館を活用した読書指導」の充実

千寿常東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	94.7	93.9	97.1	97.1	90.4	95.9	97.5	96.2	96.0	97.4	92.3	81.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.1	91.9	92.6	94.1	92.5	93.8	89.7	92.3	86.8	86.8	93.3	92.1
平均正答率(R8)	81.2	82.8	93.3	93.3	88.5	91.0	81.8	84.7	77.7	77.5	68.4	71.0
平均正答率(R7)	83.3	84.6	87.5	91.7	89.9	92.5	82.3	80.1	76.2	81.6	81.7	80.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

- ・学校全体の平均正答率は81.2%であり、基礎的・基本的な学習内容が概ね定着している。
- ・通過率は94.7%で昨年度より3.6ポイント高く、多くの学年で学力の向上が図られた。
- ・文章全体をより丁寧に読み、根拠を明確にして考えを表現する力の育成を図る必要がある。

【算数】

- ・学校全体の平均正答率は82.8%であり、算数の学力は良好な状況にある。
- ・通過率は93.9%で昨年度より2.0ポイント高く、基礎的な知識・技能の定着が図られている。
- ・数量の関係を多面的に考察し、説明する力の育成を推進していく必要がある。

【意識調査】

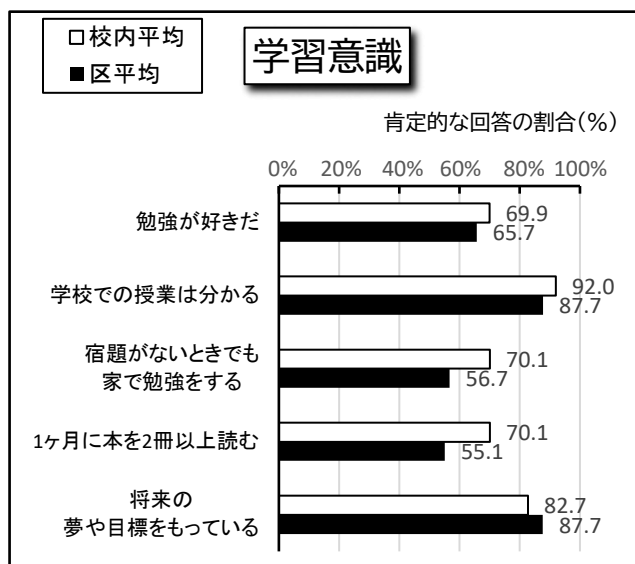
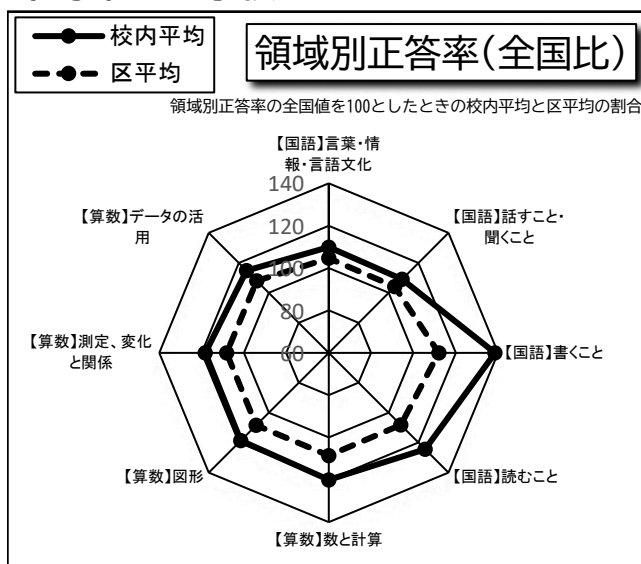
- ・全項目で肯定的な回答の割合が区平均を上回っている。特に「勉強が好きだ」は、昨年度は区の平均を下回っていたが、今年度は7.2ポイント上回った。児童の「分かる・できる」という実感が、学びへの自信を深め、肯定的評価へとつながったと考える。

学校による学力向上への主な取り組み

【成果と今後の方策】

- ・学校全体として国語・算数ともに高い通過率を維持、更新していることが成果である。
- ・多くの児童に基礎的・基本的な学力が定着してきている。九九検定やパワーアップで国語の取組を継続することで、確かな学力を身に付けさせていく。
- ・高学年では平均正答率の低下が見られ、思考力を問う問題への対応が課題である。授業では自力解決時間の保障や自分の考えを説明する活動を充実させ、表現力の向上を図る。
- ・児童主体の個別最適な学びと協働的な学びを推進し、一人一人の学力向上につなげる。
- ・算数の図形領域の学習では、ICTを活用して図形を動かすなどの方法や、具体物の操作を取り入れ、図形の特徴を捉えたり、多角的な見方を育てたりする指導を充実させる。
- ・全校で図書館利活用を推進し、多様なジャンルの本に触れる機会を設けることで、語彙数や言葉の使い方、様々な知識を増やし、他者を理解する心を育てていく。
- ・調査結果を基に授業改善や補習教室に取り組み、全学年で更なる学力向上を目指していく。

千寿第八小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	97.5	93.2	98.4	98.4	100.0	94.3	95.6	97.1	96.4	92.8	97.5	85.4
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	96.1	96.6	98.6	100.0	95.7	98.6	92.4	92.4	96.4	97.6	97.5	95.1
平均正答率(R8)	82.4	84.5	93.5	93.9	93.1	92.4	84.1	86.3	75.6	79.8	73.9	76.7
平均正答率(R7)	85.7	86.5	90.4	93.6	90.5	93.7	87.0	83.4	81.1	85.5	83.1	80.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は97.5%で、昨年度の96.1%と比べ1.4ポイント上昇した。平均正答率は学校全体で3.3ポイント下降したが、全ての項目において区平均を大きく超えている。6年生の通過率は昨年度同様だが、平均正答率は去年より9.2ポイント低下した。日常的に読解問題や短作文などに取り組み、言葉・言語文化に関して知識を定着させていく。

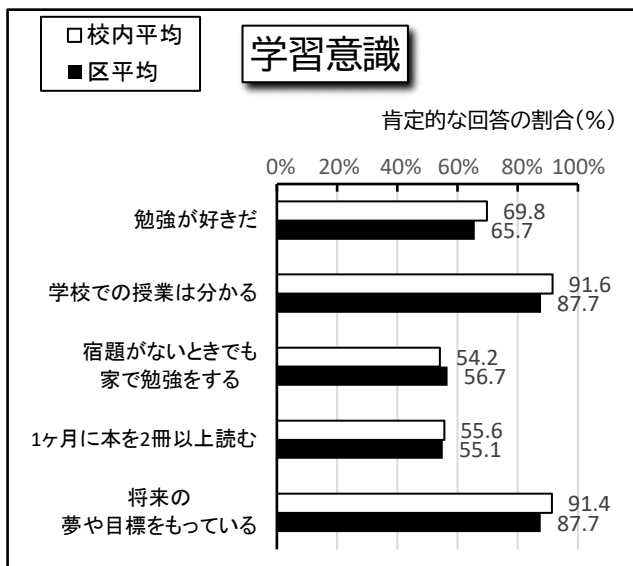
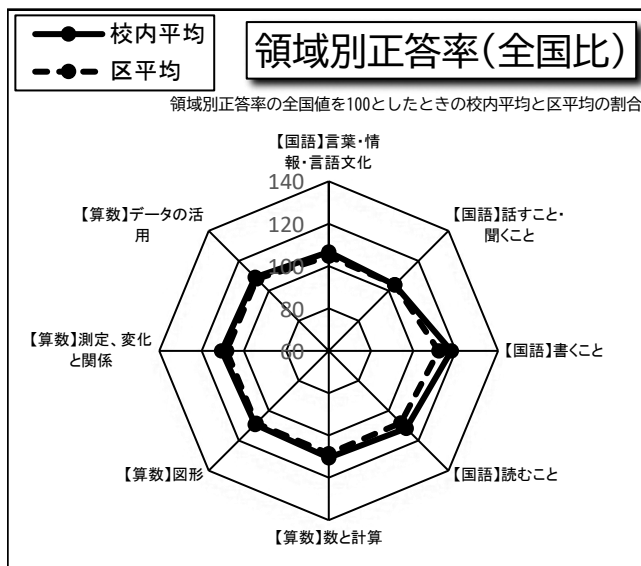
【算数】学校全体の通過率は93.2%で、昨年度の96.6%と比べ3.4ポイント下降した。6年生の通過率は昨年度より9.7ポイント下降した。平均正答率も学校全体で2.0ポイント下降し、84.5%となった。文章問題の題意を的確に捉えるため、数字やキーとなる言葉を読み取る力を育てていく。

【学習意識】概ねほぼすべての項目において区平均を超えているが、「将来の夢や目標をもっている」については、区平均を5.0ポイント下回っている。特別活動を中心に「貢献感」を高めながら将来の夢や目標につながる活動を充実させ、キャリア教育の推進を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「足立スタンダードの定着」…教科指導専門員と連携し、教員の授業力の向上を図る。
- 「ジャンプタイム」…毎週取り組む漢字・読解問題・100マス作文の実施において、指導の難易度を段階的に引き上げながら、書く力と読む力の向上を図る。
- 「朝のチャレンジタイム」…基礎力のルーティン化による計算流暢性の確実な定着を図る。
- 「放課後補充教室」「夏休み補充教室」…つまずきに応じた少人数グループ指導やデジタルドリルを活用した個別最適な学びにより、未定着因子の確実な克服を図る。
- 「読書活動の充実」…職員間で毎月進捗状況を共有し、読書目標の達成率を向上させる。
- 「算数的読解力・表現力の育成」…問題文の条件を正確に把握する指導の徹底と、根拠(数、言葉、図)を明確にして説明する記述指導の系統化を図る。
- 「貢献感の醸成」…ポジティブなセルフトークの習慣化、「誰かの役に立った」という実感を伴う学びの場の創出により貢献感を高め、将来への夢や目標を育てていく。

千寿双葉小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.6	84.5	91.7	90.0	93.8	95.3	88.5	83.6	92.6	73.5	91.5	81.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.0	87.1	95.4	96.9	93.2	93.2	90.1	93.0	90.2	84.1	87.2	72.2
平均正答率(R8)	77.4	77.8	89.7	89.8	88.5	93.2	77.1	75.3	68.4	65.9	70.8	72.8
平均正答率(R7)	80.8	78.4	89.2	92.6	87.8	87.3	84.0	78.4	76.4	79.5	73.7	62.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○ 通過率および領域別正答率

- ・通過率：国語：91.6%（昨年比+0.6ポイント）、算数：84.5%（-2.6ポイント）
- ・領域別正答率：多くの領域で区平均を上回り（特に国語「書くこと」、算数「データの活用」など）これらは本校の強みとして今後も定着を図っていく。

○ 課題となる学年・領域

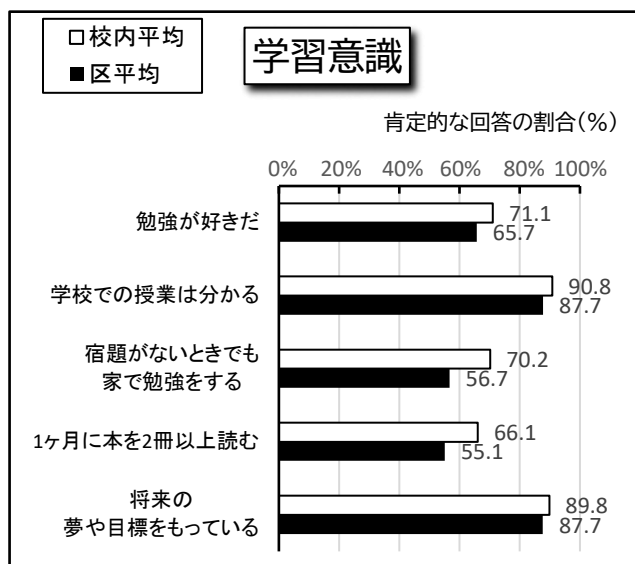
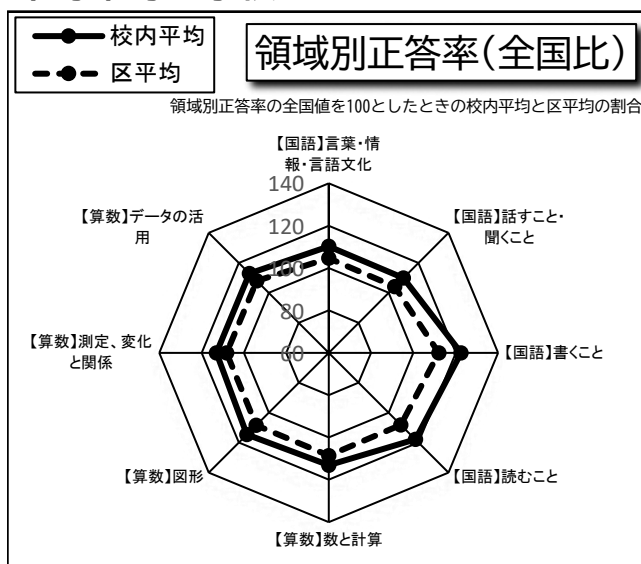
5年算数の通過率は73.5%、特に「図形」領域に課題がある。また、4年算数83.6%（3年時比較-9.6ポイント）にも低下の兆候が見られ「小数の計算」が課題となる。現学年の同じ領域、単元の学習の際に前学年の学習内容を学び直しさせる。その他の学年・教科はおおむね通過率90%以上の高い水準を維持しているため、引き続き確実な定着を図っていく。

○ 学習意識 「学校での授業は分かる」は9割を超え、学習意欲や授業理解は高い。一方、「宿題がないときでも家で勉強する」習慣を身に付けさせたい。（肯定的回答54.2%）授業での理解を家庭での自学自習へ繋げていくための動機付けや家庭との連携が今後の課題である。足立区教育振興ビジョンの基本理念「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」に基づき、本校の教育を推進していく。（将来の夢や目標をもっている91.4%）

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内研究 算数科「学ぶ楽しさ・分かる喜びを実感できる授業づくり」を研究主題に年3回の授業研究に取り組む。研究の日常化を図る。
- 相互参観、教科指導専門員制度を活用した「足立スタンダード虎の巻」に基づく授業改善。
- 朝学習（15分間）を週3回実施
 - ・漢字：5問から10問のテスト（週1回）・A Iドリル：算数、ワークブック（週2回）
 - ・聞き取り書き取りチャレンジ：児童朝会の校長講話の短作文（月1回）
- 家庭学習：音読、漢字、算数、自主学習（家庭学習の手引き）、A Iドリルへの取組。
- 新聞活用：読書の代わりに新聞を読む。記事やコラムについて感想や考えを書く。
 - ：知らせたい記事を選び、朝のスピーチで発表する。
- 放課後学習：学力定着度調査の結果や日常の学習の中で課題となる内容への取組、月2回。

千寿本町小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	92.5	89.0	96.7	95.0	92.3	88.5	88.3	88.3	93.4	88.5	91.7	84.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.5	89.5	92.5	94.3	83.6	85.2	91.2	89.5	90.0	88.3	95.2	90.5
平均正答率(R8)	81.2	81.6	93.2	91.3	88.1	87.0	81.8	81.9	75.3	76.1	72.8	75.5
平均正答率(R7)	83.5	83.4	87.5	90.1	85.6	87.0	82.9	80.0	79.9	83.6	83.0	78.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○学校全体では、昨年に引き続き、目標値に対する通過率が国語、算数ともに、約9割になっていること、平均正答率が約82%であることから、基礎的・基本的な学習内容の定着は良好であると考えられる。

○国語も算数も基礎的な領域のポイントは高いが、応用（記述）に課題がある。国語では、「読み取った内容をもとに、自分の言葉で文章を書く活動」や算数では、「文章題から必要な情報を選び出して式を作る問題（式による表現・活用）」を重点的に取り入れることで、応用力と記述力を伸ばしていく。

○学習意識の項目では、全体的に区平均より高く、昨年度と同じ結果となった。その中で特に変化があったのが、「勉強が好きだ」と答える児童が昨年度（68.7）より2.4ポイント増えたことだ。これは授業改善を図ったり、児童の主体的な学習に力を入れ取り組んだことがつながっていると考えられる。一方、読書に関する項目は、昨年度（69.9）より3.8ポイント減少した。読書週間を含め、本と触れ合う機会をさらに設けていく。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝学習（本町タイム）での国語（言語活動の充実）、算数（計算力の向上）、体育（体幹づくりや体力の向上）を行っていく。

- ・言語活動の充実 ①月1回の俳句づくり ②月1回「天声こども語」の視写（3年生以上）
- ・算数A I ドリルの活用、月末に計算力の確認（前学年、既習問題）
- ・体育 姿勢タイム（1分間）、運動遊び、なわ跳び、持久走 など

○放課後個別学習指導（ミラクルタイム） 計算問題を中心に反復練習（月3回程度）を行う。

○校内百人一首大会を開き、言語に対する理解を深める。（後期）

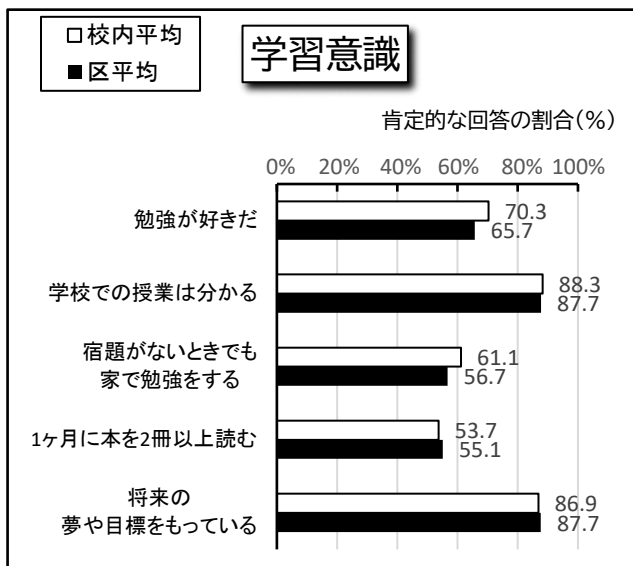
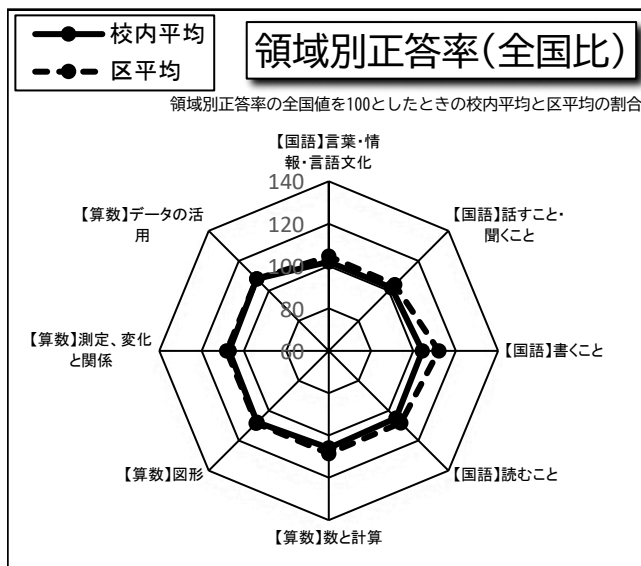
○九九検定（2年生対象）を12月、2月に行い、定着を図る。

○年間4回の読書週間を行い、本に親しむ機会を設ける。

○足立スタンダード虎の巻に則った授業展開を行い、問題解決を中心とした授業を実践する。

○タブレット端末を思考ツールとして日常的に活用し、学習者主体の学びを推進する。

竹の塚小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	85.7	83.1	92.7	95.1	86.7	90.0	78.3	73.9	84.8	90.9	87.2	69.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.2	83.7	71.4	77.1	80.4	89.1	91.4	88.6	86.8	84.2	85.4	79.2
平均正答率(R8)	73.9	75.4	87.7	90.1	83.5	89.0	69.8	67.5	71.3	75.4	62.5	63.7
平均正答率(R7)	77.5	77.0	79.8	84.2	83.7	83.2	84.8	76.5	68.1	75.9	74.6	69.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語の通過率は85.7%、算数の通過率は83.1%であり、昨年度と比べ国語は2.5ポイント増加、算数は0.6ポイント減少した。算数では、パワーアップタイム、放課後教室の取り組みなどを引き続き行っているため、大きく差異が出なかったと考えられる。一方で、国語においては学力調査の結果を受け、授業において必要な手立てを実施したり、学力層を絞って放課後学習で個別支援を行ったことで成果をあげられた。どちらの教科の通過率も83%を上回っていることで、学習内容の定着が図られる。

○学習意識の「勉強が好きだ」は、70.3%と区平均より4.6ポイント高い。「学校での授業はわかる」は、88.3%と区平均より0.6ポイント高い。学習に対する意識が総じて区平均を上回っている。

○「将来の夢や目標をもっている」では、区平均より0.8ポイント下回っていた。今後、児童の自己肯定感が高まる活動や、キャリアノートを活用し児童一人ひとりが目標を立てて活動に取り組めるようにしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

○教師の授業改善

学力調査の分析と実態把握を通じた個に応じた授業実践。校内研究を通じた教師のICT機器の指導力の向上。OJTの一環として、主任教諭と教諭とがペアとなり、月に一回以上互いの授業観察を行い、学級指導、教科指導や板書の書き方、ICT機器を活用した指導法などについて共有し、若手教師のスキルアップとベテラン教師の学び直しを計る。

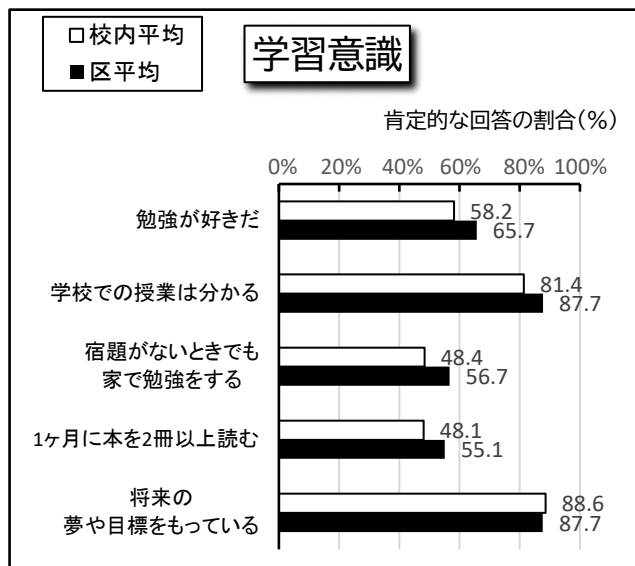
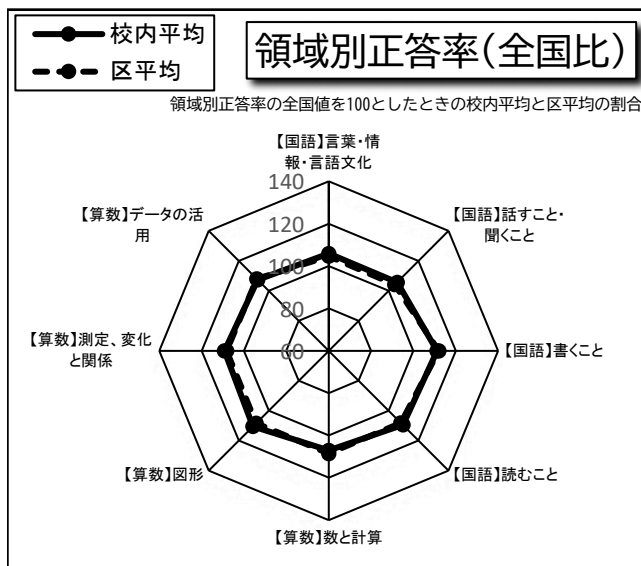
○個に応じた指導の充実

児童一人一台端末環境を通してAIドリルを積極的に活用し、指導の充実を図る。放課後教室では、担任や専科教員が連携し学校が一体となって、児童の弱点を克服することを目的として個別最適な指導を図る。

○小中連携教育事業を通じた指導の一貫性の確保

連携小中学校とともに「自分の考えを積極的に表現できる児童・生徒」を目指し、タブレット端末の環境を活かした共通実践事項を実施していく。

辰沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	92.3	86.6	92.4	97.0	95.4	87.7	89.3	90.5	92.9	81.4	92.5	77.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.8	84.9	92.3	98.5	86.7	90.1	91.4	91.4	86.6	79.3	83.1	67.5
平均正答率(R8)	76.8	76.5	87.9	91.2	89.4	88.1	76.9	78.0	72.6	69.9	65.1	64.2
平均正答率(R7)	78.9	78.8	86.6	92.4	88.2	89.4	83.3	80.1	69.4	75.2	72.2	62.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は76.8%で、前年度よりも2.1ポイント下がっている。通過率は92.3%で、前年度よりも4.5ポイント上がっている。すべての学年が通過率85%を超えており、本校が計画した目標に到達している。高学年になるほど上位層と下位層の差が広がり、通過率は上がっているが正答率は70%前後になっている。

【算数】学校全体の平均正答率は76.5%で、前年度よりも2.3ポイント下がっている。通過率は86.6%で、前年度よりも1.7ポイント上がっている。2～4年生が通過率80%を超えている一方で、高学年になるにつれて通過率も正答率も伸び悩んでいる。既習事項を理解できずに高学年になっている児童が多く、中学年での指導の見直しや基礎・基本の徹底が必要である。

【意識調査】学習意欲等において、前年までの調査とほぼ変わらない。区平均より若干低いことから、今後も教員の授業力向上と家庭と連携しながら学習習慣の確立が必要である。一方で、読書における項目が昨年度と同様、一昨年より8ポイント上がっている。朝読書や校内図書室の貸し出しを3冊に増やし、区立図書館の本の貸し出しを推進してきた結果といえる。

学校による学力向上への主な取り組み

○教員の授業改善

・足立スタンダード虎の巻に基づく自己選択・自己決定をさせる個別最適化の実践により授業を改善する。すべての教員が年間1回以上授業を公開し、相互の授業観察を行う。若手教員などは、教科指導専門員と月1回程度授業研究を行い、授業力の向上を図る。

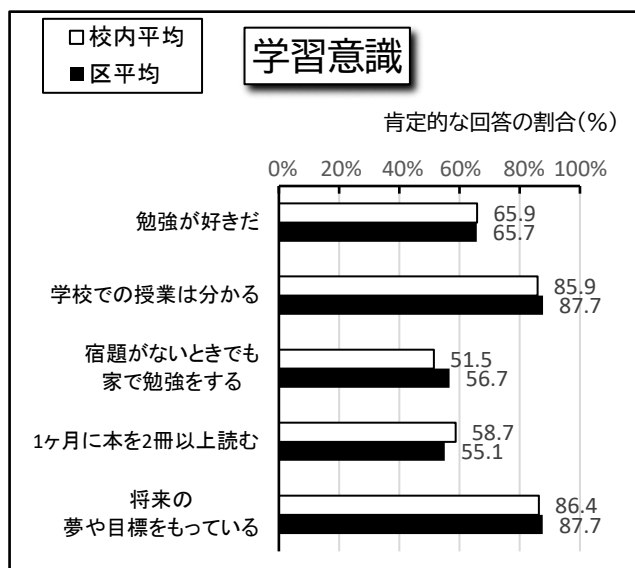
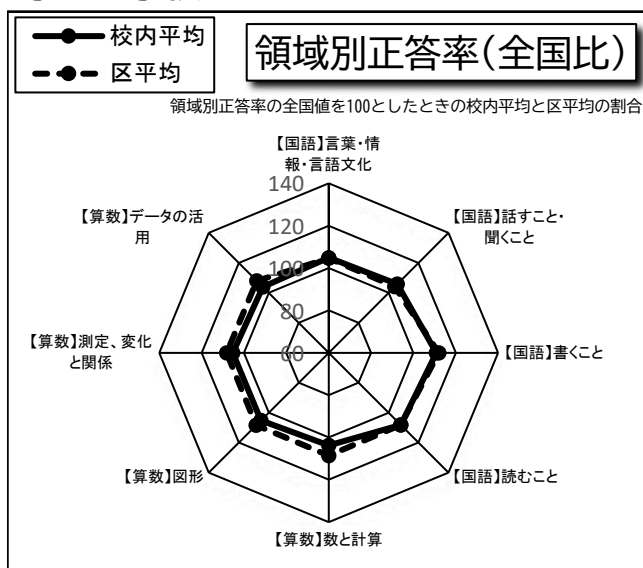
○基礎学力向上のために

・毎月漢字検定・計算検定を行い、その月に身につけるべき学習内容をはっきりさせ、全員が合格するまで個別指導を行い学習を進めていく。

・朝学習で区調査の過去問題や振り返りプリントに取り組み、既習事項を再確認することで当該学年の学習につなげる。

・A Iドリル（キュービナ）やパソコン教材の活用を推進、週1回の放課後学習教室（辰沼塾）やそだち指導を行い、基礎・基本の徹底や中学年でのつまづきの改善を図る。

寺地小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	87.8	81.4	90.1	90.1	92.5	90.6	80.0	75.6	87.0	75.9	87.5	71.9
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.7	86.7	94.3	92.5	83.3	89.6	80.4	92.9	76.7	85.0	85.1	72.3
平均正答率(R8)	77.2	75.4	88.1	86.9	89.7	88.4	74.2	71.3	68.9	68.1	66.6	64.5
平均正答率(R7)	76.3	78.2	86.3	89.0	82.1	83.5	77.3	77.6	68.1	78.2	72.2	64.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

区平均との差についての分析

- ・正答率・通過率を区平均と比較すると、国語、算数共に同等もしくは僅かに下回っている。
- ・算数では、どの学年においても数と計算の領域の問題でのケアレスミスが散見された。
- ・学習意識調査を見ると、「勉強が好きだ」と回答する児童が区平均を0.2ポイント上回った。一方で、「学校での授業は分かる」と回答した児童は区平均を1.8ポイントを下回ったことから、学習意欲はあるものの理解が不十分だと考える。
- ・目標通過率を児童の経年変化で見ると、算数は5.3ポイント下降し、国語は4.1ポイント上昇した。

【本校の課題】

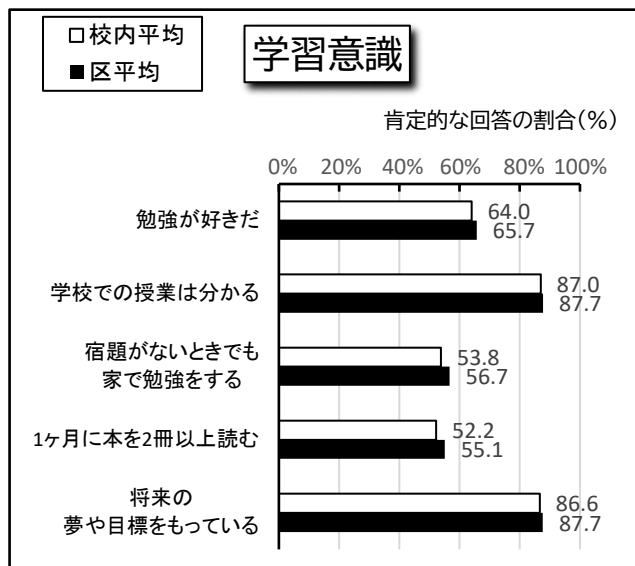
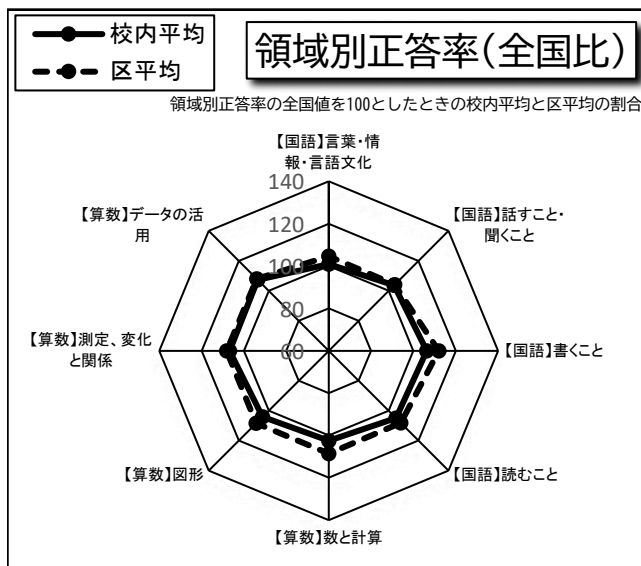
- ・基礎的な学習内容の定着と自ら学ぶ意欲の向上

学校による学力向上への主な取り組み

基礎・基本の定着を軸に、教員の授業力向上を目指す。

- ・モジュール学習で漢字や言語事項の学習に取り組む。
- ・ワークテストの間違い直しを徹底して行う。
- ・家庭学習でドリルやA Iドリルでの復習に取り組む。
- ・O J Tや校内研修を通し、足立スタンダードを軸とした児童が分かる授業やICTを活用した対話的な学びのある授業を全教員が確実に行うことができるようにする。
- ・学習では振り返りを必ず行う。児童が評価基準にそって、客観的に学びの過程や身に付いた力を振り返り、次時へのめあてをもって学習する習慣を身に付けることができるようにする。
- ・九九検定（2年生以上）を行い、基礎的な計算力の向上を図る。
- ・理解の低い児童について、少人数指導や放課後の個別指導に力を入れたり、家庭と連携したりして基礎学力の向上を図る。

舎人小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	86.7	79.8	90.4	91.8	78.9	86.0	94.9	84.5	85.2	75.6	84.0	64.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	83.6	80.3	74.6	85.7	84.2	87.7	84.1	84.1	90.7	84.0	83.1	64.3
平均正答率(R8)	73.4	73.7	88.4	89.7	80.9	86.3	75.8	75.1	66.6	67.4	63.6	60.1
平均正答率(R7)	76.4	75.1	81.5	85.1	84.6	84.6	77.0	73.9	71.3	78.7	72.8	61.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

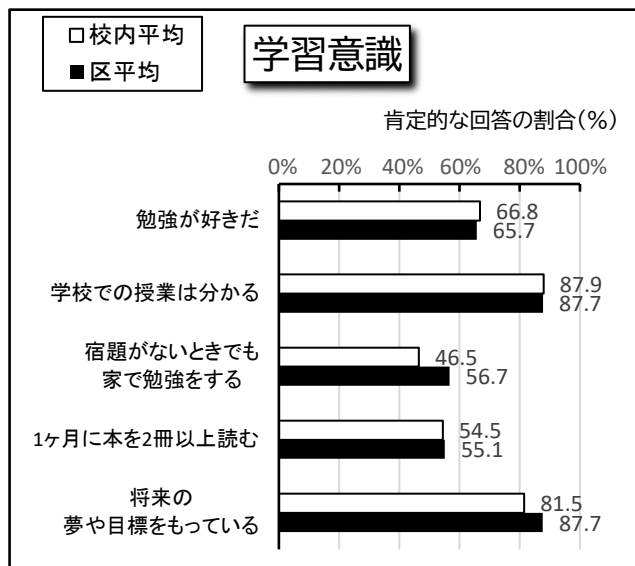
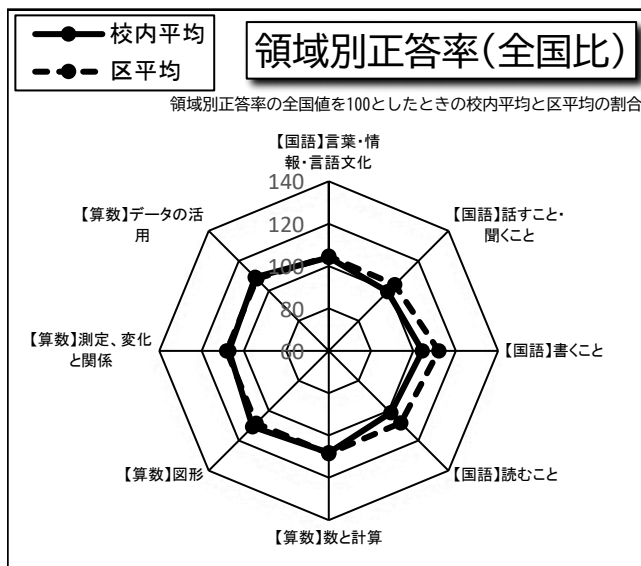
「学習定着度調査」分析結果

- ・国語：領域別正答率で見ると、「話すこと・聞くこと」は区平均と同等であるが、それ以外は区平均より下回っている。昨年度よりも全体の通過率は3.1ポイント上昇している。今後も個に応じた指導の充実が必要である。
- ・算数：領域別正答率で見ると、「データの活用」、「測定、変化と関係」は区平均と同等であるが、それ以外は下回っている。また、通過率でみると、昨年度と比べて0.5ポイント低下している。今後も個々の児童の習熟度を踏まえた授業改善が必要である。
- ・学習意識調査：「勉強が好きだ」という項目では、64.0%、「学校での授業はわかる」は87.0%の児童が肯定的な回答をしているが、区平均を若干下回っている。昨年度と比較し、区平均との差は縮まった。今後も児童の学習意欲の向上や基礎学力の定着につなげるために、引き続き、児童から「できた」「分かった」という言葉が出るような授業改善をしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「パワーアップタイム」：週2～3回、A Iドリル、国語読解プリント、音読を行うことで、正確に速く計算する力や読む力・表現力の向上を図る。
- ・「M I M指導」：低学年では、年間を通してM I M指導を行い、読む力の向上を図る。
- ・「放課後学習」「サマースクール」：学習調査の結果を基に、つまずきの見られる児童への個別指導を行う。A Iドリルを活用し、学力の定着・向上に取り組む。
- ・「家庭学習チェックウィーク」：年2回、1週間家庭学習（10分間×学年+10分）の状況を調査し、家庭学習の定着と自ら学びに向かう力の育成を図る。
- ・「I C Tを活用した授業の充実」：児童の考えを共有したりグループで課題を取り組んだりすることができるように「Google for Education」を活用した授業改善を図る。
- ・「読書活動の充実」：児童の「読む力」の育成を図るために、読書活動を推進する取り組みを行う。1年間で低学年は50冊、高学年は5000ページの読書目標を達成させる。

舎人第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	87.6	86.4	90.2	96.1	85.5	85.5	81.1	87.7	93.5	88.3	88.0	78.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	84.8	86.4	85.1	92.5	78.9	86.8	89.6	87.0	87.7	91.4	82.4	74.3
平均正答率(R8)	72.8	76.4	85.8	90.3	80.9	84.5	73.5	76.0	67.5	73.3	65.7	67.7
平均正答率(R7)	76.5	79.7	82.2	88.2	83.3	86.9	79.4	78.9	71.8	84.3	69.6	63.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

全体として、通過率は、学校全体で国語、算数いずれも8割を超えている。一方で、昨年度に比べ平均正答率が、国語は3.7ポイント、算数は3.3ポイント低下しており、児童の学力に差が出ていることが分かる。家庭学習が習慣化していない児童も多いので、家庭学習の習慣化を図るとともに、C層・D層の児童の学力を伸ばしていく。

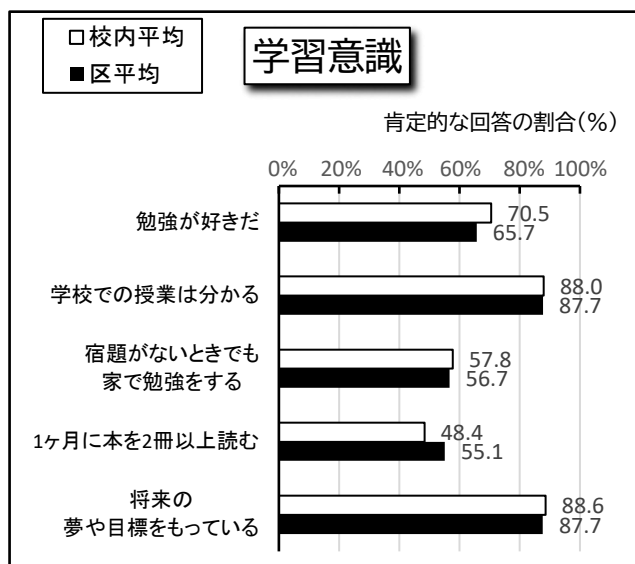
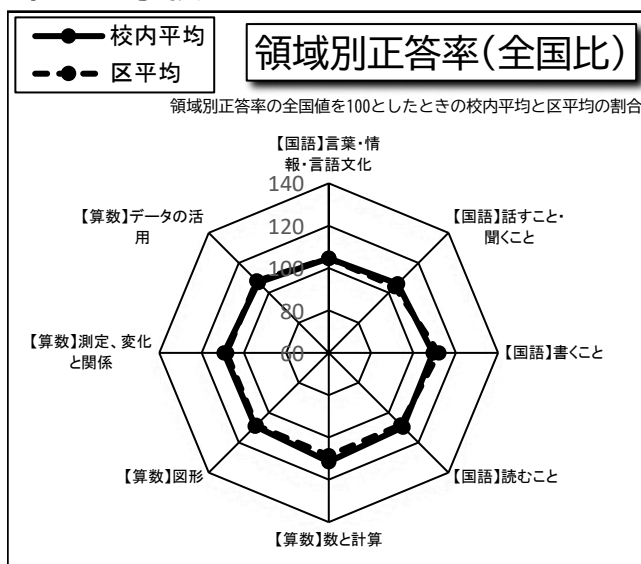
国語は、領域別正答率を見ると、言葉・情報・言語文化の領域が区平均と同等なのに対し、他の領域は区平均を下回っている。特に書くことが課題となる。日頃から、書く力を伸ばす取り組みを行う必要がある。

算数は、領域別正答率を見ると、どの領域も区平均と同等である。平均正答率を見ると、3～4年生が昨年度と比べ、それぞれ2.4ポイント、2.9ポイント低下している。原因として、新しい問題に対して、既習事項を関連付けながら見通しをもって解決方法を考えることに課題が見られた。これまでの学びを生かして主体的に問題解決に取り組む態度の育成を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「朝学習」：月曜日は読書、木曜日は算数、金曜日は国語と、1週間の中で取り組むものを決め、全児童に取り組ませる。国語では、短い文章問題に取り組み、読解問題に対する手だても学校で統一する。算数では、区学力調査や東京ベーシックドリルの分析をもとに、苦手な単元を3つに絞り、その単元を中心に反復学習を行う。
- ・「放課後学習」：その日の算数の授業の理解が不十分だった児童を選出し、児童のつまづきに重点を置いた個別指導を行う。また、現学年以前の学習が未定着の児童においては、現学年以前の学習内容に取り組み、確実な定着を目指す。
- ・「ICTの活用」：毎日タブレット端末を持ち帰り、1日5分A Iドリルに取り組ませる。ひと月ごとにA Iドリルで取り組む範囲を決め、C判定以上になるように取り組ませる。
- ・「学校図書館の活用」：図書支援員を活用し、並行読書の実施、蔵書の充実、図書ボランティアや教員による読み聞かせを行い、読書活動を推進する。
- ・「作文教室」：外部講師との連携を行う。

中川小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.8	86.8	96.9	100.0	85.4	93.8	94.9	94.9	87.0	73.9	82.5	75.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	93.8	89.3	91.3	91.3	90.0	97.5	95.3	93.0	92.7	78.0	98.1	87.0
平均正答率(R8)	76.1	77.7	89.5	93.4	86.0	89.0	80.2	81.0	67.0	64.8	65.4	68.8
平均正答率(R7)	81.2	80.8	87.2	87.9	88.0	89.3	81.8	78.2	73.3	80.0	78.8	73.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

学校全体の通過率が88.8%と昨年度比で5.0ポイント下がった。学年別の通過率では、2年生が昨年度を上回ったが、3・4・5・6年生は昨年度を下回った。学校全体では、昨年度と同様、書くことのパターンⅢ判定（C－D層の差が大きい場合）が多く出た。今年度は、C層をB層に上げる取り組みと、D層への個別指導を通じた支援が必要である。

【算数】

学校全体の通過率が86.8%と昨年度比で2.5ポイント下がった。学年別の通過率では、2・4年生が昨年度を上回ったが、3・5・6年生は下回った。単元別で見ると、3年生では「立体図形」「乗法」、5年生では「小数・小数の計算」、「平面図形」6年生では「割合・百分率・歩合」「速さ」について手だてが必要である。

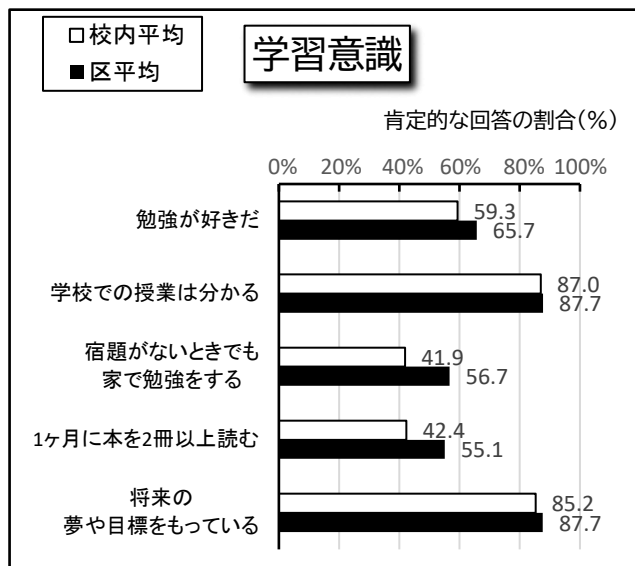
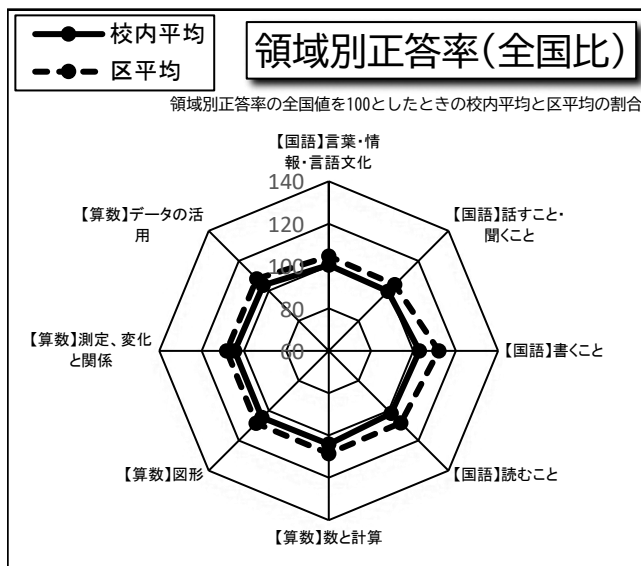
【意識調査】

「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目が、区の平均を下回っており、読書の日常化を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習…読解・計算・漢字の基礎学習を行う。
- ・補充学習（放課後・長期休業中）…児童のつまずきにポイントを絞った個別指導を行う。
- ・漢字キング…前期は前学年、後期は現学年の漢字で検定を行い、合格者を表彰する。
- ・読書…読書時間を設定する。図書委員会やボランティアによる読み聞かせを行う。
- ・家庭学習計画表（高学年）…中学校進学を見据え、自ら学習内容や時間を計画・振り返ることで、自己調整力を育成する。
- ・自主学習（1年生後期～）…児童がノート1ページ分の学習内容を決めて取り組む。
- ・校内研究…「自ら学び、他者とともに考えを深める児童の育成～ICTを活用した協働的な学びの充実を通して～」をテーマに年4回の研究授業を行い、ICTを活用しながら他者とともに考えを深めるための授業展開や指導方法を研究する。
- ・共通理解…全教員が足立スタンダード虎の巻を基にした授業、ICTを活用した授業を徹底する。

中川北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	83.4	81.2	90.1	90.1	83.6	91.1	68.3	76.6	96.2	82.3	75.7	67.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.6	85.3	80.8	98.1	89.1	85.5	86.3	86.3	82.1	79.1	89.7	79.3
平均正答率(R8)	72.4	73.4	85.7	89.0	83.0	89.7	65.1	67.1	72.1	69.4	60.7	60.9
平均正答率(R7)	76.2	78.6	85.5	94.1	85.6	83.6	77.4	74.0	66.5	76.8	72.0	71.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体では、前年度と比較して通過率・平均正答率ともにやや低下した。一方、基礎的な知識・技能は概ね定着しており、学年によっては全国平均を上回る領域も見られた。課題である「書くこと」の力の向上に向け、文章を書く機会を充実させ、基礎・基本の定着と表現力の向上を図る。

【算数】学校全体では、前年度と比較して通過率・平均正答率ともに低下した。一方、基礎的な計算技能は概ね身につけている。今後は文章問題の読解や問題の意図を正確に捉える力を育成するとともに、既習事項の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力の向上につなげる。

【意識調査】「学校での授業は分かる」と回答した児童の割合は前年度より向上し、「将来の夢や目標をもっている」も高い水準を維持している。一方、「宿題がないときでも家で勉強する」「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を下回っており、家庭学習や読書習慣の定着に課題が見られる。授業で学んだ内容を家庭学習や読書活動につなげ、学習内容の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

【国語】

年間2セットの読解力向上ドリルを実施し、読解力や文章問題への対応力を育成する。また、月2回の「モーニング校長講話」を通して、話を整理・要約し、自分の考えを表現する力を育成する。高学年では意見交流を行い、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

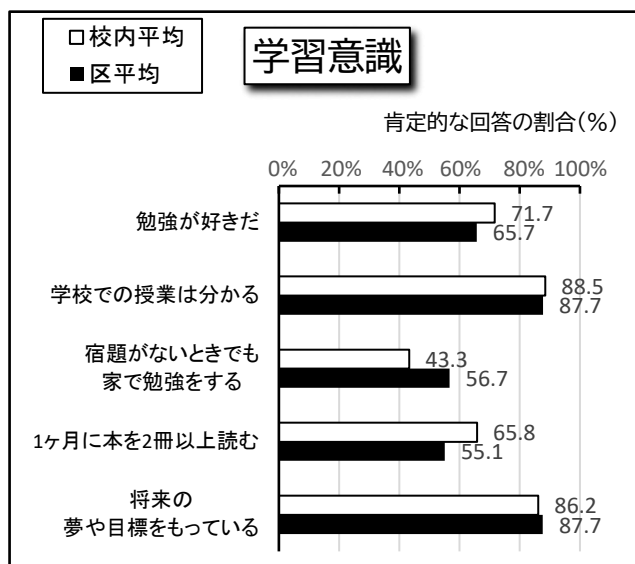
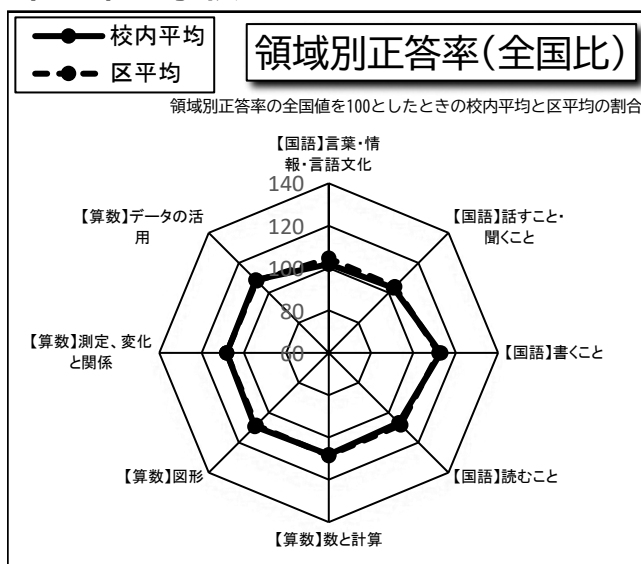
【算数】

朝の「モーニング計算タイム」による反復学習で基礎学力の定着を図るとともに、AIドリル活用推進月間を通して個別最適な学びを推進する。また、九九検定を実施し、九九の確実な定着を図る。

【共通】

足立スタンダードに基づく授業改善を推進し、教員同士で板書共有や「共学間」での授業研究を通して指導力向上を図る。また、放課後学習や補習を実施し、基礎・基本の定着を図る。さらに「学習がんばりカード」を毎月実施し、家庭学習習慣の定着を推進する。

中川東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.3	87.4	94.0	92.0	90.0	94.0	85.1	85.1	100.0	90.9	83.0	74.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.6	89.8	85.7	91.8	84.4	91.1	92.9	97.6	81.3	79.2	95.2	90.5
平均正答率(R8)	75.0	77.7	89.8	91.3	84.9	88.8	74.6	75.5	72.6	74.3	57.5	62.5
平均正答率(R7)	79.4	82.1	85.8	89.6	87.1	88.3	85.8	84.2	62.4	75.4	80.9	75.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

区平均との差について分析し、自校の課題となる点は2点ある。

1点目は、国語の通過率が、昨年度を2.7ポイント上回ったが、算数の通過率は、2.4ポイント下回ったことである。5年生を除き、学年があがるごとに通過率が下がっている。

2点目は、学習意識で「宿題がないときでも家で勉強をする」に肯定的な回答をした児童が43.3%と半数をきっていることである。学習に対して、前向きに取り組むことができる児童を増やすことが重要である。

「本を2冊以上読む」児童が10.7ポイント区平均を上回っている。普段から本に親しむ習慣づくりができていることの現れなので、継続していく。

国語の通過率が向上した要因として、国語の研究を校内研究で行ってきたことが挙げられる。「勉強が好きである」「学校の授業が分かる」の質問が、区平均を越えていることから、授業力が向上していることが分かる。児童も読む力が高まってきている。引き続き国語の研究を行っていくことで、教師も児童も、力を高めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

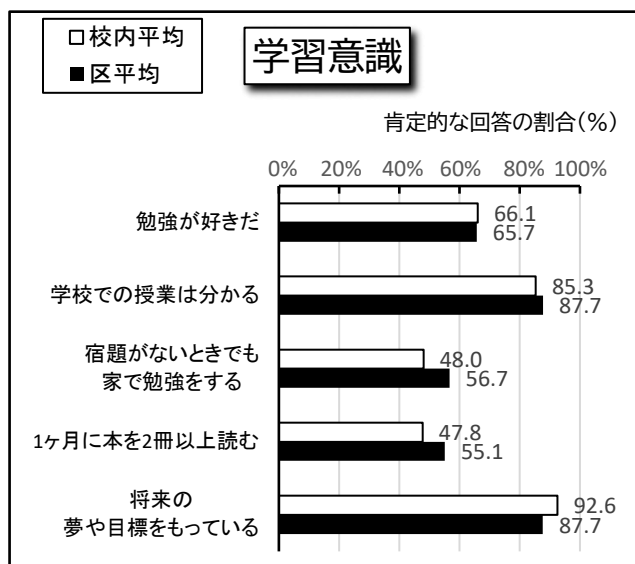
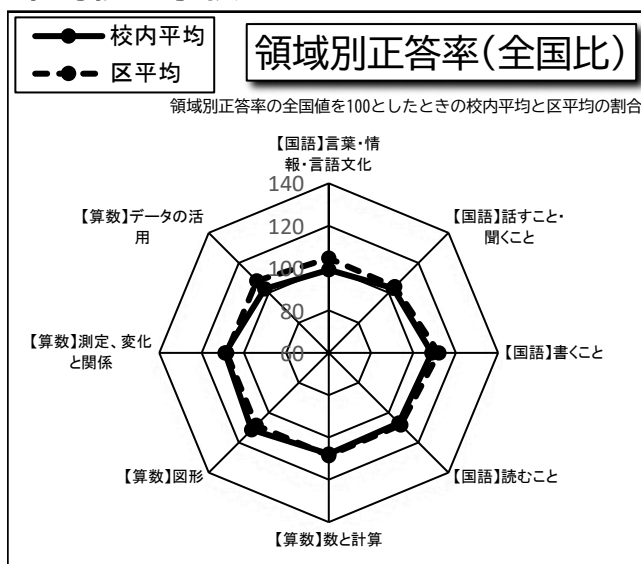
上記の分析結果を受けて、現在も取り組んでいるが、今後さらに力を入れて取り組んでいく学力向上の取り組みは3点ある。

1点目は、朝の学習パワーアップタイムの充実を図ることである。各学年が前年度までに定着を図れていない学習内容をSP表から洗い出し、最低週2回は実施する。ドリルやプリントを繰り返し用いて強化する。できないことができるようになる喜びを感じられるようにする。

2点目は、放課後学習の花丸教室の充実を図ることである。毎週火曜・木曜に取り組んでいるが、こちらは、現在の学習でのつまづきを克服することを狙いとする。授業の進度に合わせて、苦手意識をもつ児童への支援を行い、定着に繋げる。

3点目は、通常の授業の改善を行い、より子どもたちに分かる授業を展開する。必要に応じてICTを活用しつつ、自分の力で考えられる児童の育成を図る。教師が通常の授業を互に見合うことができる環境を確保し、助言し合い、指導力の向上を図る。

中島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	87.4	85.6	90.0	87.5	97.8	97.8	85.0	87.5	81.6	76.9	81.8	77.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	81.3	84.1	83.7	95.3	82.0	90.0	82.1	84.6	89.2	86.5	69.2	61.5
平均正答率(R8)	73.7	76.9	88.9	89.7	87.7	91.6	71.0	78.8	64.7	66.8	61.0	63.3
平均正答率(R7)	76.3	78.5	86.8	92.2	83.2	88.8	77.2	74.9	66.7	78.2	68.5	59.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

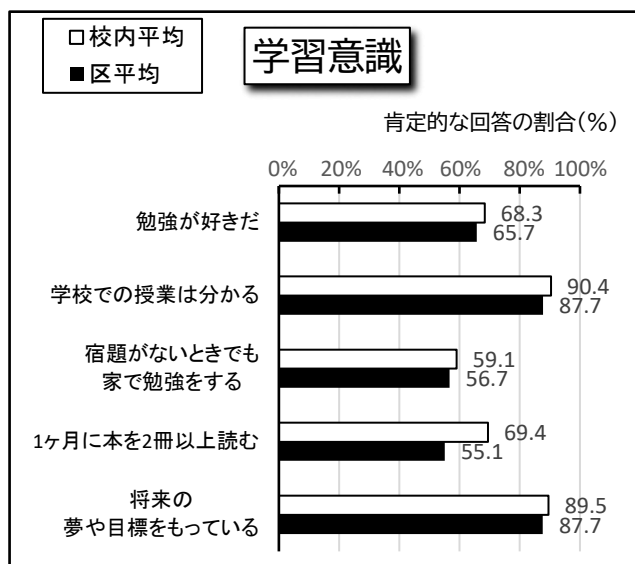
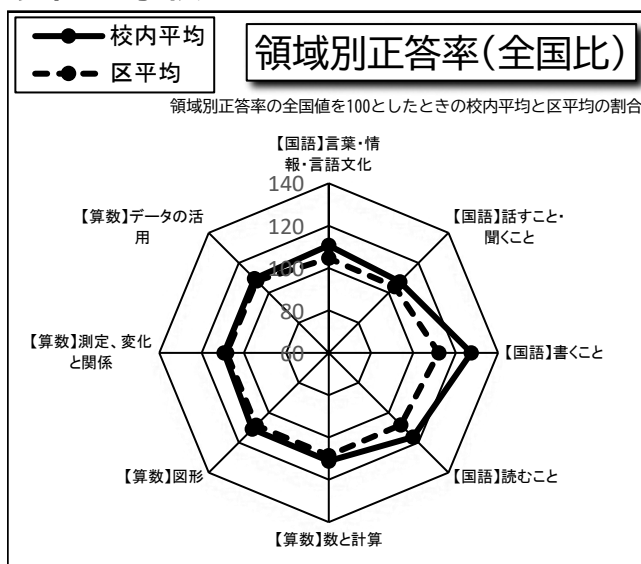
通過率は、学校全体で国語87.4%（昨年比+6.1ポイント）、算数85.6%（同+1.5ポイント）となり、2教科ともに上昇した。特に3年生では、国語・算数ともに通過率が97.8%となり、基礎的・基本的な内容の定着が進んだ。また、2年生、4年生において通過率が高く、日常的な学習の積み重ねや繰り返し指導の成果が表れている。一方で、平均正答率は、学校全体で国語73.7%（昨年比-2.6ポイント）、算数76.9%（同-1.6ポイント）で、やや下げている。特に5～6年生では、学年が上がるにつれ、国語の文章を正確に読み取る力や、算数の既習事項を活用して考える力に課題が見られる。国語では「言葉・情報・言語理解」と「書くこと」、算数では「図形」と「データの活用」の領域について、問題場面を理解し、根拠を明確にして説明する力を高めていく必要がある。学習意識調査では、「学校での授業は分かる」の肯定的回答が85.3%、「将来の夢や目標をもっている」が92.6%と高く、前向きに学習へ取り組む姿勢が見られる一方で、「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目は区平均を下回り、家庭学習の習慣化や読書活動のさらなる充実が課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

基礎的・基本的な学力の定着を図るため、朝学習や授業内の習熟の時間を確保し、漢字・語彙、計算、既習事項の定着を年間を通じて取り組む。特に高学年では、問題文を読み取る力、条件を整理する力、自分の考えを式・言葉で説明する力を高める学習活動を充実させる。国語では、校内研究と連動し、叙述を根拠に考えをもたせる活動や、目的に応じて文章を書く活動を意図的に設定する。また、読書量の向上に向けて、学校図書館の活用、読書記録、教師による本の紹介などを行い、本に親しむ機会を増やす。算数では、具体物、図、数直線、表などを用いて考えを可視化し、児童同士が考えを比べたり説明したりする活動を取り入れる。つまづきの見られる単元については、学年や習熟の状況に応じて補充指導を行い、確実な理解につなげる。

さらに、家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の提示や自主学習の例を学年で共通行動をとり、児童が自分で課題を選んで取り組めるようにする。保護者とも連携しながら、授業で学んだことを家庭学習や読書の充実につなげ、主体的に学び続ける児童の育成をめざす。

長門小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	95.8	83.9	97.0	93.9	100.0	91.7	93.5	87.1	95.0	80.0	95.0	72.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.4	89.2	100.0	100.0	96.7	96.7	87.2	84.6	89.5	89.5	83.3	80.6
平均正答率(R8)	79.4	78.4	92.7	91.5	91.7	90.5	78.7	77.0	74.3	73.8	70.7	69.8
平均正答率(R7)	82.0	82.1	90.4	93.7	91.4	92.1	83.8	80.1	75.9	83.6	76.4	69.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は79.4%で、前年度よりも2.6ポイント下がっている。通過率は95.8%で昨年度比+5.4ポイントである。全ての学年で90%を超えてきているが、目標値が昨年度より下がっていることを考え、改めて未定着領域の洗い出しを行い、児童の実態を再度把握し指導・改善が必要である。全学年で「知識技能」の定着を図り、「言葉・情報・言語文化」の領域において指導の見直し、復習が必要である。

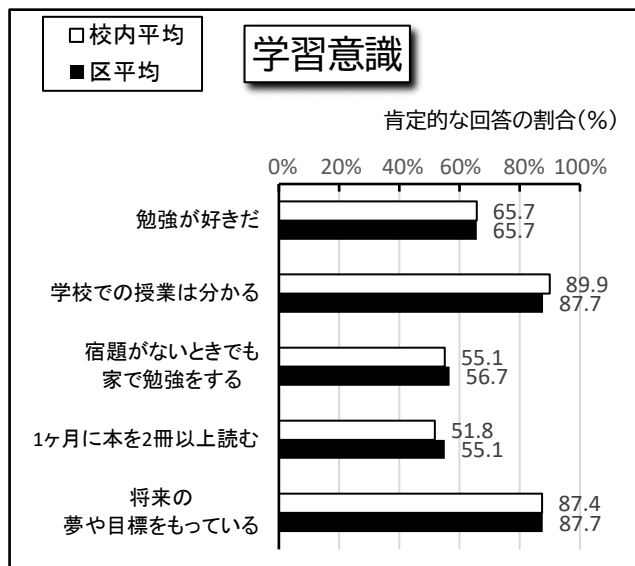
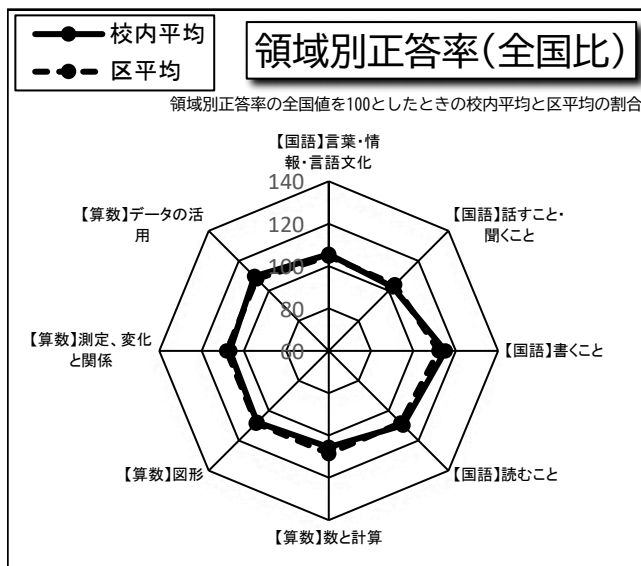
【算数】学校全体の平均正答率は、78.4%で、前年度より3.7ポイント下がっている。通過率も83.9%で前年度よりも5.3ポイント下がっている。学校全体として、平均正答率、通過率ともに下がった。下位層の児童には基礎・基本の未定着が見られるため、指導方法の改善とともに、補充学習の充実を図る必要がある。

【意識調査】「学校での授業は分かる」の肯定的回答が90%を超えている。これは、「分かる授業」を目指して授業改善に取り組んできた結果であると考えられる。また、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を14.3ポイント上回っている。図書館利活用に力を入れ、読書指導において、自分で課題を見つけて学習に向かう指導の成果が現れてきたと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◇授業力向上：教科指導専門指導員の指導とともに管理職の授業観察、校内OJTを通して教員一人ひとりの授業力向上に務める。基礎・基本の定着を図るために教員が教材の系統性を理解し、指導事項の確実な定着を図る。
- ◇基礎・基本の定着と個別指導の充実：MIMの結果、学力調査の結果分析より児童の実態を的確に把握し、未定着領域の多い児童を中心に意図的計画的に補充学習を実施する。また、そだち指導とも連携を図り、中学年でのかみそり解消ができるよう日々の授業改善に努める。特に算数では、AIドリルにおいて児童の実態に合わせたワークブックを作成し、課題に取り組ませることで効果的な支援を行う。
- ◇読書指導の充実：読書パスポートを作成し読書への意欲を高めるとともに、朝読書の時間を設定し、月に1度は全教職員の読み聞かせ指導を行い読書に親しませ、語彙力、読解力を高めていく。

西新井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.5	83.2	91.0	91.1	88.2	84.7	93.4	86.8	89.6	83.3	85.1	69.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.8	87.3	80.5	84.1	90.8	93.1	86.8	92.1	85.2	86.4	85.3	80.0
平均正答率(R8)	77.1	76.8	87.6	87.5	84.8	86.9	79.3	76.9	73.5	73.2	63.8	62.9
平均正答率(R7)	78.9	80.5	82.6	86.7	87.7	90.2	82.7	80.5	70.7	80.5	73.1	66.4

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語は「書くこと」が区平均を2.9ポイント、「読むこと」が1.4ポイント上回った。日常的な言語活動の充実や、記述式問題への継続的な取り組みの成果が表れた。一方で「話すこと・聞くこと」は区平均を1.6ポイント下回り、目的や意図に応じた確実な聞き取りや、自分の考えを整理して伝える表現力に課題が見られる。

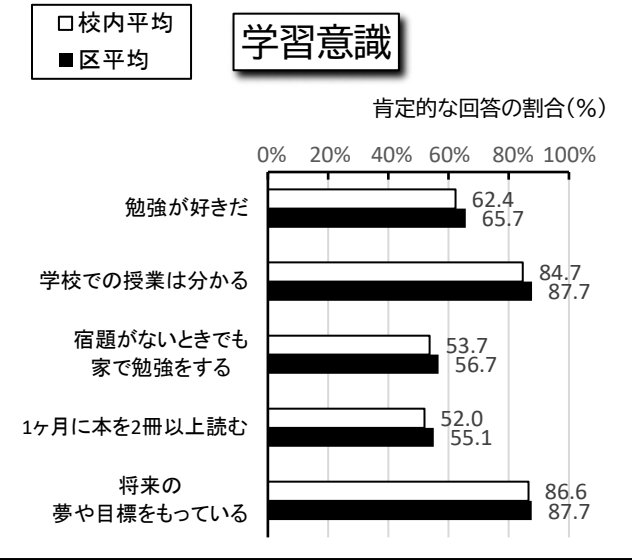
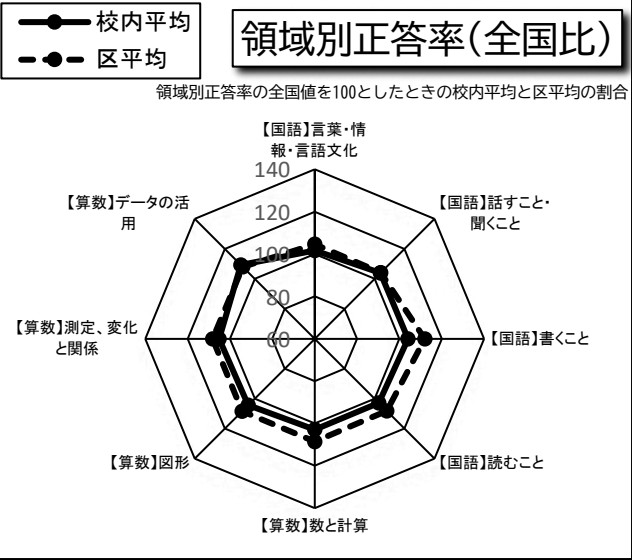
算数は「データの活用」が区平均を1.6ポイント上回ったが、「数と計算」が2.9ポイント、「測定、変化と関係」が1.4ポイント下回るなど、全体的に計算の確実性や数量関係を正しく捉える基礎・基本の定着に課題がある。

生活・学習意識調査では、「学校での授業は分かる」と回答した子どもが89.9%と区平均を2.2ポイント上回り、日頃の授業理解度は高い。しかし、「宿題がないときでも家で勉強をする」は55.1%と区平均を下回っており、授業で培った理解を確かな学力へと定着させるための自主的な家庭学習の習慣化が、今後の伸ばしていきたい点である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ A Iドリルを活用して、国語科や算数科における直近の既習内容の復習を行う。
- ・ 書く活動にも重点を置き、漢字の書き取りや百マス計算などの基礎的な内容の反復練習にも全校で取り組みを行う。
- ・ かけ算九九を2年生以上の全ての児童が習得するように、学校全体で取り組みを行う。全ての児童を対象にした「かけ算九九チャレンジ」を定期的に行い、達成した児童には認定証を渡すなどして、意欲や達成感を育みながら取り組みを行う。
- ・ 読解力向上のため、読書やN I E（新聞活用学習）に週1回朝の時間を活用して取り組みを行う。読書活動における各学年のめあてを定め、達成した児童を表彰して意欲付けを行っていく。
- ・ 今年度の学力の改善傾向の要因の一つとして、昨年度から「子どもが主体の学び」を意識した授業をすべての学年で実施してきたことが考えられる。教師主導の教え込みではなく、児童が自ら学ぶ学習活動を今年度も継続、発展させていく。

西新井第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	84.3	81.9	97.9	97.9	84.6	86.5	80.9	85.1	72.5	64.7	86.3	76.5
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	82.5	81.0	74.5	90.2	87.5	89.6	76.4	70.9	90.0	82.0	85.4	72.9
平均正答率(R8)	73.7	74.6	89.6	92.4	83.8	87.2	72.2	74.8	61.7	57.9	66.9	67.9
平均正答率(R7)	77.2	78.0	80.3	87.6	82.8	89.1	73.9	71.0	73.9	81.0	75.9	65.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

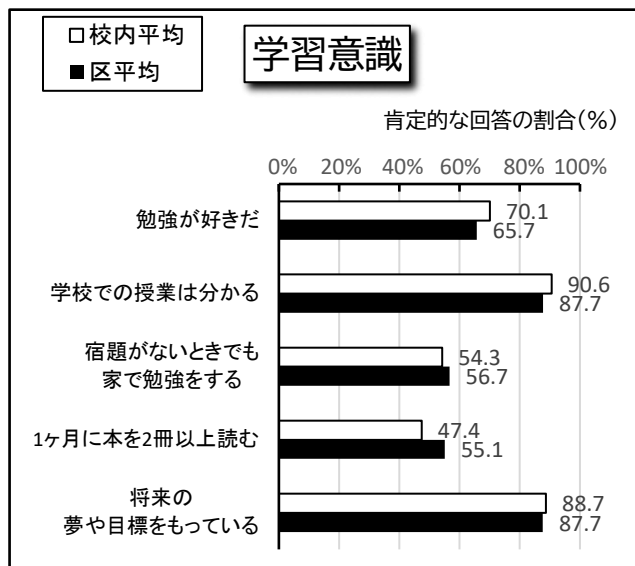
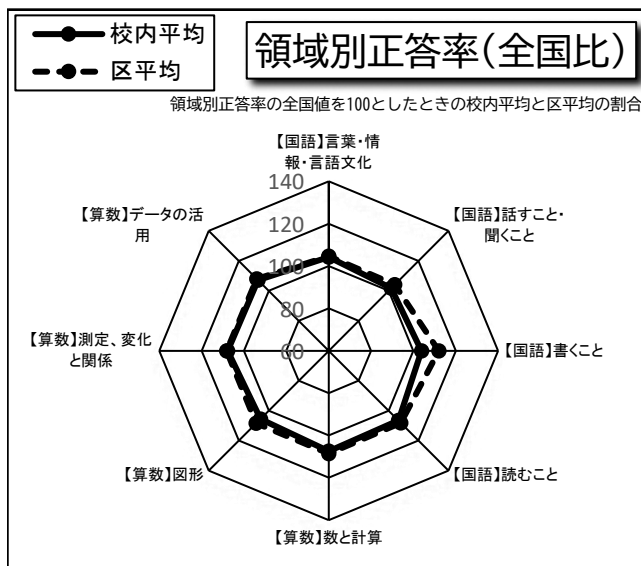
「学習定着度調査」分析結果

- 国語：昨年度と比較すると平均正答率が3.5ポイント下回っており、通過率が1.8ポイント上回っている。
学校全体では多少の増減あるものの全体的に学力が定着してきたと考える。特に2年生は昨年度より23.4ポイント上がり、学習の定着度が高い。
全体的に「思考・判断・表現」の領域の「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。
- 算数：昨年度と比較すると平均正答率が3.4ポイント下がってしまった一方で、通過率は0.9上回った。2年生は9割、3・4年生は8割を超え、学力の定着が見られる。5年生は個に応じた指導が必要であるが、6年生においては昨年度より3.6ポイント上回る結果となった。算数は各単元のテスト前に必ず復習の時間や評価テストの時間を取り、学力の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝の時間帯に、「西ータイム」（東京ベーシックドリル・プリント学習）や「AIドリルタイム」（漢字・計算）を行い、個の課題に応じた苦手な単元を復習したり、前学年の課題に取り組んだりする。
- SP表をもとに各担任、算数少人数担当が授業改善プランを作成し、データをもとに実態に合わせた授業を行う。また、下位層の児童を専科教員が取り出し児童を指導する。
- 夏季休業期間に「サマースクール」を5日間実施し、学力に課題のある児童を指導し、基礎基本の定着を図る。
- 学力調査対策として、過去問を12月、2月、4月の3回行い、児童の定着度を調べると共に、次なる課題解決に取り組む。

西新井第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.6	85.6	100.0	100.0	88.2	86.5	90.3	90.3	89.3	83.9	86.8	69.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	80.4	86.2	81.1	85.2	80.0	100.0	77.8	88.9	80.6	86.1	82.4	76.5
平均正答率(R8)	75.0	75.7	93.3	94.5	82.0	84.9	72.2	75.7	68.8	69.0	64.6	61.8
平均正答率(R7)	74.5	77.6	82.7	83.3	84.3	89.0	76.3	77.9	63.5	79.7	69.3	65.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語の学校全体の平均正答率は75.0%で、前年度から0.5ポイント上昇した。通過率は90.6%となり、前年度から10.2ポイント上昇した。一方で、2・5年生以外の平均正答率は前年度に比べて下回っている状況が見られる。そのため基礎的な内容の定着に加え、個別の対策が必要である。領域別に見ると、区平均と比較して、「言葉・情報・言語文化」以外の領域が下回っている状況である。特に「書くこと」の正答率は大きく下回っているため、今後も指導方法を検討し、実施していくことが重要だと考える。

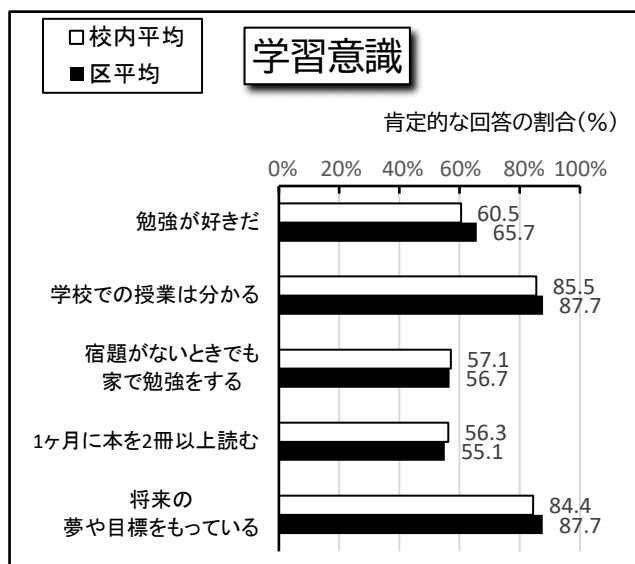
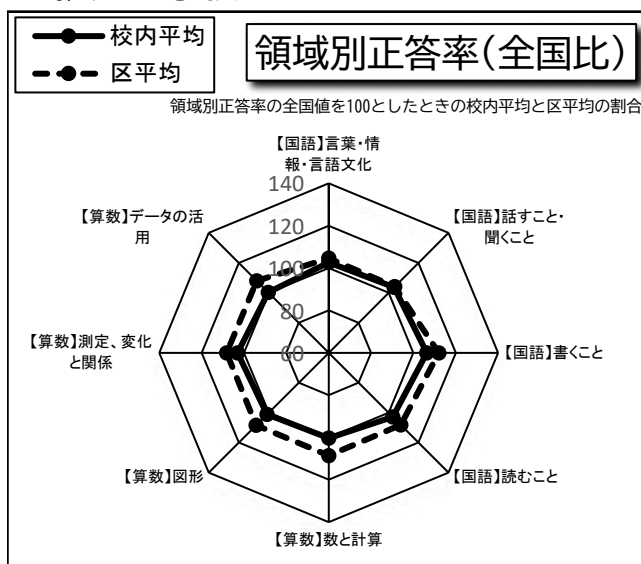
算数の学校全体の平均正答率は75.7%と前年度から1.9ポイント減少した。通過率は85.6%となり、前年度と比べ0.6ポイント減少している。一方で、領域別正答率を見ると、区平均と同水準を維持しており、基礎的な学習の内容は概ね定着していると考えられる。今後も習熟度別学習やA Iドリルの効果的な活用を継続して実施していく必要がある。

意識調査の結果は「宿題がないときでも家で勉強する」「1ヶ月に本を2冊以上読む」が区平均を下回っている状況である。児童の学習意欲を引き続き高めるとともに、読書活動や家庭学習の習慣化を推進していく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードを軸に「わかる・できる」授業を実践し、基礎学力の確実な定着を図る。
- 校内研究のテーマ「主体的に学び合い、考えを深める児童の育成」をテーマに、年間4回の研究授業を実施する。「情報を活用した学習過程の充実」に重点を置き、「何を」「なぜ」学ぶのかを明確にした課題設定や学習の見通しをもたせる授業づくりをしていく。
- 朝学習や放課後学習（国語・算数）を充実。A Iドリルを活用した小テストや練習問題で効果的な学習を支援する。
- I C T（Google Workspace, Canvaなど）を積極的に活用し、効果的な授業を展開する。
- 読書活動を促し、図書委員会や図書ボランティアによる読み聞かせを実施する。調べる学習コンクールへの参加も推進する。
- キャリア教育の充実を図り、児童が将来の夢や目標を明確に持てるよう支援する。〇〇教室のような体験的な活動を充実させ、社会性や実践力を育む。

西伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	85.3	76.2	85.7	89.3	89.2	91.6	80.2	73.3	89.1	73.9	82.7	57.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.1	85.2	86.4	88.9	85.6	84.4	88.0	88.0	83.7	82.7	87.5	81.9
平均正答率(R8)	73.5	70.9	87.3	87.6	85.7	87.1	70.6	68.3	69.7	66.1	62.1	56.4
平均正答率(R7)	78.6	79.8	85.6	87.0	84.6	85.8	82.0	79.1	69.2	78.7	75.5	69.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

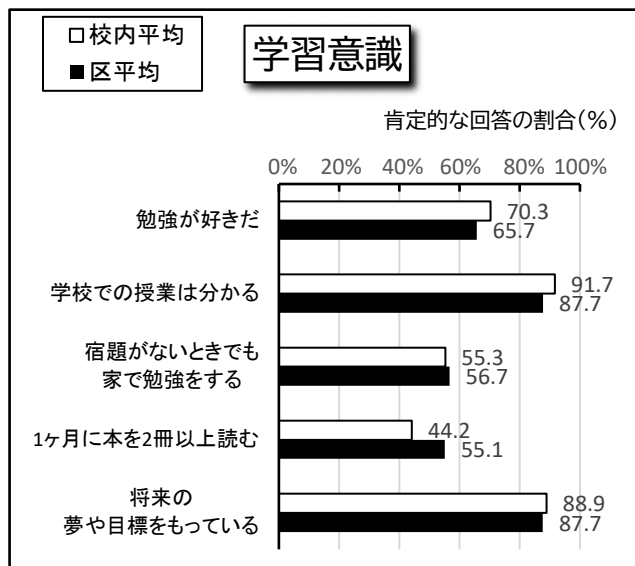
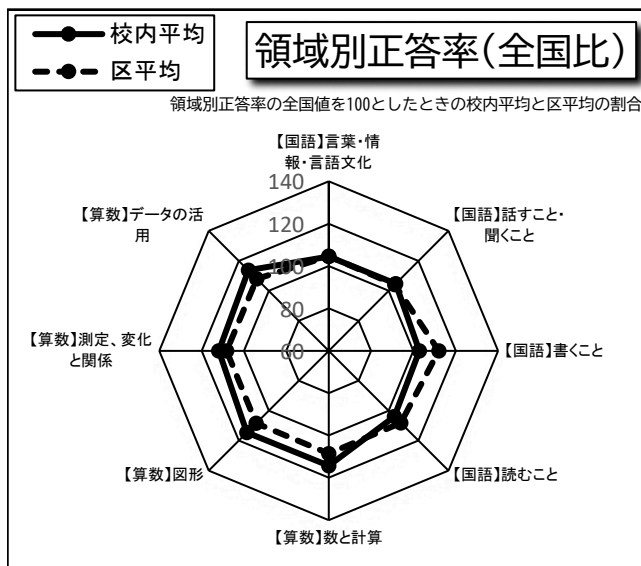
「学習定着度調査」分析結果

昨年度と比較して、国語は通過率が0.8ポイント、算数は9.0ポイント下回る結果となっている。特に4年生以上の高学年における、算数の定着率が低いことが分かる。本校では算数少人数の実施やA Iドリルの活用などを行っており、個別最適な学びを進めている。しかし、一定数の児童においては前学年の知識・技能が十分に身に付いておらず、当該学年での学びが理解できない児童がいることも事実である。昨年度は東京都体育健康教育推進校として保健体育科においては十分に成果を残すことができた。その成果を他教科へと広げるために今年度は国語科や算数科においても、研究を深めている。児童が学びの主役となり、問いをもち今までの既習の知識を生かし、仲間と協働的に学習をすすめることで、より深い学習になると考えている。研究を柱に国語科や算数科の学力の向上を図りたい。学習意識調査でも、「勉強が好きだ」と回答している児童は、区平均と比較し5.2ポイント下回っている。勉強に対して苦手意識をもっている児童もいることがこれらの結果に繋がると考える。以上のことから、本校の児童には、学力が定着している児童はいるが、個別に支援が必要な児童への配慮が課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

上記の結果を受け、確かな学力を定着させ、主体的に学びに取り組めるようにする支援が必要である。児童が学びを自己決定し、見通しをもって学習に取り組むことで、学習に対する意欲が向上すると考える。そこで、国語科や算数科においても研究を通して、「指導の個別化」と「学習の個性化」を図れるようにし、児童に基礎・基本をしっかりと定着させた上で、児童がその学びのベースを活用しながら、一人ひとりの課題を解決していける授業を展開できるようにしていく。教員の授業改善を図ることが、児童の学力の定着に直結すると考える。若手教員も多いため、ミニ研修会などのO J Tを無理のない範囲で実施し、指導力の向上に努める。また、引き続き授業内でのI C Tの利活用や朝学習や家庭学習でA Iドリルを活用し、基礎・基本の定着を図るようにしていく。さらに、足立区の学習教材「次へのステップ」を印刷して、授業や家庭学習に取り入れていくようにする。学習が苦手な児童のボトムアップを目指して教師も支援にあたるようにしていく。以上の取り組みを通して、課題の解決を図り、学力向上をめざしていく。

西保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.5	91.7	95.7	100.0	84.6	94.9	88.0	96.0	85.2	70.4	96.6	96.6
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	89.6	93.4	85.3	94.3	95.7	95.7	85.7	92.9	89.7	93.1	95.2	90.5
平均正答率(R8)	75.7	81.6	90.2	93.9	82.2	90.5	72.9	80.6	67.0	67.8	69.6	77.8
平均正答率(R7)	80.6	83.4	85.6	86.9	89.0	89.3	80.6	79.6	71.3	85.2	78.9	75.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】2・4・6年生は昨年度の通過率を上回ることができ、本年度の学校全体の通過率は、昨年度とほぼ同程度であった。課題である「書くこと」「読むこと」については、説明的文章の読み取りや、自分の考えの理由や根拠を記述する活動を継続して取り入れたことで、基礎的な力の定着が見られた。一方で、3・5年生は昨年度を下回ったため、学年の実態に応じた指導の工夫を進めていく。

【算数】本年度の通過率は昨年度と比較すると-1.7ポイントであった。領域別では、基礎的な計算や図形については概ね定着が見られたが、5年生の結果に課題が見られた。今後もテープ図・数直線などを活用し、根拠をもって立式・説明する力を育成するとともに、繰り返し学習や課題解決型学習を充実させていく。

【学習意識】児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む姿勢の育成が引き続き課題である。今後も「わかる・できる授業」の充実を図るとともに、ICTやAIドリルを効果的に活用し、児童が自信をもって意欲的に学習や学校生活に取り組めるよう指導・支援を継続していく。

学校による学力向上への主な取り組み

学力推進委員会を中心に、指導改善を組織的に行う。また、家庭と連携し児童に家庭学習習慣と自主的に学習に取り組む力をつける。

【日々の授業改善】①足立スタンダードによる授業の実施 ②学習規律の定着 ③ICTを効果的に活用した授業の実施 ④AIドリルの積極的な活用 ⑤習熟度別指導の充実 ⑥ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり ⑦算数「用語カード」の活用 ⑧管理職・教科指導専門員による授業観察と指導・助言 ⑨月1回の西保OJT研修会の実施 ⑩相互授業参観

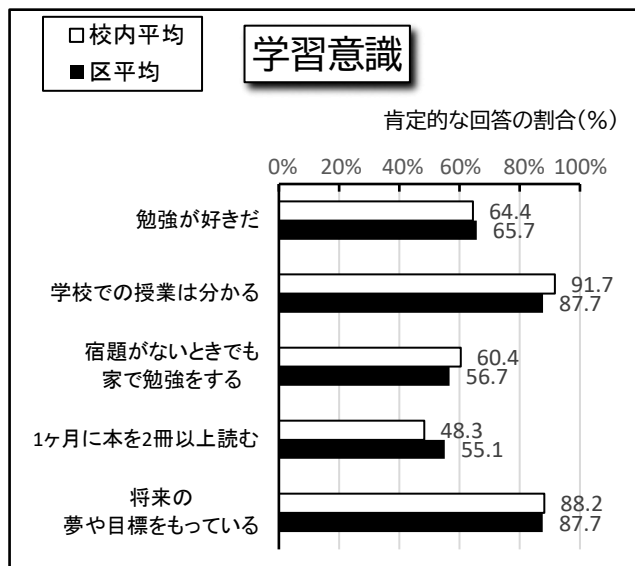
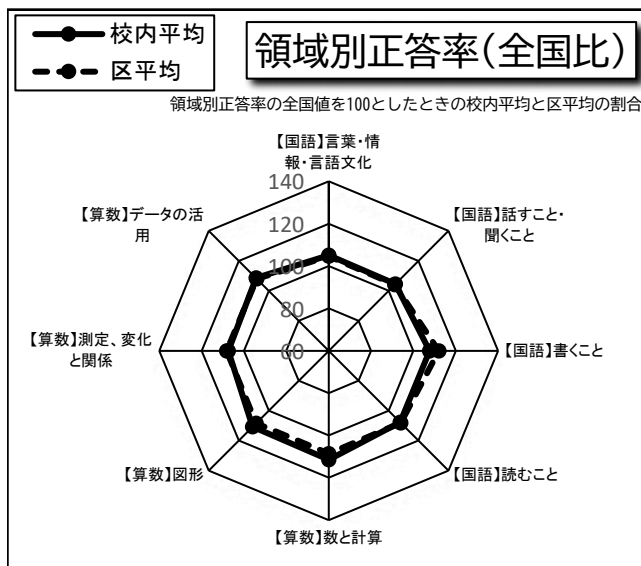
【補充学習】①月1回補充学習の実施（学年全体のつまづきを解消する時間）②週1回程度の放課後補充教室の実施（副担任も指導）③夏季休業中のサマースクールの実施（10日間）

【朝学習】週3回の朝学習（AIドリル2回・読むこと1回）

【家庭学習の充実】①年間3回の家庭学習週間 ②AIドリルの活用（月300問）

【小中連携】研究主題「自分の考えをもち、表現する力の育成」①年2回の研究授業の実施（小・中学校各1回）②分科会による学習指導案作成と授業分析

花畑小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.9	88.3	96.0	94.0	95.5	86.4	94.6	97.3	89.8	87.8	82.9	76.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	90.9	93.2	81.8	93.2	94.4	97.2	96.2	94.2	88.1	88.1	93.5	93.5
平均正答率(R8)	76.4	79.3	90.5	91.5	85.4	88.0	77.5	81.6	70.2	75.6	62.0	64.0
平均正答率(R7)	81.1	82.8	86.1	88.5	88.1	92.1	86.3	81.9	70.0	80.4	78.4	75.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【通過率および平均正答率】学校全体の国語の結果は前年度比、通過率+1.0ポイント、正答率-4.7ポイントである。3年生以上の通過率について経年比較すると3、4年生は前年度を上回っている。算数は、通過率-4.9ポイント、正答率-3.5ポイントである。3年生以上の通過率について経年比較すると4年生以外は前年度を下回っている。通過率は90%近くまで達しているが平均正答率は低い。目標値周辺層の児童への指導を充実させる必要がある。

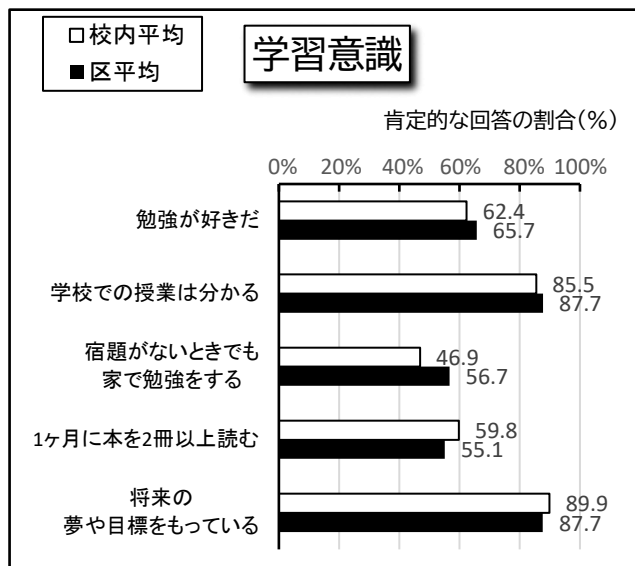
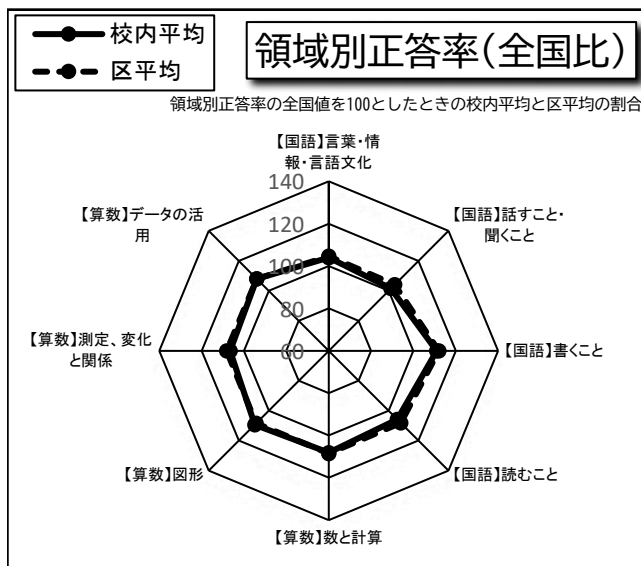
【領域別正答率】国語は「書くこと」の正答率が区平均を下回っている。目的やテーマに応じた文書を書く機会を増やすとともに、自ら校正し読み手が理解しやすい文章を書く力や語彙力を高める。算数はどの領域も区平均程度である。計算や作図の反復学習を行う機会を増やし、知識や技能のより一層の定着、習熟を図る。

【学習意識】「1ヶ月に本を2冊以上読む」が区平均を下回っている。学校図書館を利用した調べ学習等の充実に取り組んできた一方で、読書活動に注ぐ時間が少なくなっていることが一要因であると考えられる。バランスのとれた学校図書館の活用に学校全体で取り組んでいく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業改善…「教師が教える授業」から「児童が主体的に学ぶ授業」への転換を図る。ICT端末を効果的に活用し、児童自身が「課題の設定」や「学び方の選択・決定」を行ったり、考えを共有したりする活動の充実を図る。
- 朝学習（15分間）…月曜日：読書、水曜日：音読、金曜日：マス計算に取り組む。
- 補充学習（放課後・長期休業中）…個別指導を行い、つまずきの早期解消を図る。
- まなびタイム…1～3年生は週1時間、4～6年生は月2～3時間、自分の学習進度に合わせた学習や課題克服のための学習、調べ学習などに主体的に取り組む。
- 読書活動…年間目標冊数やページ数を設定し、児童自ら記録する。6・11月を読書月間とし学校図書館支援員や学校図書館ボランティアなどと連携して読書活動の推進を行う。
- ニュース見つけた…4～6年生が心にとめた新聞記事を要約し、考えをまとめ発表する。
- 家庭学習…AIドリルなどを活用し、1～3年生は30分、4～6年生は「10分×学年」の学習に毎日取り組む。

花畑第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.8	83.5	98.1	100.0	90.0	98.0	84.6	90.4	93.2	76.3	80.0	60.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.1	89.8	94.0	98.0	92.3	100.0	86.4	98.3	77.5	74.6	92.5	85.2
平均正答率(R8)	73.8	74.9	91.8	96.7	85.0	90.0	76.5	80.8	68.6	66.0	59.2	56.0
平均正答率(R7)	77.5	79.6	86.7	91.5	88.0	92.6	81.1	83.7	64.4	71.1	76.8	71.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】全体の平均正答率は73.8%で、昨年度比で3.7ポイント下回った。通過率は昨年度より0.7ポイント上回った。言葉・情報・言語文化の領域において、どの学年も未定着の児童が一定数見られる。読み取ったことを基に考えを記述する問題では、問題に対して正対することに課題があり、誤答が目立った。パワーアップタイムなどで、何を問われているのかを考えるキーワードなどを押さえ、語彙力や読解力の向上に一層努めていく。

【算数】全体の平均正答率は74.9%で、昨年度比で4.7ポイント下回った。また、通過率も自校の昨年度より6.3ポイント下回る結果となった。見直しの徹底や足立スタンダードに基づいた授業を展開したが、活用の時間を確保できなかったことが数値に現れていると考える。

【意識調査】上記3項目では、区平均を下回る結果となった。児童には再度学習する意義や家庭学習の仕方を伝え、全教員では足立スタンダードに基づいた授業力の向上に引き続き努めていく。また、ここ数年、読書への興味・関心が区平均を下回っていたが、学校図書館支援員との連携や学校図書館の活用のさらなる推進を行ったり読書カードの工夫や蔵書の充実を図ったりしたことで、区の平均値を4.7ポイント上回ることができた。

学校による学力向上への主な取り組み

◆教師の授業力向上への取り組み

- ・OJTのペア、グループを編成し、指導案検討・授業観察・事後指導を通して、足立スタンダードに沿った授業実践・改善に全教員で取り組む。校内研究で、学校図書館の利活用を中心とした探究的な学びについて研究し、授業力向上を図る。

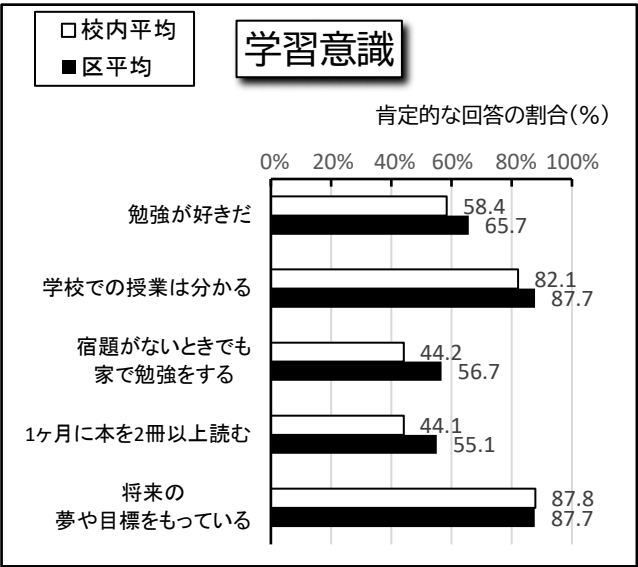
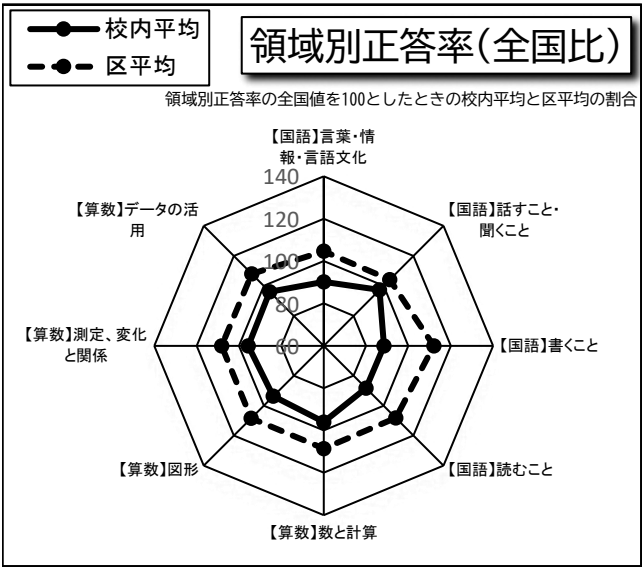
- ・授業でのICTの効果的な活用法を学ぶ研修や情報交換を行い全教員の活用力向上を図る。

◆パワーアップタイム・ステップアップタイムへの取り組み・放課後補充学習の実施

- ・週に1時間、国語・算数の基礎的・基本的な学習の定着の時間を設定し全教員で指導を行う。

- ・長期休業前に、学力定着度テストで該当学年の学習内容の定着を確認し、実態に応じて補習計画などを見直し、実施する。また、該当学年の内容について未定着項目が多い児童を対象に、放課後や個人面談期間、長期休業中に補充学習を行い、ボトムアップを図る。

花畑西小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	73.5	72.3	88.9	94.4	63.9	66.7	70.6	76.5	78.8	73.6	66.0	57.4
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	68.6	67.0	47.1	76.5	62.5	59.4	83.7	79.6	62.7	63.5	77.8	57.4
平均正答率(R8)	63.9	65.6	85.1	89.9	70.5	78.9	60.8	64.8	63.1	61.8	52.0	50.3
平均正答率(R7)	67.4	68.3	70.7	80.8	75.1	74.0	75.2	72.8	55.4	67.6	67.7	56.2

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

令和8年度の通過率は、令和7年度と比較し、国語科、算数科それぞれ、4.9ポイント、5.3ポイント増加した。しかし、すべての領域において、区平均正答率を下回っている。

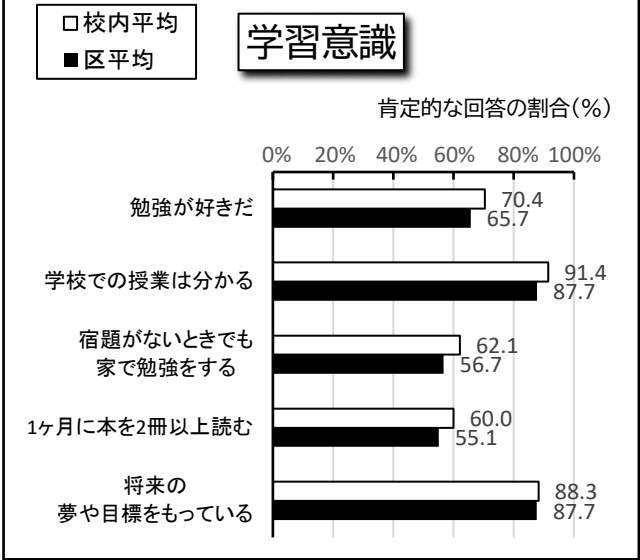
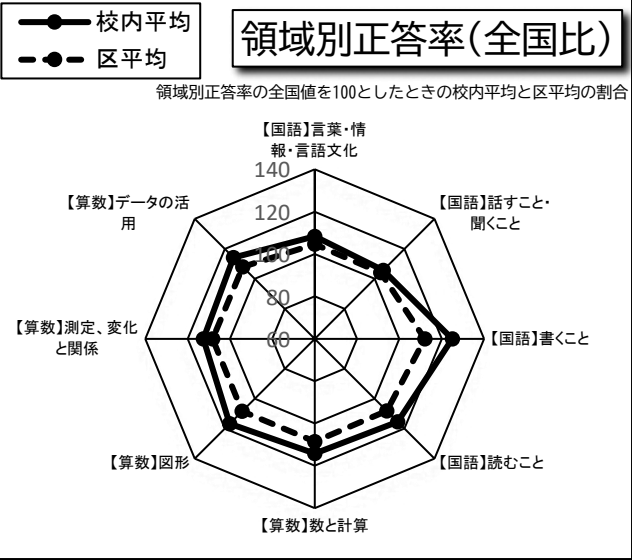
【国語】課題のある領域は、「読むこと」である。区の平均正答率の差は、各学年10ポイント程度差がある。4層分析の結果から、一部の児童は、学習内容が未定着であり、基礎・基本的な知識・技能にさかのぼった個別指導が必要である。文学的文章の設問において、場面や登場人物の様子、登場人物の心情を読み取ることができていない。「読むこと」の領域における系統的な指導を、校内全体で実施する必要がある。

【算数】3～6年生の児童は、知識を正しく理解していない状況が明らかである。中学年は、繰り下がり計算に課題がある。また、直角三角形や円などの平面図形の性質、単位変換の行い方、道のりと距離の違いなど、基本的な知識を理解していない。高学年は、平行四辺形や角柱の性質、展開図から立体図形を捉えること、百分率の理解、平均の解法、円グラフの読み方など、知識を正しく習得していないため、正答率が低いことが明らかになった。

学校による学力向上への主な取り組み

- 1 フラワータイム（昼）および放課後学習を実施する。
フラワータイムにおいて、A Iドリルを活用し読解問題や下の学年の問題に取り組み、基礎・基本の定着を図る。また、音読を実施し、文をまとまりで捉える力を育み、文に触れる心地よさを味わわせる。放課後学習は、算数科の単元に応じ未定着の児童を対象に実施する。少人数の児童に複数の教員が指導を実施することで、知識を正しく習得させていく。
- 2 足立スタンダードを基にした授業改善
 - ・国語科の「読むこと」における「書かれていることを正確に読み取るための課題（確かな読み）」に関する教員研修を実施する。教員は、児童が叙述を基に、自己の考えを広げたり、深めたりする学習過程について見識を深め、発達の段階に応じた指導を行う。
 - ・算数科の学習においては、問題解決学習のプロセスの中で、自力解決および比較検討、まとめの時間を十分に確保する。特に、学習のまとめや振り返りの時間において、児童が問題を解決することで得られた知識を理解することができるよう、丁寧に指導を行う。

花保小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	94.1	90.1	93.7	98.4	96.8	92.6	89.9	88.7	90.9	89.6	97.7	83.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.9	93.2	92.3	98.9	93.0	97.2	91.1	93.7	91.9	89.5	91.4	85.7
平均正答率(R8)	79.6	81.4	91.2	94.3	89.6	91.0	79.4	78.8	70.4	74.9	72.2	74.0
平均正答率(R7)	83.0	83.9	89.0	92.9	90.3	90.1	85.9	82.4	75.9	83.9	77.0	71.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は、94.1%で、前年度よりも2.2ポイント上がった。すべての学年が通過率89%を超えた。平均正答率は79.6%で、前年度よりも3.4ポイント下がっている。学年別で平均正答率を見ると、3～6年生は昨年度よりも0.7～6.5ポイント下がっている。誤答を見ると、短答式の問題よりも選択式の問題のほうが正答率が低い。

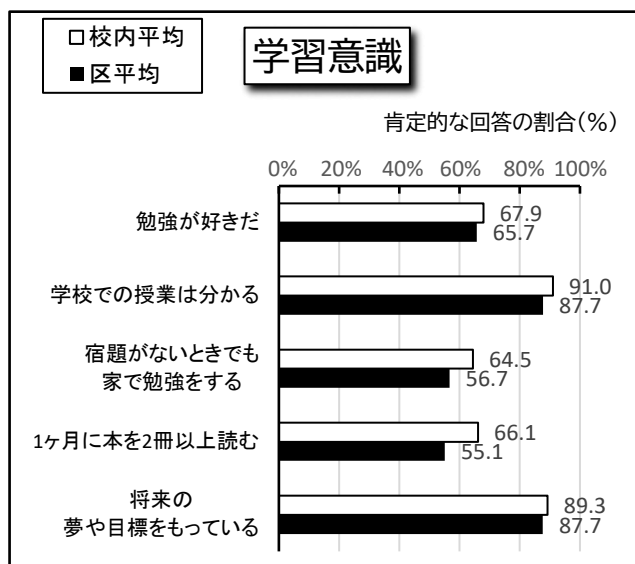
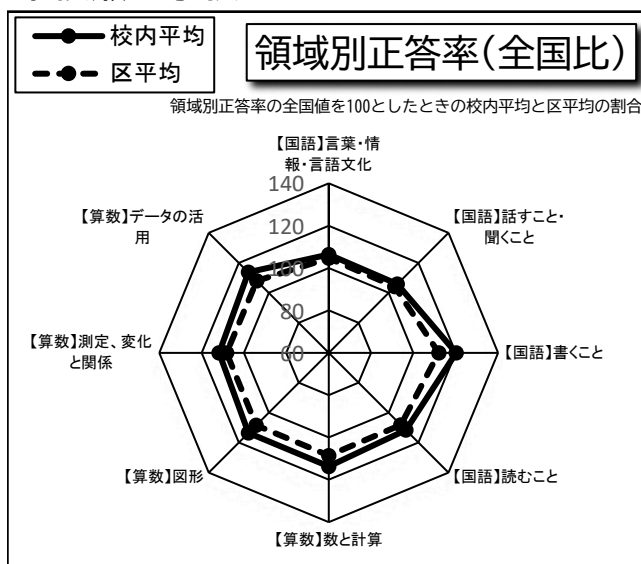
【算数】学校全体の通過率は、90.1%で、前年度よりも3.1ポイント下がったが、すべての学年で通過率83%を超えた。平均正答率は81.4%で、前年度よりも2.5ポイント下がっている。学年別で平均正答率を見ると、4・5年生は昨年度よりも約3～9ポイント下がっている。観点別に見てみると、思考・判断・表現を問われる問題において、4年生から正答率が下がることから、中学年からの基礎・基本の徹底が大切であると考え。

【意識調査】学習意欲などにおいて、前年度までの調査とほぼ変わりがなく、全ての項目において区平均より高い。しかし、A層とD層の差が大きいことから、授業の中で「できた」「わかった」という達成感を多くの児童に味わわせることが重要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習を週3回実施し漢字やA Iドリルを活用した算数、音読、読書に取り組む。これらの内容は水曜日5時間目「花保ステップタイム」でも行い、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 前学年・現学年の漢字や計算確認テストを年8回行い、基礎学力の定着を図る。
- 2年生以上は、九九暗唱検定を行う。1回で合格できなかった児童は、年2回更新検定を行う。
- 学習内容の復習及び基礎学力の定着が十分ではない児童の個別指導を放課後などに行う。
- 家庭学習の時間を学年×10分以上を原則として宿題に取り組みせ、家庭学習の習慣化を図る。内容は、国語や算数、音読、自主学習を行う。なお、自主学習（2年生以上）については、調べ学習の他に、苦手な学習や力を伸ばす学習等、児童の主体性を大切にしている。
- 夏季チャレンジ教室を夏季休業中に10コマ実施し、基礎学力の定着を図る。児童のつまづきに合わせた学習内容を行う。
- O I M指導を1年生は月2回、2年生は月1回実施する。

東綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.8	91.8	97.4	100.0	88.0	95.7	98.5	96.9	90.4	78.1	85.9	87.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	91.2	91.0	90.5	97.7	96.9	100.0	94.4	93.0	86.7	82.7	88.8	82.5
平均正答率(R8)	78.2	81.1	92.2	94.8	85.6	89.4	83.2	87.6	70.6	70.5	63.7	66.5
平均正答率(R7)	81.7	82.5	88.8	93.4	91.6	93.0	84.3	81.0	72.2	78.2	76.5	71.5

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語、算数ともに5学年で区の通過率を上回る。昨年度と比べると、通過率は国語は0.6ポイント上回り、算数は0.8ポイント上回った。以下、区の通過率の比較である。

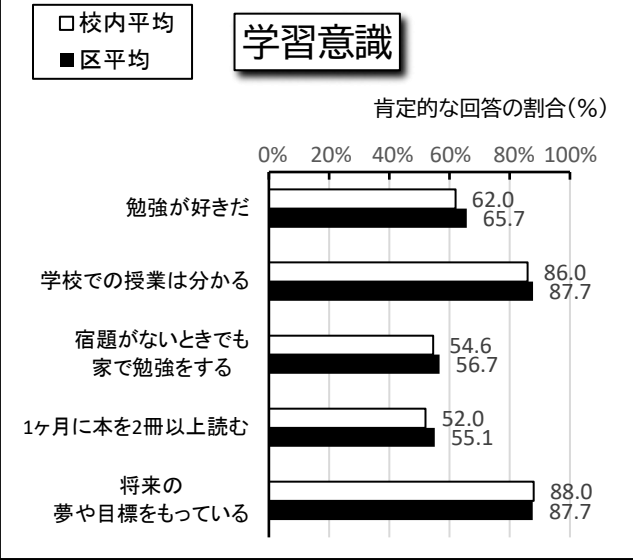
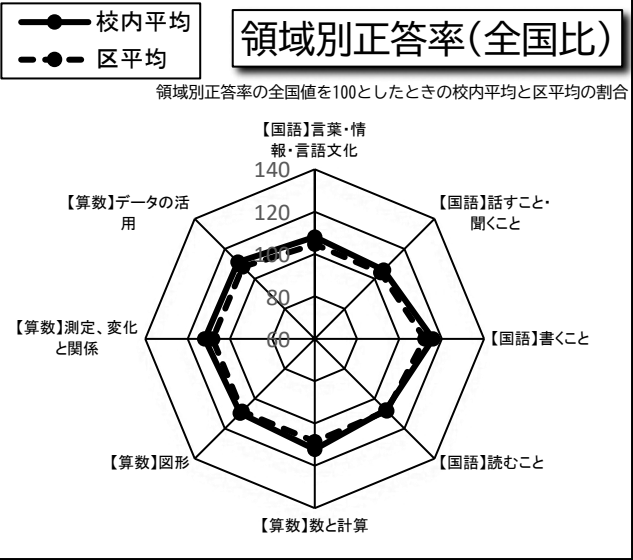
- ・2年生…国語は区の通過率と比較し5.8ポイント上回り、算数は6.5ポイント上回る。
- ・3年生…国語は区の通過率と比較し0.2ポイント下回り、算数は5.9ポイント上回る。
- ・4年生…国語は区の通過率と比較し10.5ポイント上回り、算数は10ポイント上回る。
- ・5年生…国語は区の通過率と比較し0.8ポイント上回り、算数は1.4ポイント下回る。
- ・6年生…国語は区の通過率と比較し1.8ポイント下回り、算数は11ポイント上回る。

算数科では、個別指導の際に基礎・基本的な内容を振り返りつつ指導したり、数直線を活用して立式の根拠を理解させたりする指導に重きを置く。また意識調査では、全ての項目が区平均を上回っている。「学校での授業は分かる」では、区平均を3.3ポイント上回り「1ヶ月に本を2冊以上読む」では区平均を11ポイント上回った。パワーアップタイムでの朝読書の取り組みが成果として表れている。

学校による学力向上への主な取り組み

- ショートパワーアップタイムの実施：毎日昼の15分間、国語・算数の基礎・基本の定着を図るために、AIドリルも積極的に取り入れている。また個別指導も有効に活用し、指導を積み重ねている。
- 学力調査、ベーシックドリル、ワークテストの分析と見直し：結果を分析して児童の実態を把握し、授業改善や個別指導の充実を図る。ワークテストの結果をポートフォリオにまとめ、個人面談等で活用する。
- 家庭学習の充実：各学年、学年×10分を目安に家庭学習を行う。学習カードを用いて、計画・記録・振り返りを行うとともに、自分で学習内容を決める自主学習にも取り組む。
- 児童アンケートの実施：隔月で学習に関する児童アンケートを実施し、児童の実態を把握して授業改善に生かす。
- 教員の授業力の向上：ミドルリーダー研修やスキルアップ研修を通してOJTを充実させ、教員指導力を図る。

東伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	91.6	88.5	82.4	86.7	92.7	95.2	92.8	89.7	98.6	91.3	91.6	81.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	87.6	87.1	90.5	94.0	84.4	87.5	86.3	93.2	89.8	83.7	87.0	79.3
平均正答率(R8)	77.8	79.3	84.6	86.2	86.8	91.3	78.6	79.6	74.8	75.5	69.1	69.3
平均正答率(R7)	77.7	78.5	86.8	89.7	85.9	87.2	80.7	78.0	69.5	77.8	71.1	63.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

昨年度と比較して、学校全体の通過率は、国語で4ポイント、算数で1.4ポイント上昇した。経年変化で見ると、国語の通過率では、昨年度を下回った学年はなく全学年で上昇していた。算数の通過率では、5・6年生が昨年度を下回っている。ただし問題が難化する中、大幅にポイントは下降していないことから、基礎基本の学力は定着していると考えられる。国語の領域別正答率では、全領域で区平均を上回る結果となった。今後も言語指導や要旨を捉える学習活動を増やして、力を伸ばしていくようにしたい。算数の領域別正答率でも、全領域で区平均を上回る結果となった。反復練習を多く取り入れ、さらに学力向上を図っていくようにしたい。

学習意識については、「1か月に本を2冊以上読む」の項目では、昨年度より3.1ポイント上昇した。「ひがし学習月間」の取り組みや 図書支援員と連携を図って自主学習や調べ学習を支援したことで意識が高まったと考えられる。また、「将来の目標や希望を持っている」の項目では、区の平均を上回った。学びを生活に生かす児童の育成を目指して、キャリアタイムの取り組みに力を入れている効果が表れたと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝のパワーアップタイム

国語と算数の基礎力向上を目指し、漢字練習や計算練習、読書を行っている。A Iドリルも活用している。

○放課後ステップアップ教室

区学力調査の結果から、つまずきのある児童を対象に、補充プリントを用意し月に2回程度復習を行って、つまずきの解消をめざしている。A Iドリルも活用している。

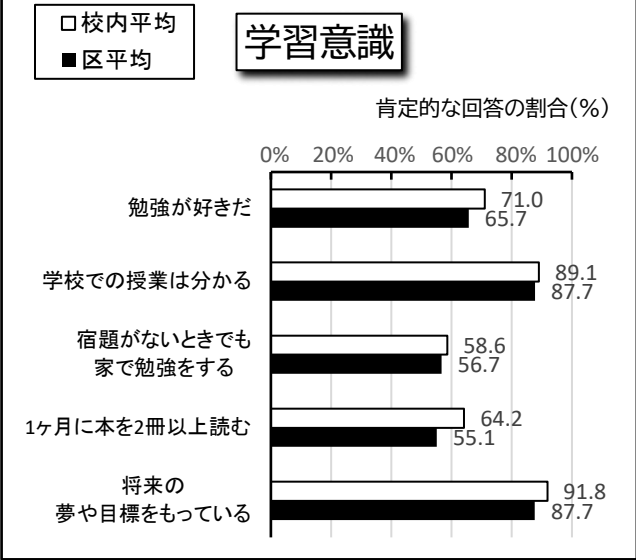
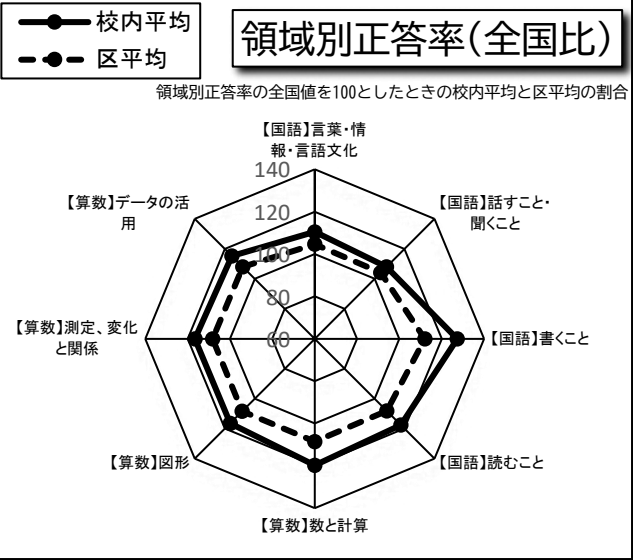
○自主学習の推進

年間を通して、自主学習に取り組んでいる。授業の復習に取り組むだけでなく、自分で課題を設定し調べる学習を行い、さまざまな分野への関心を深めようとしている。

○校内研究の充実

校内研究として、算数科で自由進度学習を取り入れた授業づくりを通して、主体的に学ぶ児童の育成をめざしている。基礎・基本の定着だけでなく思考力や表現力の育成も図っていく。

東加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	96.4	93.8	98.6	97.3	94.8	92.8	93.2	96.6	97.0	87.1	98.9	96.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	95.5	93.7	94.3	95.5	95.5	96.6	96.9	94.8	96.8	92.5	93.4	88.2
平均正答率(R8)	81.0	84.0	91.6	94.9	90.0	91.7	82.1	85.4	75.4	76.2	71.9	78.0
平均正答率(R7)	83.7	84.8	90.1	92.5	90.2	91.7	87.3	84.5	75.0	82.4	78.7	74.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

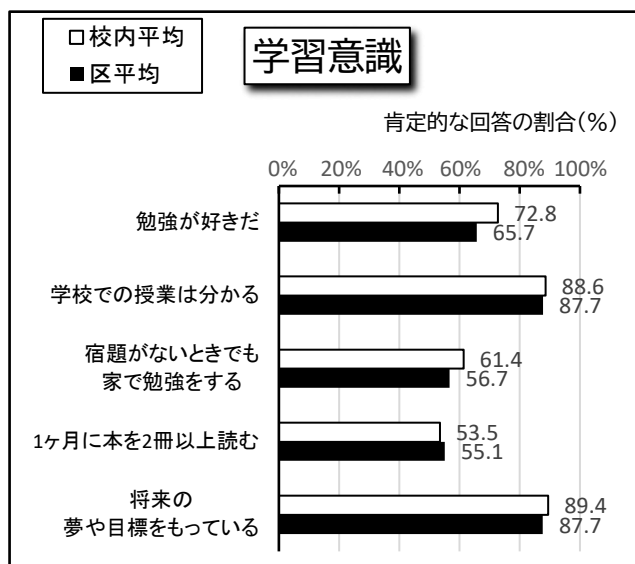
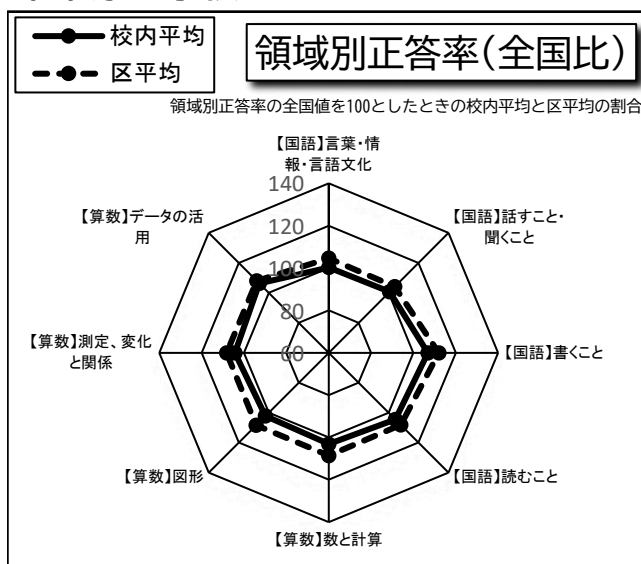
「学習定着度調査」分析結果

- 国語：学校全体の通過率は、96.4%でR7と比較して0.9ポイント向上している。領域別正答率では、全項目で区の平均を上回っている。今年度も特に、「書くこと」において区平均と比較して15ポイント高くなっており、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が現れている。また、図書館利活用推進を通じて、児童の問題解決能力の向上が図られた。
- 算数：学校全体の通過率は93.8%でR7と比較して0.1ポイント向上している。領域別正答率では、全項目で区の平均を上回っている。特に「数と計算」の領域では11ポイント高く、A Iドリル等の活用による基礎的な学習を積み上げた成果が現れている。また、デジタル学習基盤の活用により、情報活用能力を生かした「データの活用」も向上してきた。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードの徹底（指導者 担任＋専科）
授業では足立スタンダードを全教員が実施する。各時間「ふりかえり」を実施し、児童が自ら学習で積み上げた成果や課題を認識できるようにし、次への学習の指針とする。
- デジタル学習基盤の活用と図書館利活用
授業において、主体的・能動的な学習の時間を確保する。デジタル学習基盤や図書館を活用し、児童一人一人の問題意識に沿った学習を展開し、思考力や情報活用能力を向上させる。
- 個別指導（指導者 担任＋専科）
少人数のグループで学習を行い、既習内容の習熟や区・全国の学力調査、ワークテストでつまづきが多い内容、発展的な学習など習熟度に応じた内容に取り組む。
- パワーアップタイム（指導者 担任）
木曜日を除く週4日間の清掃終了後、10分間のパワーアップタイムを設定し、A Iドリルなどを活用し計算や漢字などの基礎・基本の学習に取り組み、基礎・基本の学習内容の定着を図る。
- 寺子屋タイム（指導者 担任＋専科）
毎週木曜日の放課後に既習内容に関して、習熟・定着していない内容の補習を行う。

東栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	84.5	77.8	95.1	92.7	82.2	84.4	81.8	80.0	86.3	62.7	80.0	73.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	80.6	73.5	86.4	93.2	78.5	75.4	76.9	73.1	81.7	66.7	80.9	61.7
平均正答率(R8)	71.8	72.4	90.8	92.3	81.8	84.9	71.5	72.0	64.5	59.3	62.1	65.8
平均正答率(R7)	75.7	72.6	87.3	89.9	80.3	79.7	74.0	67.4	68.3	68.5	72.7	62.1

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】国語では全ての領域で区平均をやや下回っている。「言葉・情報・言語文化」と「読むこと」の領域の数値が低いので、物語や説明文の学習で、言葉の意味や使い方をその都度確認することで児童の語彙力を高める必要がある。また、読解力を育てることは特に重要である。算数でも全ての領域で区平均をやや下回っている。特に、「数と計算」「図形」の領域で数値が低い為、A Iドリル等で反復練習を行ったり、具体物やI C Tを操作する体験的理解を取り入れた授業を行い、基礎・基本の定着を図り、学力を高めていく。

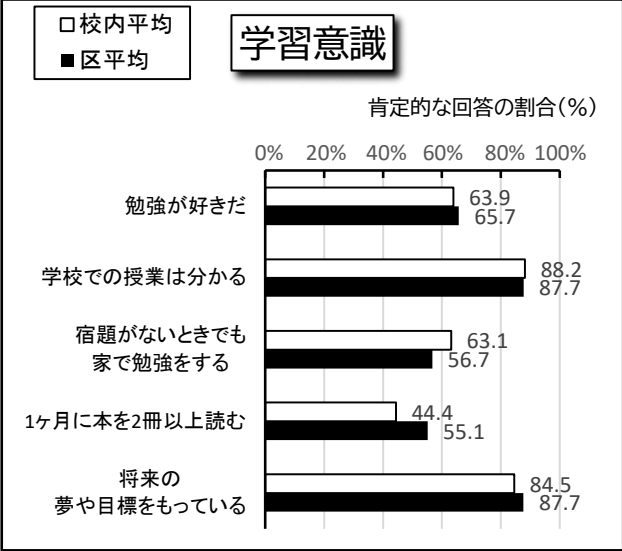
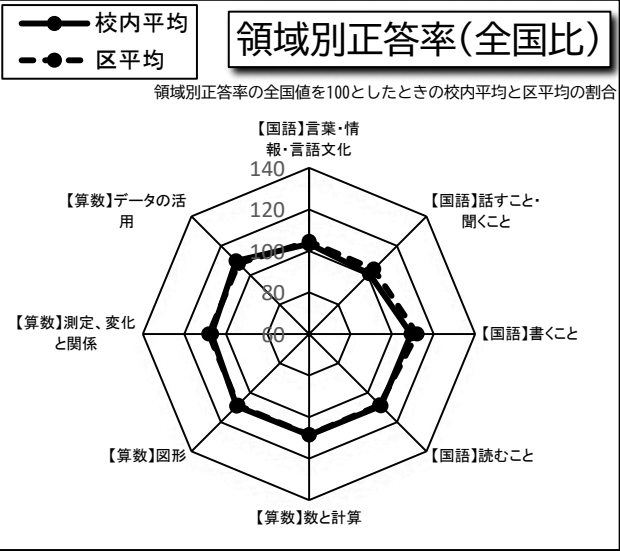
【学習意識】「1ヶ月に本を2冊以上読む」以外の数値が昨年度よりも高くなっており、区平均を上回っている。今後も日々の授業改善を行い、児童の学習意欲を高めていく。学力において読書は密接な関係であると考えため、読書習慣を身につけていく。

【通過率】全学年でほぼ通過率が昨年度より上がった。昨年度9月から朝学習で取り組んでいる読解力プリントの効果が発揮され、少しずつ文章を読み解く力がついてきたと考える。引き続き、朝学習や放課後補充学習などに計画的に取り組んでいく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 日々の授業力向上…足立スタンダードに基づいて、I C Tも活用しながら学びの質を高め、基礎基本の習熟を徹底する。分かる喜び、できる楽しさを味わわせていく。
- 校内研究授業の充実…ユニバーサルデザインの視点から、児童全員が分かりやすい授業づくりに取り組む。足立スタンダードに基づき視覚化・焦点化・共有化を意識した授業を行う。
- パワーアップタイム…朝学習の時間を週に3回設定し、算数では区調査の過去問から特に苦手な領域の問題を繰り返し解くことで苦手克服を図る。国語では、児童の実態に応じた短い物語文・説明文の読解に取り組むことで、読解力を向上させる。
- 読書タイム、読書旬間…朝読書の時間を週に1回設定している。また、年3回10日間の読書旬間を設け、読書に親しむ児童を育てていく。
- A Iドリルの活用…授業進度に合わせて精選したA Iドリルの問題（学級担任が作成したワークブックなど）に、単元末の習熟・朝学習・家庭学習などで積極的に取り組ませることで、個に応じた学びを推進する。

東澁江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	84.8	87.2	79.1	88.4	89.2	89.2	87.8	93.3	84.8	87.3	84.3	78.3
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.6	87.1	88.2	97.4	92.1	94.7	83.1	85.7	81.6	82.8	84.1	77.3
平均正答率(R8)	74.9	77.5	84.2	88.1	87.1	88.1	80.3	80.5	66.9	69.7	62.7	66.4
平均正答率(R7)	77.3	78.9	86.6	89.8	86.5	89.0	78.3	76.7	68.1	76.8	72.9	67.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

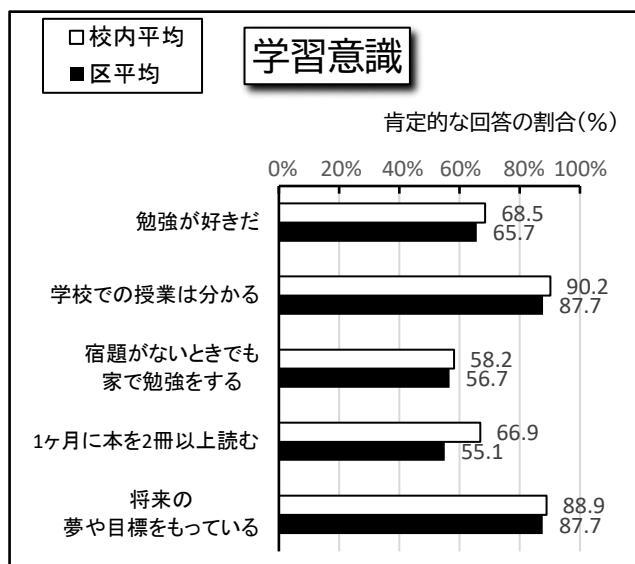
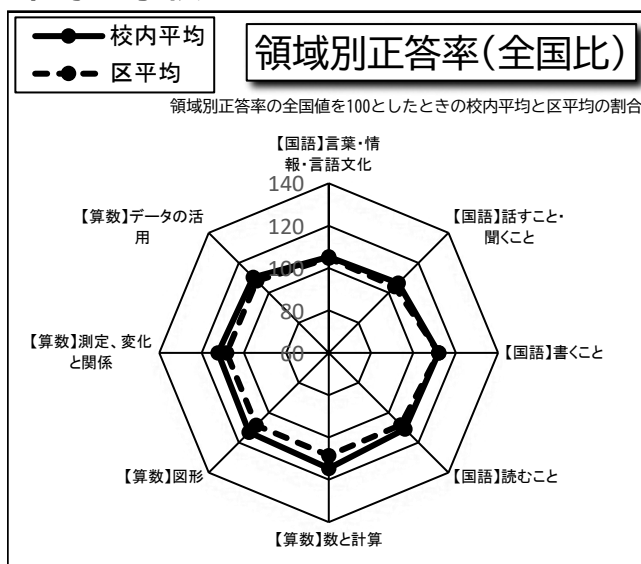
「学習定着度調査」分析結果

- 国語、算数ともに、令和8年度学力向上アクションプランの達成基準である通過率80%を上回った。
- 国語では、昨年度課題としていた漢字の読み書きは、正答率が区平均を上回る学年が多かった。全校で取り組んだA Iドリル活用月間の成果と言える。また、文章読解においても正答率が伸びた学年が増えた。一方で、活用問題の正答率が低い学年が見られた。読書活動を通してさらに読解力を伸ばすとともに、他教科とも関連させながら文章から必要な情報を選択する学習に重点を置いた指導をしていく。
- 算数では、四則計算や図形において成果を得ることができた。特に、立体図形は全学年で区平均を上回った。A Iドリルの活用の他、図形に親しめるように学習活動を工夫してきたことが成果となった。数については、昨年度に引き続き全学年で課題が残る結果となった。発達段階に応じて、具体物操作や数の視覚化など効果的な指導を検討していく。
- 意識調査において、「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目では、区平均を大きく下回り、前年度の自校の結果と比較しても6.1ポイントの差があった。今年度は中休みを5分長くしたことで、図書室への来室がしやすくなったことを生かし、図書館支援員と連携し、本に親しみやすい環境を整えていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内学力研究プロジェクトを中心に、区調査や単元末テストの分析を行い、学年や学級、さらに個の課題を明確にし、個別最適な学びの保障の実現に向けた取り組みを推進する。
- 校内研究を行い、I C T機器を活用しながら児童が考えを広げ深められる指導方法について考え、全教員の授業力を高める。
- A Iドリルの活用…全校で「A Iドリルチャレンジ」を年3回行い、既習事項の確実な定着を図る。また、単元末の習熟、モジュール、家庭学習などでも積極的に活用する。
- サマースクール…学力調査の結果から児童を抽出し、夏季休業中にA Iドリルを活用した指導を行う。今年度はバス通学のため、リモートで実施する。
- 図書ボランティアによる読み聞かせ、読書通帳の活用などを通して読書活動を充実させる。

平野小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.0	89.3	94.7	100.0	83.3	96.4	91.9	87.1	91.3	83.8	89.9	79.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.6	86.9	96.3	98.8	86.9	91.9	87.5	86.4	90.1	84.6	81.5	74.1
平均正答率(R8)	76.9	80.0	90.3	95.5	83.4	90.3	79.4	80.6	71.2	73.4	67.1	67.6
平均正答率(R7)	79.9	79.1	89.3	93.2	86.9	90.1	80.9	76.2	74.5	78.8	73.8	63.8

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○学校全体の平均正答率は、昨年度と比較して、国語は3.0ポイント下がり、算数は0.9ポイント上がった。通過率においては、国語は、1.4ポイント、算数は2.4ポイント上がった。しかし、各学年の結果を細かく見ると2～3年生は算数よりも国語、4～6年生は国語よりも算数に課題をもっている児童が多いことが分かる。

○国語では、「書くこと」の領域における校内平均正答率が区平均と同等か区平均を下回る学年が見られる。学習感想などを書かせる活動を通して、記述することへの苦手意識を低くしていくとともに、文章の大事な部分を正確に書きとることができるよう指導を充実させていく。

○算数では「数と計算」の領域における校内平均正答率が区平均を大きく上回った。これは、毎日の授業や平野スキルアップタイムを通じた計算演習の徹底が図られている何よりの証拠である。今後もこの取り組みを続け、基礎計算の定着を図っていく。日々の授業では、問題場面に合う解法を正しく選択できる判断力や文章や図を用いて自分なりの考えを表現できるような工夫を行い、児童のさらなる学力向上を図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

○全児童を対象に「平野スキルアップタイム」を昼休み後に設定し、週に3日間、10分間の補習を実施する。国語の長文読解演習や算数の計算演習を重点的にを行い、基礎学力の定着をめざす。

○区調査で目標値に達しない児童を対象にした補充教室を年2回実施する。1回目は夏季休業中、2回目は12月の第3週から4週にかけて行う。

○中学年における「そだち指導員」によるきめ細やかな個別指導を実施する。

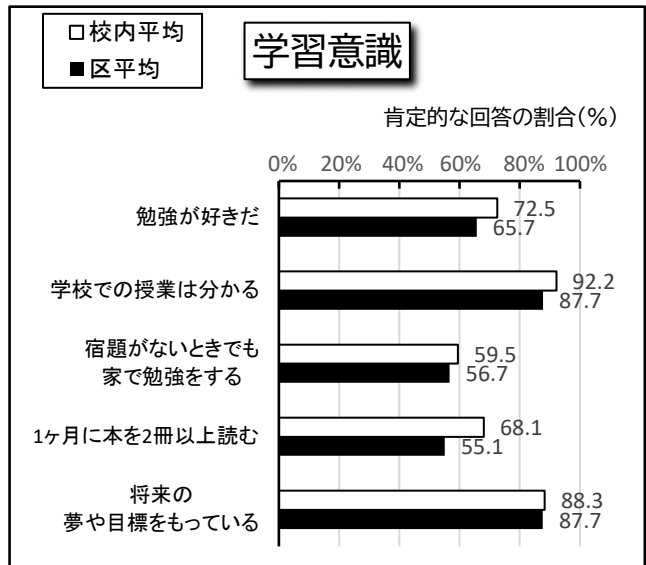
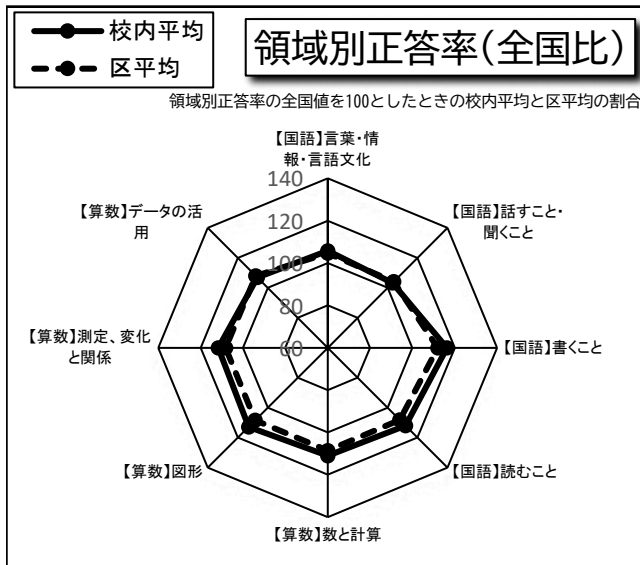
○低学年を対象に「MIMアセスメント」を実施し、基準点が未到達の児童に個別指導を実施する。「語彙力」を高めるとともに、「読む力」の基礎を固める。

○毎週水曜日の朝読書や読書旬間・月間を設け、読書に親しませ、「読む力」を向上させる。

○足立スタンダード虎の巻を基に授業展開し、問題解決型の学習を全学級で実施する。

○全学年において、毎日の宿題等でプリントやA Iドリルを活用した個別最適化された問題に取り組むことを通して、学校と家庭間で切れ目のない指導を行い、基礎学力の向上をめざす。

渚江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	90.5	87.7	98.4	96.7	83.3	87.5	96.2	94.4	79.4	74.6	94.8	86.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	85.5	83.8	84.3	92.3	94.5	94.5	80.0	78.3	90.9	89.1	78.2	65.5
平均正答率(R8)	76.9	79.0	95.0	95.1	81.2	86.0	79.9	82.0	64.4	63.3	71.0	75.4
平均正答率(R7)	78.5	77.5	85.1	88.3	90.2	91.5	75.4	69.6	76.1	82.4	69.2	61.3

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

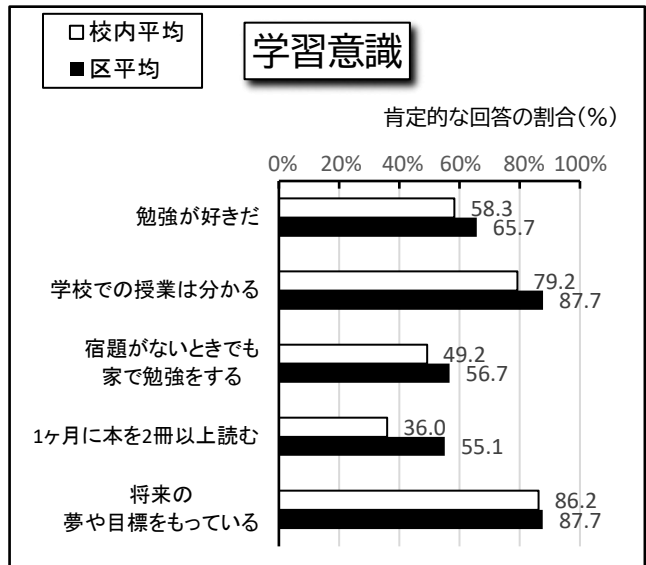
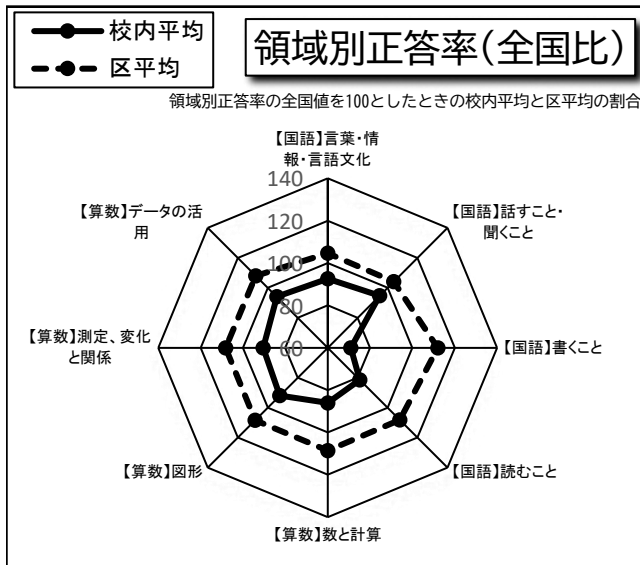
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率は国語では90.5%で、昨年度の85.5%と比較して5.0ポイント上回った。算数では87.7%となり、昨年度の83.8%と比較して3.9ポイント上回った。領域別正答率は、国語、算数ともにそれぞれの領域で区平均をやや上回っている。昨年度指導の重点とした国語の「話すこと・聞くこと」は区平均をやや上回っているが、今年度も重点として定着を図る。
- 通過率80%を下回ったのは5年生国語79.4%、算数74.6%であった。4年生時と比較して国語に差がさほど見られないが、算数においては3.7ポイント下回っており定着が必要である。
- 学習意識では、昨年度区平均を下回っていた「学校での授業はわかる」と答えた児童が92.2%と昨年度を4.7ポイント上回り、区の平均を上回る結果となった。日々の授業改善の成果が現れている。「1か月に本を2冊以上読む」は区の平均より+13ポイントと高く、指導の成果である。すべての分野において区平均を上回っており、児童が主体的に行うことのできる学習の習慣化が定着しつつある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業の中で効果的にICTを活用し、主体的で協働的な学びの推進や学習意欲、理解度の向上を図る。
- 長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として90%を合格とした定着度テストを実施する。
- かけ算九九検定を年2回実施し、3年生以上の児童が確実に九九が定着できるようにする。
- 全学年で月1回「けやきタイム」を設定し主に国語、算数の読解力に特化した指導を行う。
- 朝のパワーアップタイム（15分間）を週4回実施する。
 - ・漢字：下学年からの既習の漢字を復習する。（A I ドリル）
 - ・計算：測定、変化と関係などの習熟の低い内容に取り組む。（A I ドリル）
 - ・作文：条件付き短作文に取り組む。
 - ・読書：足立読書通帳を活用する。年間で低学年80冊以上、中学年50冊以上、高学年30冊以上を目標とする。
- 放課後補習教室を月2回実施し、つまづきのある児童への個別指導や立ち戻するための学習の充実を図る。

渚江第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	68.3	60.9	72.7	77.6	67.1	69.4	68.6	75.7	73.5	51.8	60.7	35.7
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	77.0	72.8	80.0	76.5	75.4	72.7	86.1	83.5	63.9	65.1	79.8	66.7
平均正答率(R8)	63.5	62.5	76.8	78.4	73.1	78.0	62.9	67.8	61.4	55.6	50.3	43.5
平均正答率(R7)	71.3	70.3	80.4	80.8	79.1	79.6	78.0	72.9	58.0	65.9	67.4	57.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

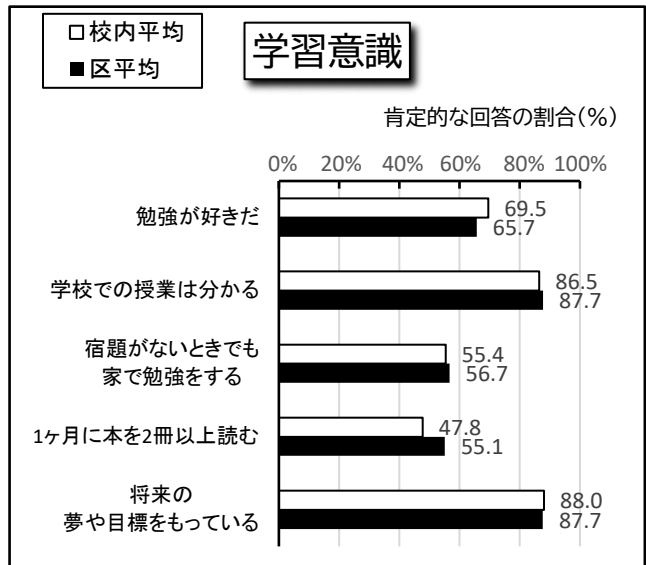
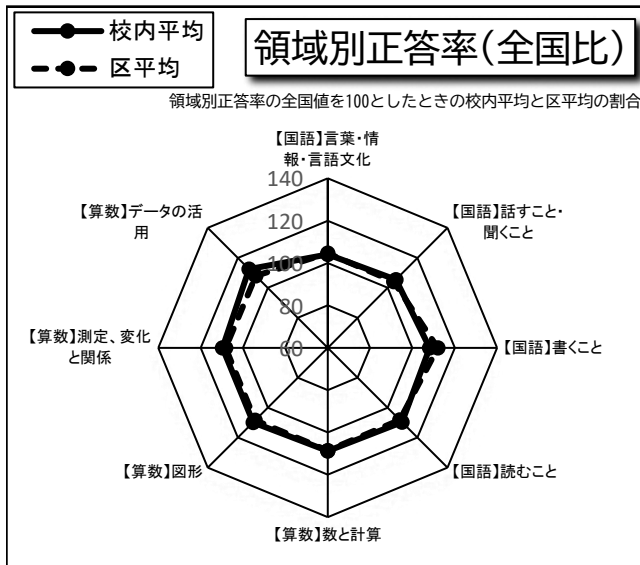
「学習定着度調査」分析結果

国語「書くこと」「読むこと」の正答率が極端に低い。学習意識調査において『1カ月に本を2冊以上読む』が36%となっているが、実際図書室や教室での状況を観察すると『文章読解を伴う読書』をしている児童はその半分程度である。教室での音読の様子を見ても、つかえずすら読むことができる児童はおおよそ20%程度である。日常的な学習の様子や学習意識の調査結果から、読書等の『文章を読む』経験が圧倒的に不足していると考えられる。算数については5・6年の通過率が非常に低い。6年については、生活指導面での指導の困難さから学習がしっかりできておらず、5年時の学習内容をしっかり振り返りながら6年の学習を進めていくことが必要である。5年では『小数』『式のきまり』『概数』に対する理解ができていないと推察される。昨年度最も正答率・通過率の良かった学年のため、児童の理解力ではなく教員の指導の問題があったと考えられる。混乱のもととなっている要因を分析し、対応が急務である。

学校による学力向上への主な取り組み

国語・算数とも児童の文章読解力がボトルネックとなっていると考える。それを解消するため1・2年生で連携しMIMによる指導で語彙の獲得を着実に進める。また、全学年においてそれぞれの実態に応じて文章読解の練習を行う。100字程度の短い文章から600字程度の文章に徐々にステップアップし、文章読解の基礎を築く。朝のパワーアップタイムおよび国語の授業を活用して継続して行うことで、着実なボトムアップを目指す。さらに、漢字の定着が不十分であることも文章の読解を困難にしていることから、週1回程度の小テストを漢字チャレンジとして繰り返し実施し、児童の意欲・向上心を高めつつ着実な漢字の獲得を目指す。校内研修等を活用して文学的文章と説明的文章の指導事項をおさえ根拠を明確にした授業を充実させられるよう指導力の向上を図る。図書室および教室での読書活動を活用し、日常的な読書週間を確立できるよう促す。算数においては、数の理解に関する学習について、時間をかけて理解を深められるよう柔軟にカリキュラムを編成する。既習事項の確認・振り返りの充実を図るようにし、既習事項への理解ができていない児童については個別に指導を行う。

保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	89.2	87.0	93.9	95.9	97.8	93.8	90.2	88.5	86.7	84.4	78.4	73.1
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.4	86.4	88.6	100.0	87.8	88.0	91.1	91.1	87.0	85.2	87.8	69.4
平均正答率(R8)	76.1	78.2	87.1	90.9	88.0	90.2	78.8	79.3	71.0	72.4	62.3	64.3
平均正答率(R7)	79.7	79.7	87.7	95.6	85.7	86.9	82.0	77.2	70.1	78.5	77.9	65.7

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

「学校での授業が分かる」の項目が、昨年度の83.8%から86.5%に増加した。今後もICTを効果的に活用した授業づくりを推進するとともに、児童同士が考えを交流させ、新たな思考や気づきを導き出せるような「児童主体」の授業づくりに努める。

6年生の正答率が国語・算数共に60%台である。小学校卒業までに、「基礎の徹底」と「思考・表現力の育成」を両輪に、小学校の総復習と中学校への円滑な接続をめざした指導の充実を図っていく。

国語の「書くこと」については平均正答率が昨年度よりも下がっている。児童の書く力を引き上げる活動が昨年度以上に必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

1 授業の充実（国語・算数の質的向上）

【共通】全学年で「めあて」と「まとめ」「振り返り」を構造化した、一貫性のある授業を展開する。

【国語】対話を通じて深い読解力と語彙力を培う。

【国語】シンキングツールを用いて文章構成を可視化し、論理的思考力を高める。

【算数】解法のプロセスを言葉や図で説明し合い、答えに至る思考の言語化を徹底する。

【算数】一つの問題に対して複数の解法を導き出し、多面的な見方や考え方を育てる。

2 資質能力の育成（認知・非認知能力の両輪育成）

・要約した内容をミニ発表する場を設け、他者への傾聴姿勢と自己表現力を同時に育む。

・算数の誤答原因を自己分析する振り返りを重視し、粘り強く挑戦する力を育てる。

・知識を測るテストに加え、自己評価や相互評価を組み合わせた多面的な評価を実施する。

3 ICT活用の充実（一人一台端末の日常化）

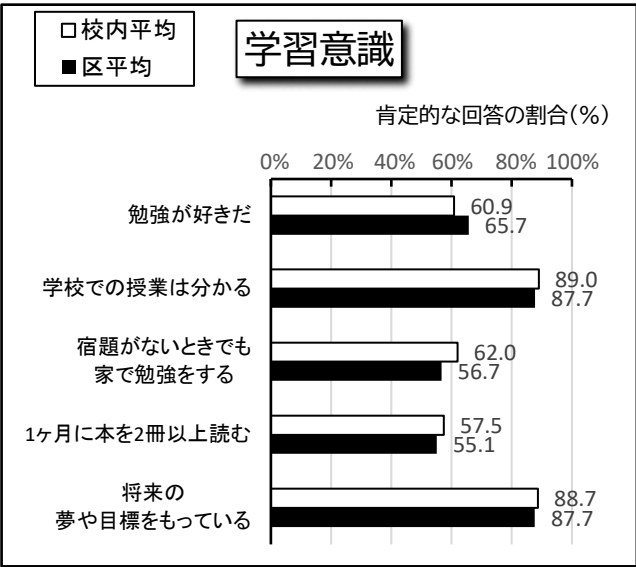
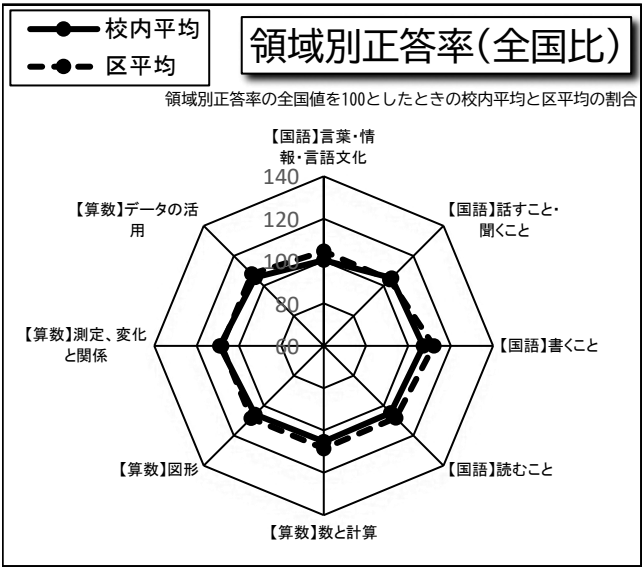
・児童の意見を一人一台端末で即時に共有・可視化し、協働的な学び合いを活性化させる。

・AIドリルを活用して個々のつまづきに応じた学習に取り組み、基礎学力の徹底を図る。

4 「子どもと向き合う時間」「放課後補習教室」の有効活用（個別最適な支援）

・つまづきを解消する時間を確保し、子どもの「わかった」を積み重ねていく。

宮城小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	87.3	83.3	88.7	92.3	77.6	89.8	92.6	94.1	86.6	73.1	89.7	71.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	78.1	78.6	78.3	85.0	90.0	91.4	72.4	76.0	78.8	71.3	71.6	71.6
平均正答率(R8)	73.3	74.8	87.9	87.5	77.8	87.9	75.6	80.1	66.6	63.8	67.2	65.6
平均正答率(R7)	73.7	73.0	79.1	83.8	87.3	87.4	71.1	67.7	68.2	70.8	67.3	62.3

○目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
○通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】
○平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○学校全体の通過率は、国語が87.3%、算数は83.3%であった。国語・算数ともに80%を上回っており、学習内容の定着が図られてきた。昨年度と比較すると、国語は+9.2ポイント、算数は+4.7ポイントとなり、学校全体で行った放課後補充教室の成果を感じられた。一方で平均正答率は、R8年度国語73.3%で-0.4ポイント、R8年度算数74.8%で+1.8ポイントと昨年度とほぼ変化がなかった。学年が上がるにつれて平均正答率が下がっていることから低学年から学習の基礎を積み上げ、正答率を高められるよう授業改善を図る。

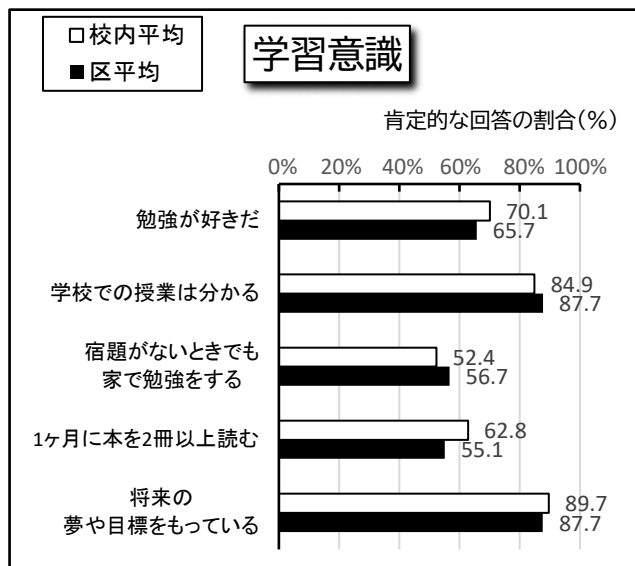
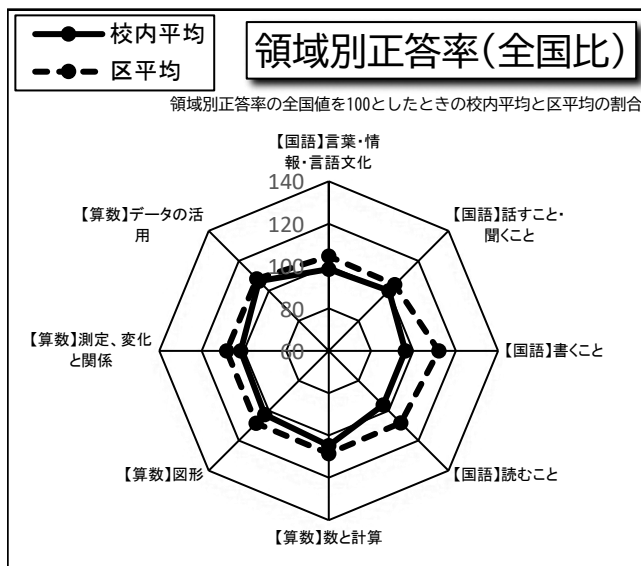
○学習意識調査の「宿題がない時にも家で勉強をする」の項目では62.0%と、区平均より5.3ポイント上回っている。家庭学習を推進する取り組みを行ったことにより、児童が自主的に学習に取り組む姿勢が高まってきた。

○「学校での授業は分かる」の項目は区平均よりも1.3ポイント上回っているが、「勉強が好きだ」の項目では区平均を4.8ポイント下回っている。今後、児童が「分かって楽しい」から「もっと勉強したい」と感じられるような授業づくりに学校全体で取り組んでいく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 学習を支えるための取り組み
 - あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢を学校全体で意識させる。
 - 学習に必要な掲示物を精選し、安心して学習に取り組める教室環境づくりを推進する。
- 基礎学力定着のための主な取り組み
 - 各種調査および単元テストでのつまづきを最小限にするための校内の情報共有。
 - 補充教室の実施（放課後、その他）（前学年の未定着内容、現学年の未定着内容）。
 - 単元のまとめに、基礎の定着を図るデジタルテストを実施する。
 - モジュールの時間を活用した計算演習等による基礎計算の定着。
 - 読書活動、宮城AIタイムの充実
- 思考力・判断力・表現力等および主体的に学習に取り組む態度の育成のための取り組み
 - 家庭学習の改善、MKKG（宮城キラキラ家庭学習）の掲示、自主学習の実施。
 - ICTを活用した自身の学びの振り返りや自分の考えや思いを伝える活動の充実。

六木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	80.6	78.5	88.9	87.0	76.7	78.3	76.4	83.6	75.0	71.4	85.7	73.0
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	79.7	85.1	75.9	93.1	67.8	83.1	80.0	86.7	87.3	81.0	85.5	82.9
平均正答率(R8)	70.5	73.8	86.6	90.3	78.2	81.9	71.5	74.9	60.0	64.4	62.5	64.2
平均正答率(R7)	72.7	77.9	80.3	90.5	78.3	84.3	72.4	75.0	66.9	77.4	69.6	68.6

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

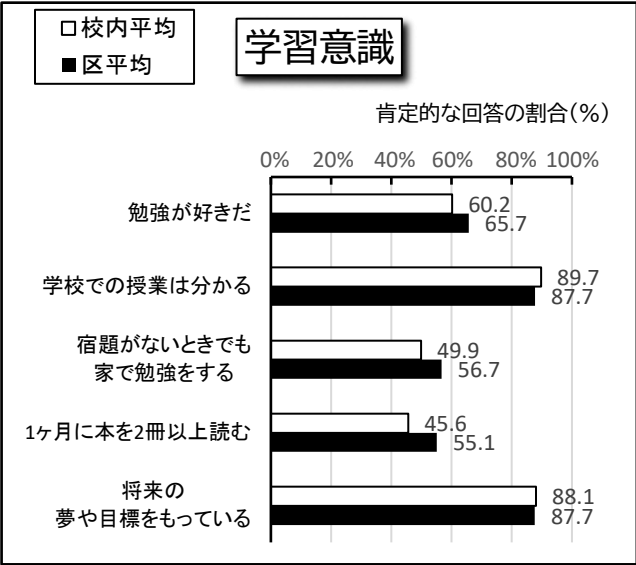
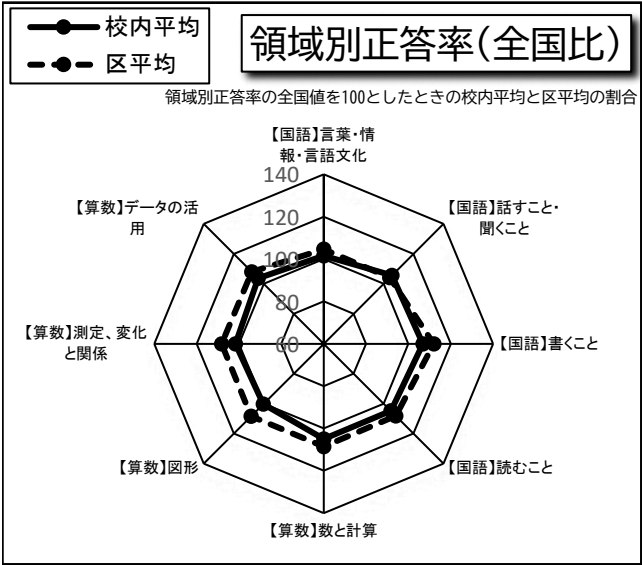
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、昨年度と比較し、国語は0.9ポイント上がり、算数は6.6ポイント下がった。
- ・学年別・教科別の通過率は、全学年の算数と4・5年生の国語は昨年度を下回った。一方、2・3年生の国語は10ポイント近く上回っている。
- ・領域別正答率は、算数の領域については、どの項目も区平均とほぼ並んでいる。しかし、国語の領域については、全ての観点で区平均を下回っている。特に「書くこと」と「読むこと」が区平均を大きく下回っている。
- ・学習意識は、「勉強が好きだ」「1か月に本を2冊以上読む」「将来の夢や目標をもっている」の項目では区の平均を上回った。しかし、「宿題がないときでも家で勉強する」は4.3ポイント、「学校での授業はわかる」は2.8ポイント下回っており、差が顕著である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・校内研究は国語科に視点をおき、「自分も相手も大切にする子の育成～伝え合い活動を通して～」をテーマとした。「『学びたい、できるようになりたい』という自分を肯定し、粘り強く取り組む姿」にめざす児童像を設定し、年間3本の国語の研究授業と教師の授業力向上をめざしたOJT研修を実施する。また、学年・担当の枠を超えた教師のペアやトリオを作り、年間6回以上ペア・トリオ同士で授業を見合う機会を設ける。教師の授業力を向上させることで児童の学力の向上につなげたい。
- ・全学年で文章読解ドリルを購入し、週4日設定されたパワーアップタイムに取り組む。初見の文章でも内容を捉えたり、問題に答えられるようにしていく。
- ・算数の区調査の結果を分析し、中間下位層の児童に特に課題が見られるピックアップ10問題を全ての学年で作成した。それを次学年に引継ぎ、該当単元の授業で留意して指導したり、適用問題や単元テスト時に、ピックアップ問題に取り組ませたりして、本校の全体の課題を改善していく。
- ・夏季補充教室では、下位層を各学年10名呼び、教員7名で基礎的な学力の定着を図る。

本木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	88.4	78.4	92.3	94.2	74.6	76.2	89.3	76.8	91.1	73.9	98.1	71.2
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	86.6	80.1	79.3	74.6	92.3	98.1	88.0	88.0	86.7	74.6	87.5	67.9
平均正答率(R8)	74.7	73.9	89.8	91.6	77.6	81.8	76.9	71.6	68.1	62.2	64.3	65.1
平均正答率(R7)	76.2	74.8	80.9	82.6	88.1	88.7	78.1	74.4	65.9	74.9	72.9	57.9

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値
◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】
◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語

学校全体の目標値に対する通過率は88.4%で、令和7年度の86.6%を上回った。学年別に前年度の通過率と比較すると、2年生、4年生、5年生、6年生で向上が見られ、特に2年生では13.0ポイント、6年生では10.6ポイントの伸びが見られた。領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」において区平均を上回った。一方で、学年によっては前年度を下回る結果も見られた。今後も、児童が主体的に文章を読み取り、自分の考えを表現する活動を充実させるとともに、既習内容の確実な定着を図り、さらなる学力向上に努めていく。

○算数

学校全体の目標値に対する通過率は78.4%であった。令和7年度の80.1%を下回った。学年別に見ると、2年生及び6年生では前年度を上回る結果となり、特に2年生では19.6ポイントの大きな伸びが見られた。一方領域別正答率では、全体的に区平均を下回っており、「数と計算」「図形」「測定、変化と関係」など基礎的・基本的な内容に課題が見られる。今後は、授業における反復学習や習熟度に応じた個別指導を充実させるとともに、家庭学習との連携を図りながら、基礎学力の確実な定着と活用する力の育成に努めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

○足立スタンダードを基にした授業改善

若手教員を中心に、教科指導専門員による授業観察、事前・事後指導を通して授業改善に努めている。また、授業力向上のため、職員同士で授業観察を行っている。

○朝学習

「計算コンクール」「視写」「A Iドリル」「読書」などを曜日ごとに取り組んでいる。

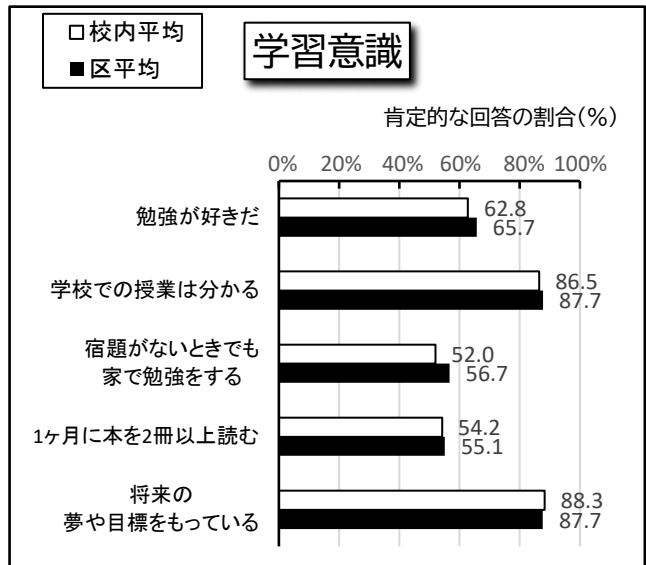
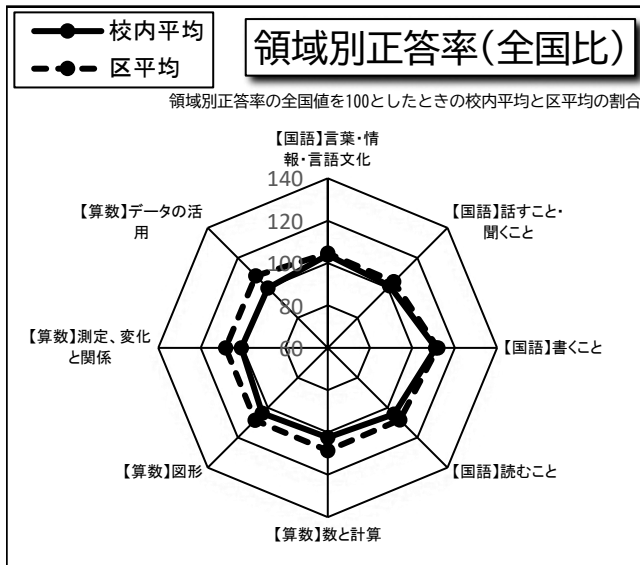
○ぐんぐんタイム（指導者 担任＋専科）

算数の単元テスト等でつまづきが見られた児童を、週に一度放課後に指導している。

○九九免許証

かけ算九九を学んだ児童を対象に、教職員が九九の問題をランダムに出題し、最終問題をクリアした児童に、校長から九九免許証を配付している。

弥生小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R8)			68.0	73.8	69.8	72.6	55.5	56.8	50.0	52.8	46.1	50.9
通過率(R8)	87.3	75.4	88.1	85.1	89.0	84.7	85.2	68.9	88.7	71.9	85.6	67.8
目標値(R7)			72.5	74.8	72.2	74.2	60.5	59.0	50.0	62.0	53.5	50.0
通過率(R7)	88.3	82.7	87.7	97.3	83.9	82.3	91.2	89.9	90.9	82.0	87.2	67.0
平均正答率(R8)	74.5	71.8	85.7	85.1	86.4	87.4	74.1	69.6	70.0	65.1	63.5	60.6
平均正答率(R7)	78.9	76.8	86.8	91.7	82.9	83.4	82.4	78.1	72.8	78.1	75.7	62.0

◎目標値：本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率：目標値以上の正答があった児童・生徒の割合【目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)】

◎平均正答率：本調査を受検した児童・生徒の正答率（出題数中何問正解したかの割合【正答数÷出題数×100(%)】）の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・通過率が昨年度に比べ、国語が1.0ポイント、算数が7.3ポイント下回る結果となった。学年別で見ると4年生と6年生の算数の通過率が70%を切っている。
- ・平均正答率は、昨年度と比べ、国語が4.4ポイント、算数が5ポイント下回る結果となった。学年別で見ると、4年生の算数、5年生の算数、6年生の国語と算数が70%を切っている。
- ・領域別正答率は、国語は概ね区平均と同程度ではあるが、算数が全体的に下回っているため、対策が必要である。
- ・学習意識調査についても、区平均と同程度ではあるが、「宿題がないときでも家で勉強をする」と答えている児童が約50%に留まっており、家庭学習の対策をする必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①基礎学力の定着（国語・算数）
タブレット端末のAIドリルを活用し、区調査の結果をもとに苦手な領域の指導を行う。
- ②朝学習・放課後学習の実施
区調査やテストの結果を基に、苦手な領域の振り返りプリントなどを行い個別指導を行う。また、読書月間と称して読書に親しむ期間を設けている。
- ③国語・算数コンテストの実施
既習事項を確実に身につけるために、区調査の問題を解き直す。9割以上を合格として賞状を渡すなど、児童に達成感を持たせる。
- ④教師の指導力向上の取り組み
互いの授業を見合い、教材の工夫や児童へのアプローチ方法を検討している。指導技術を指摘・補完し合い、日々の授業改善に繋げている。